

昭島市教育委員会の事務事業
に関する点検及び評価報告書
(令和3年度分)

令和4年9月

昭島市教育委員会

目 次

	ページ
はじめに	1
第1章 昭島市総合教育会議	
1 昭島市教育に関する大綱	2
第2章 教育委員会の組織及び活動状況	
1 教育委員会の構成	4
2 教育委員会事務事業を主管する組織	4
3 教育委員会の会議における審議内容一覧	
(1) 総合教育会議(企画政策課所管)	6
(2) 定例会	6
(3) 臨時会	11
4 教育委員会委員の主な活動	12
5 教育委員会委員の研修	14
第3章 主要施策の点検及び評価	
プラン1 確かな学力の定着	
主要施策 1 学習指導要領の確実な定着	15
主要施策 2 理数教育の充実	21
主要施策 3 読書活動の推進と言語能力の育成	22
主要施策 4 個に応じた支援の充実	26
プラン2 豊かな心の醸成	
主要施策 1 人権教育の推進	33
主要施策 2 道徳教育の充実	35
主要施策 3 体験活動の充実	37
主要施策 4 いじめ問題への対応	39
プラン3 健やかな体の育成	
主要施策 1 体力向上の推進	42
主要施策 2 学校給食・食育の充実	46
主要施策 3 学校保健安全の推進	50
プラン4 輝く未来に向かって	
主要施策 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実	53
主要施策 2 日本の伝統文化教育の充実	55
主要施策 3 家庭・地域の教育力の向上	57
主要施策 4 学校運営の改善	59
主要施策 5 教育環境の整備	61
主要施策 6 情報教育の推進	63
主要施策 7 環境教育の推進	65
主要施策 8 国際理解教育の推進	66
主要施策 9 キャリア教育の推進	69
プラン5 生涯学習の推進	
主要施策 1 生涯学習	71
主要施策 2 図書館活動	75
主要施策 3 文化・芸術	79
主要施策 4 スポーツ・レクリエーション	82
主要施策 5 文化財	86
第4章 令和3年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」 の調査結果	90
第5章 令和3年度「昭島市立学校教育推進計画」の数値目標及びそれぞれ に対する実績について	107
第6章 点検及び評価に関する有識者からの意見	146

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、効果的な教育行政の推進を図るとともに教育委員会活動の透明性をより高め説明責任を果たすため、毎年、自らの権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を議会に報告し、公表することが義務付けられています。

平成27年4月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、教育委員会制度、そして教育行政の在り方が大きく変化しています。

昭島市教育委員会では、教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、更なる教育活動の推進に向けた『第2次昭島市教育振興基本計画（平成27年度～平成32年度）』（新型コロナウイルス感染症の影響により、計画期間を1年延伸）を策定しました。この計画に基づく教育施策及び事業について、学識経験を有する方の知見を活用し、点検評価を行いました。

この報告書において課題とされた事項について、更に検討を加え、令和4年度から始まる新たな『昭島市教育振興基本計画（令和4年度～令和8年度）』に基づく昭島市の更なる教育活動の推進に向け、学校教育、生涯学習の充実に努めてまいります。

令和4年9月

昭島市教育委員会

第1章 昭島市総合教育会議

1 昭島市教育に関する大綱

第五次基本構想における、まちづくりの理念である「人間尊重」と「環境との共生」のもと、本市の教育に関する大綱を次のとおり定めます。

- 市民憲章と人間尊重の精神を基調とした教育を推進します。
- 子どもたちが常に心身ともに健康で生きがいを持ち、創造性に富み、社会の一員としての自覚を有し、人間性豊かな市民として成長することを目指し、その実現に努めます。
- 学校教育においては、学校、家庭、地域の密接な連携のもと、子どもたちが生涯を通して未来社会の変化に対応できるよう自主的精神を培い、国際的視野を持ち、健全で豊かな心をはぐくみ、個性を生かすための教育を推進します。
- 社会教育においては、地域の文化、教育、スポーツ活動を通して市民誰もが、あらゆる機会に、生きる喜び、学ぶ楽しさを得られ、生涯にわたって主体的に学び続けることができ、市民相互と地域のつながりを育てていく生涯学習社会の実現を目指します。
- 子どもから高齢者までが生涯にわたっていきいきと学習できる環境の充実を図り、もって豊かな文化の創造とふるさと昭島を愛する心を育て、且ついのちの大切さや環境との共生を考え、ひろく国際社会に貢献できる人材の育成を図ります。

基本方針

【学校教育】

基本方針1 確かな学力の定着

- 1 学習指導要領の確実な定着
- 2 理数教育の充実
- 3 読書活動の推進と言語能力の育成
- 4 個に応じた支援の充実

基本方針2 豊かな心の醸成

- 1 人権教育の推進
- 2 道徳教育の充実
- 3 体験活動の充実
- 4 いじめ問題への対応

基本方針3 健やかな体の育成

- 1 体力向上の推進
- 2 学校給食・食育の充実
- 3 学校保健安全の推進

基本方針4 輝く未来に向かって

- 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実
- 2 日本の伝統文化教育の充実
- 3 家庭・地域の教育力の向上
- 4 学校運営の改善
- 5 教育環境の整備
- 6 情報教育の推進
- 7 環境教育の推進
- 8 国際理解教育の推進
- 9 キャリア教育の推進

【生涯学習】

基本方針1 生涯学習

- 1 生涯学習推進体制の整備
- 2 生涯学習の推進
- 3 公民館活動の充実

基本方針2 図書館活動

- 1 図書館サービスの充実
- 2 図書館資料の充実
- 3 子ども読書活動の支援
- 4 サービス網の整備

基本方針3 文化・芸術

- 1 市民文化の育成
- 2 自主的な活動の支援
- 3 文化芸術に関する意識の高揚
- 4 文化芸術に接する機会の拡充
- 5 文化芸術を担う人材の育成

基本方針4 スポーツ・レクリエーション

- 1 スポーツ振興計画の推進
- 2 スポーツライフの形成
- 3 スポーツ・レクリエーションの基盤整備

基本方針5 文化財

- 1 文化財の保護・保存
- 2 文化財の活用

第2章 教育委員会の組織及び活動状況

1 教育委員会の構成

※ 令和4年3月31日現在

職名	氏名	任期期間	期数
教育長	山下 秀男	平成31年4月1日から 令和4年3月31日まで	1期
委員 (教育長職務代理)	紅林 由紀子	令和3年6月24日から 令和7年6月23日まで	6期
委員	石川 隆俊	平成30年12月25日から 令和4年12月24日まで	5期
委員	氏井 初枝	令和2年4月1日から 令和6年3月31日まで	2期
委員	白川 宗昭	平成31年4月8日から 令和5年4月7日まで	2期

2 教育委員会事務事業を主管する組織

教育委員会

※ 令和3年4月1日現在

部	課	係	主な分掌事務
学校教育部	庶務課	庶務係	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会の会議に関すること。 条例、規則及び規程に関すること。 予算及び経理に関すること。 事務局及び課内庶務に関すること等
		施設係	<ul style="list-style-type: none"> 教育施設の建設計画に関すること。 教育機関の設置、管理及び廃止の手続きに関すること。 教育施設の新営工事及び維持修繕工事に関すること。 教育施設関係の補助金に関すること等
		GIGAスクール推進担当	<ul style="list-style-type: none"> 学校の電子計算組織の管理及び運用に関すること。
	指導課	学務係	<ul style="list-style-type: none"> 学齢児童及び学齢生徒の就学並びに児童生徒及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。 通学区域に関すること。 学級編制に関すること。 児童及び生徒に係る就学奨励に関すること等
		教職員係	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の任免の内申その他人事に関すること。 教職員の服務に関すること。 教職員の給与、旅費、退職手当等に関すること。 教職員の福利厚生に関すること等
		指導係	<ul style="list-style-type: none"> 指導事務予算に関すること。 教育計画事業の推進に関すること。 教科書採択に関すること。 教育振興基金に関すること等
		特別支援教育係	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の推進に関すること。 教育相談及び適応指導に関すること。 就学、転学等の相談に関すること。 巡回相談に関すること等
		指導主事	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成、実施に関すること。 教育施策の企画、実施に関すること。 校内研究等、教職員の研修に関すること。 学校教育に関する専門的事項の指導に関すること。

部	課	係	主な分掌事務
学校教育部	学校給食課	庶務係	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の計画に関すること。 配送に関すること。 学校給食運営審議会に関すること。 業者登録に関すること等
		収納係	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食費に関すること。 給食物資の支払いに関すること。
		共同給食係	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食共同調理場において調理される学校給食に係る次の事務に関すること。 (1) 献立に関すること。 (2) 調理に関すること。 (3) 食品の管理に関すること。 (4) 衛生管理に関すること等
		自校給食担当	<ul style="list-style-type: none"> 給食調理施設を有する学校において調理される学校給食に係る事務に関すること。
		給食施設整備担当	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の施設整備に関すること。
		給食施設電気設備担当	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の施設整備に関すること。
生涯学習部	社会教育課	社会教育係	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育及び生涯学習の総合調整に関すること。 社会教育及び生涯学習に係る行政相談に関すること。 社会教育関係団体の育成及び援助に関すること等
		文化財係	<ul style="list-style-type: none"> 市史及び文化財の保護、調査に関すること。 郷土資料室の管理運営に関すること。
	スポーツ振興課	スポーツ振興係	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員に関すること。 生涯スポーツの推進に関すること。 関係団体との連携及び協働に関すること。 スポーツの指導者の研修に関すること。 総合スポーツセンターの管理及び運営に関すること等
	市民図書館管理課	管理係	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理業務の評価・モニタリングに関すること。 図書の新入及び廃棄の決定に関すること。 学校等市内関係機関及び団体との連携調整に関すること。 図書館協議会に関すること。
	市民会館・公民館	管理係	<ul style="list-style-type: none"> 市民会館・公民館の施設及び設備の維持管理に関すること。 市民会館・公民館の利用承認並びに使用料の徴収、付属設備等の使用料の免除及び還付に関すること。 市民会館・公民館の庶務に関すること。 市民会館の自主文化事業に関すること等
		事業係	<ul style="list-style-type: none"> 公民館運営審議会の庶務に関すること。 各対象別、課題別講座等の開設に関すること。 討論会、展示会、音楽会、美術展その他の集会に関すること。 公民館事業に係る情報収集及び提供に関すること等

3 教育委員会の会議における審議内容一覧

(1) 総合教育会議（企画政策課所管）

会議名 (開催日)	議 題
第1回（令和3年3月24日） 傍聴者3名	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想の実現に向けた課題について ・生涯学習環境のデジタル化における課題について

(2) 定例会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第4回 (令和3年4月15日) 傍聴者9名	議 案	・昭島市社会教育委員の委嘱について
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市いじめ防止対策推進基本方針の改正について ・昭島市いじめ問題調査委員会への調査依頼について（非公開）
第5回 (令和3年5月20日) 傍聴者6名	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則 ・令和2年度指定学校変更・区域外就学の処理状況について ・令和2年度就学支援の状況について ・令和3年度昭島市立学校教職員異動の概要について ・令和3年度昭島市立小・中学校学級編制の状況について ・令和3年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・令和4年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択方法について ・昭島市公立小・中学校教育研究会補助金交付要綱の一部改正について ・昭島市いじめ問題の調査に関する条例の制定について ・アキシマエンス企画展「東京オリンピックと昭島」について ・昭島市民図書館主催事業について ・令和3年度公民館事業計画 ・その他5件
	議 案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市社会教育委員の委嘱について ・令和3年度昭島市青少年教育協力者感謝状被贈呈者について ・昭島市民図書館協議会委員の委嘱について
	協議事項	な し

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第5回	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市立中学校の学校薬剤師の委嘱について ・令和2年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について ・令和3年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）について ・昭島市転学・入級判定委員会設置要綱の一部改正について ・昭島市就学支援委員会委員の委嘱について ・昭島市転学・入退室判定委員会委員の委嘱について ・昭島市難聴・言語障害通級指導学級入退級判定委員会委員の委嘱について ・令和3年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・新型コロナウイルス感染症対策における緊急事態宣言に係る学校行事等の変更について ・市立会館の改修工事に伴う休館について ・「白神のアキシマエンシス」の寄贈について ・屋外運動施設の公共施設予約システムによる運用について ・スポーツ・レクリエーションフェスティバルの中止について ・その他3件
第6回 (令和3年6月11日) 傍聴者6名	議 案	な し
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度昭島市立学校で使用する中学校社会科教科用図書の採択方法について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言に係る昭島市立小・中学校の対応について ・新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言延長後の公共施設の再開について ・昭島市文化芸術推進基本計画策定検討委員会要綱の制定について ・昭島市文化芸術推進基本計画策定庁内検討委員会要綱の制定について ・郷土資料室企画展「アキシマクジラ化石発見60周年記念事業」について ・スポーツ推進計画策定庁内検討委員会要綱の制定について ・昭島市体育協会の一般社団法人化について ・昭島市議会令和3年第2回定例会の日程について ・その他2件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第7回 (令和3年7月15日) 傍聴者6名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について ・昭島市民図書館協議会委員の委嘱について
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言に係る昭島市立小・中学校の対応について ・新型コロナウイルス感染症における緊急事態措置等に伴う市の対策について ・令和3年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・令和2年度昭島市学校給食費会計決算報告について ・青少年育成事業について ・第68回昭島市民体育大会について ・第103回全国高等学校野球選手権大会東西東京大会予選ネット多摩昭島スタジアム(昭島市民球場)での開催について ・その他10件
第8回 (令和3年8月20日) 傍聴者7名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校知的障害特別支援学級の通学区域の変更について ・昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書(令和2年度分)について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来をひらく」発表会の実施について ・昭島市屋外運動施設利用要綱の制定について ・令和2年度昭島市教育福祉総合センター及び昭島市民図書館の管理に関する指定管理者モニタリング・評価報告について ・昭島市民図書館主催事業について ・昭島市公民館主催事業について ・その他1件
第9回 (令和3年9月17日) 傍聴者6名	議案	なし
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市立小中学校の学校医の委嘱について ・昭島市民文化祭の開催について ・昭島市民図書館・郷土資料室主催事業について ・その他3件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第10回 (令和3年10月21日) 傍聴者5名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・昭島市奨学金等支給条例に基づく奨学生の決定について(非公開)
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度昭島市一般会計第5号補正予算<教育委員会関係>について ・昭島市いじめ問題調査委員会について ・学校行事の変更について ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について ・令和3年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(東京都統一体力テスト)の結果について ・令和3年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の実施について ・1月の社会教育関係行事について ・昭島市民図書館主催事業について ・その他2件
第11回 (令和3年11月18日) 傍聴者7名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級教科用図書(一般図書)の変更について ・令和2年度昭島市立学校におけるいじめ、不登校、暴力行為の状況について ・昭島市民図書館・郷土資料室主催事業について ・その他2件
第12回 (令和3年12月16日) 傍聴者4名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度昭島市立学校における教育課程編成基準について
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度昭島市立学校卒業式における告辞及び令和4年度昭島市立学校入学式におけるお祝いの言葉について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度校長職選考、教育管理職選考、4級職選考、主任選考結果について(非公開) ・昭島市教育振興基本計画(素案)に係るパブリックコメントの実施について ・昭島市特別支援教育推進計画(素案)に係るパブリックコメントの実施について ・昭島市スポーツ推進計画(素案)に係るパブリックコメントの実施について ・昭島市子ども読書活動推進計画(素案)に係るパブリックコメントの実施について ・教育委員会と市立小中学校長との情報交換会について ・令和3年度昭島市学校給食費会計上半期報告について ・その他4件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第1回 (令和4年1月20日) 傍聴者3名	議案	・昭島市教育委員会の教育目標の改正(案)について
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果について ・昭島市立小学校学校医の委嘱について ・特別支援学級一般図書の変更について ・令和3年度「学校給食食育展示」の実施について ・その他4件
第2回 (令和4年2月17日) 傍聴者5名	議案	・令和4年度昭島市立学校校長等の任用に関する内申について(非公開)
	協議事項	・昭島市指定文化財の指定に関する諮問について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度教育施策推進の基本的考え方について ・昭島市教育振興基本計画(素案)に係るパブリックコメントの結果について ・昭島市特別支援教育推進計画(素案)に係るパブリックコメントの結果について ・昭島市スポーツ推進計画(素案)に係るパブリックコメントの結果について ・昭島市子ども読書活動推進計画(素案)に係るパブリックコメントの結果について ・総合スポーツセンター改修工事に伴う一部休館について ・その他4件
第3回 (令和4年3月24日) 傍聴者3名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市教育振興基本計画 ・昭島市特別支援教育推進計画 ・昭島市スポーツ推進計画 ・昭島市子ども読書活動推進計画 ・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・令和4年度昭島市立学校の教育課程の受理について ・昭島市指定文化財の指定について ・昭島市青少年委員の委嘱について ・昭島市スポーツ推進委員の委嘱について
	協議事項	なし

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第3回	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度昭島市立学校校長・副校長等の一覧について (非公開) ・令和4年度昭島市一般会計予算<教育委員会関係>について ・昭島市教育委員会事務局の組織改正について ・令和3年度昭島市立中学校における進路決定の状況について ・昭島市立小・中学校特別支援学級行事補助金交付要綱の一部改正について ・中学校給食の親子調理方式への移行等について ・令和4年度昭島市学校給食費会計予算について ・昭島市成人式実施要綱の一部改正について ・その他4件

(3) 臨時会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第1回 (令和3年6月28日)	協議事項	・昭島市立小・中学校児童・生徒のオリンピック・パラリンピック観戦について(非公開)

4 教育委員会委員の主な活動

事業名	実施日	場所
校長、副校長辞令伝達式	令和3年 4月1日	市役所203会議室
臨時校長会、教職員辞令伝達式	4月1日	市民ホール
昭島市教育委員会表彰式（令和2年度第2回）	4月4日	市民ホール
小学校入学式	4月6日	各小学校 （※縮小開催により来賓出席せず）
中学校入学式	4月7日	各中学校 （※縮小開催により来賓出席せず）
東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会	4月20日	東京自治会館 第4・5会議室
東京都教育施策連絡協議会	4月22日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のためオンライン配信
教育委員会学校訪問	5月20日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会	5月26日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため書面開催
東京都市町村教育委員会連合会定期総会	5月27日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため書面開催
昭島市租税教育推進協議会定期協議会	6月11日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため書面開催
昭島市立公立中学校PTA協議会総会	6月25日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため書面開催
市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2021	6月27日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
昭島市立公立小学校PTA協議会総会	6月30日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため書面開催
東京都市教育長会研修会	7月21日	稲城市中央文化センター ホール
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事会	7月26日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため書面開催
東京都市町村教育委員会連合会第1回研修会	10月8日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のためオンライン開催
昭島市民文化祭	10月9日～ 11月3日	KOTORIホール・公民館
「未来をひらく」発表会	10月23日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため来場者数を限定して実施
昭島市教育委員会表彰式（令和3年度第1回）	11月3日	市民ホール
小学校音楽会	11月5日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
教育委員会学校訪問	11月17日	富士見丘小学校・学校給食共同調理 場・瑞雲中学校
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修 会	11月24日	国分寺市ひかりプラザ 第一体育室
昭島市教育懇談会	10月～11月	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
2021青少年フェスティバル	11月28日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
第67回新春駅伝競走大会	令和4年 1月9日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
第68回成人式	1月10日	フォレスト・イン昭和館
東京都市町村教育委員会連合会第3回理事会及び 第2回理事研修会	1月11日	東京自治会館 第4・5会議室
特別支援学級合同学習発表会	1月15日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
第61回新春たこあげ大会	1月16日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止

事業名	実施日	場所
小学校展覧会	1月21日～ 23日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止 3/18～3/28の期間、昭島市公式ホー ムページでオンライン開催
第10回昭島市自治会ブロック対抗スポーツ大会	3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
中学校卒業式	3月18日	各中学校 (※縮小開催により市長及び来賓 1 名出席)
小学校卒業式	3月25日	各小学校 (※縮小開催により市長及び来賓 1 名出席)

5 教育委員会委員の研修

事業名	実施日	場所	内容
関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会研修会	令和3年 5月31日 ～6月25日	オンライン配信	演題 「少人数学級によるきめ細やかな指導体制の計画的な整備」 講師 文部科学省初等中等教育局財務課
東京都市教育長会研修会	7月21日	稲城市中央文化センターホール	演題 「将棋からみる教育的効用」 講師 将棋棋士九段 日本将棋連盟会長 佐藤 康光 氏
東京都市町村教育委員会連合会第1回理事研修会	10月8日	オンライン配信	演題 「いじめや不登校など、教師に求められる資質について」 講師 明治大学教授、「教師を支える会」代表 諸富 祥彦 氏
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会	11月24日	国分寺市ひかりプラザ 第一体育室	講演 「新幹線951形試験電車について」 講師 公益財団法人 鉄道総合技術研究所 小野田 滋 氏
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事研修会	令和4年 1月11日	東京自治会館 第4・5会議室	講演 「教育行政の現状と課題」 講師 東京都多摩教育事務所 所長 曾根 稔 氏

第3章 主要施策の点検及び評価

第2次昭島市教育振興基本計画（平成27年度～32年度実施）

プラン1	確かな学力の定着
プラン2	豊かな心の醸成
プラン3	健やかな体の育成
プラン4	輝く未来に向かって
プラン5	生涯学習の推進

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 1 学習指導要領の確実な定着

子ども一人一人に学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるために、子どもの学習意欲の向上や学習規律の確立を図ることは重要です。また、子どもの特性や習熟の程度に応じた学習集団を編成したり、指導体制や指導方法を工夫したりするなど、個に応じた教育を推進することは大切です。

そのためには、小学校4年生から中学校3年生で実施する学力調査の結果を分析し、その結果から「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的改善を図らなければなりません。

また、それらの目的を達成するために、教職員は常に研究と修養に努め、その指導力を高めることが求められています。

【施策の取組状況】

- (1) 教職員の指導力の向上
- (2) 授業改善の推進
- (3) 個に応じた指導の充実
- (4) 子どもの実態に合った教科用図書採択と副読本の作成
- (5) 教職員のサービスの充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	教職員の研修 の充実 【指導課】	主任・主幹教諭の研修、加えて副校長・校長の研修などについて、職層に応じた研修の実施やOJTの充実を図ります。	職層に応じて、4月に新任主幹教諭、新任主任教諭、5月・6月に新任副校長を対象とした研修を実施しました。また、初任者から3年次教諭を対象に集合研修や授業観察訪問等を実施しました。なお、各研修会においてタブレット端末を活用し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図りながら、可能な限り研修が実施できるように工夫しました。
1-(1)	若手教員の育成 【指導課】	初任者から3年次までの教員の指導力を育成するための研修を実施します。	初任者研修は、「教員が身に付けるべき4つの力の育成」を主なテーマに、年10回の研修を実施しました。2年次研修は、主に「学習指導力、生活指導力・進路指導力の育成」をテーマに、年3回の研修を実施しました。3年次研修は、主に「外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力の育成」をテーマに、年2回の研修を実施しました。初任者研修は24人、2年次研修は24人、3年次研修は26人の教員が修了しました。
1-(1)	教育研究会 との連携 【指導課】	教育委員会は、教員が研究を行っている小学校教育研究会・中学校教育研究会と連携し、指導力の向上を図ります。	小学校教育研究会は年8回、中学校教育研究会は年7回の研究会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインによる研究協議会や授業参観に切り替え、指導力の向上を目指し、研鑽に励みました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	教育委員会研究 指定校制度の活用 【指導課】	様々な教育課題や施策推進に対しての研究を推進する学校を指定し、全校で共有し、教育活動を推進します。	共成小学校が「国語科を核とした、言葉の力で考えを深める児童の育成」、拝島中学校が「道徳科における指導力の向上と豊かな心の醸成」について研究を行い、発表会の参加人数の制限や動画配信も行いながら研究発表会を行いました。
1-(1)	教員における リーダー層の育成 【指導課】	校長・副校長への人材発掘をはじめ、有望な若手教員への研修への積極的なアプローチを行い、リーダー層を育成します。	主任教諭2年目以上の教員を対象とした学校マネジメント講座を実施し、ミドルリーダーとしての意識や役割、授業改善の方法について研修を行い、9名の教員が受講しました。
1-(2)	学力調査の実施 【指導課】	子どもの学力向上を図るために小学校4年生と中学校1年生で市独自の調査を実施します。また、国の調査を小学校6年生と中学校3年生で、都の調査を小学校5年生と中学校2年生で実施し、授業改善の指標とします。	全国学力・学習状況調査（小学校第6学年と中学校第3学年）、児童・生徒の学力向上を図るための調査（小学校第4学年から中学校第3学年）を実施しました。令和3年度から、都の学力調査の対象学年と形態が変わったことを受け、各調査の結果を関連付けて分析し、授業改善に生かしました。
1-(2)	授業改善推進 プランの作成・活用 【指導課】	各学力調査の結果を学校ごとに分析し、「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的向上を図るとともに、子どもの学力の定着を図ります。	全小・中学校が全教科で授業改善推進プランを作成し指導に生かしました。また、指導課訪問等で指導主事が授業改善推進プランの実施状況の効果・確認等を行うとともに指導・助言を行いました。
1-(2)	学力向上推進 委員会での研究 【指導課】	小・中学校の学力向上のための方策について検討し、推進する委員会を実施して、子どもに確かな学力を身に付けさせます。	学力向上に係る取組は、年に6回実施した教務主任会において、授業改善に向けた発表や情報共有を行うとともに、各学力調査の結果を基にした取組の共通理解を図りました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(2)	学習規律の徹底 【指導課】	授業内容の定着をより図るために、子どもたちに学習に取り組む基準を示し、徹底を図ります。	小中一貫教育の取組として小中学校でまとめた学習規律について、小中一貫の日や教務主任会において、実施状況等を確認し、各学校で必要に応じて改善と規律の徹底に取り組みました。
1-(3)	習熟度別指導等の実施 【指導課】	少人数習熟度別学習など、子どもの実態に合わせた指導を実施します。	小学校では、主に第3学年以上の算数、中学校では数学・英語において少人数習熟度別学習を実施しました。また、指導課職員及び指導主事が定期的に訪問し、指導の状況を確認して、指導内容や指導方法への指導・助言を行いました。
1-(3)	東京ベーシック・ドリルの活用 【指導課】	小学校第4学年までに習得すべき基礎的・基本的な内容のドリルを活用し、一人一人の子どもに応じた指導を行います。	東京ベーシック・ドリルをデータで各小学校に配布し、各学校での活用を促しました。小学校の土曜日補習教室全体でも活用しました。
1-(3)	土曜日・放課後補習の実施 【指導課】	学校と教育委員会が連携して、土曜日や放課後等に子どもの学習状況に応じて補習を行い、確かな学力の定着を図ります。	全小・中学校等において、土曜日補習を延べ572時間、63名の指導員で実施しました。土曜日補習教室では、主任指導員・指導員による指導体制で基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りました。また、指導課主催で全中学校の生徒を対象とした英検対策講座を教育福祉総合センターにて4回実施しました。放課後補習は、延べ139時間、20名の指導員で実施しました。土曜日・放課後補習の1回あたりの平均参加児童・生徒数は約32名でした。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(4)	教科用図書の採択 【指導課】	昭島市の小・中学校で使用する教科用図書が子どもの実態に合ったものとなるよう選定資料を作成し、教育委員会で適正に採択します。	中学校社会科（歴史的分野）の教科書会社1社が、令和2年度に文部科学省に再申請を行い、検定済教科用図書と認められたことから、令和2年度に採択した中学校社会科教科用図書と、今回認められた検定済教科用図書を比較し、改めて採択する必要が生じました。8月の定例教育委員会において中学校社会科教科用図書と特別支援学級で使用する教科用図書について採択を適正に実施しました。
1-(4)	社会科副読本の編集・作成 【指導課】	昭島市のことについて学ぶ、「わたしたちの昭島市」を作成し、小学校3・4年生の社会科の学習で活用します。	「わたしたちの昭島市」を市内第3学年児童に配布しました。また、次回改訂に備え、小学校社会科副読本作成委員会を1回開催し、内容の改善について検討しました。
1-(5)	子どもと触れ合う時間の確保 【指導課】	教員が子どもと触れ合う時間を確保するために、業務の効率化や削減を行います。また、ワーク・ライフ・バランスを考えた職場環境の充実に努めます。	授業準備等の補助をする学級事務補助支援員として、スクール・サポート・スタッフを全小・中学校に配置し、教員が子どもと触れ合う時間を確保しました。
1-(5)	教職員のサービスの徹底 【指導課】	体罰の根絶など、教職員の服務事故防止に向けた研修を実施し、サービスの徹底を図ります。	全小・中学校において年2回以上の全教職員悉皆の服務事故防止研修を実施し、サービスの徹底を図りました。校長会・副校長会において、都教委から情報提供のあった服務事故報告件数や実例を周知し、服務事故防止の啓発に努めました。

【主な課題】

(a) 教員の研修について

新学習指導要領に明記されている「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に向け、1単位時間の授業の中で、ICT機器を効果的に活用することや児童・生徒が自らの学びを振り返る時間を確保すること、指導と評価の一体化を図ることなど、更なる取組の充実が必要である。

(b) 学校の働き方改革について

教員が時間をかけたいと考えている子どもとの触れ合い、教材研究の時間の確保及び教員の長時間勤務の解消のためにも学校の働き方改革は継続する課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 教員の研修について

今後も、指導課主催の研修において、学習指導要領の趣旨に基づいた内容を充実させていく。新しい教育課題を取り入れて、若手教員育成研修の内容を充実させるとともに主幹教諭任用時研修や主任教諭任用時研修等において研修内容に人材育成の観点を取り入れ、教員の資質向上を図る。

(b) 児童・生徒の学力向上について

教員の授業力向上を図るため、大学教授等から助言を受ける「授業力向上アドバイザー事業」の取組を充実させる。事業実施校以外の学校にも、取組内容を啓発するとともに、指導課訪問等において教員の授業力向上に焦点をあてて取組を進められるように指導・助言を行う。

学習の定着に課題のある児童・生徒の指導の充実については、今後も習熟度別少人数指導、学習支援員等を活用した個別指導、土曜日・放課後補習教室を有効活用しながら、学習内容の定着を図る。

(c) 学力調査の活用について

学力調査の結果等から、各教科の重点課題を一つに絞り、授業改善推進プランを作成する。授業改善推進プランに基づいた取組や学力向上に効果のあった取組について教務主任会で発表・協議し、各学校のレベルアップを図る。

全国学力・学習状況調査（国調査）と児童・生徒の学力向上を図るための調査（都調査）を関連付けて分析することで、授業改善に向けた取組を更に充実させる。また、調査結果をキャリア・パスポートと連携して活用することなどを通して、児童・生徒が自らの学習習慣を見直し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

(d) 学校の働き方改革について

「学校の働き方改革実施プラン」に基づき、教職員の心身の健康保持やライフ・ワーク・バランスの取れた生活を実現するとともに、教職員が子どもと向き合う時間を十分に確保し、学校教育活動の質の維持向上を図れるようにする。そのために、スクール・サポート・スタッフや部活動指導員等を積極的に活用して教員の業務軽減を図れるようにする。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 2 理数教育の充実

学術研究や科学技術の分野において、世界で活躍する人材を育成するためには、その土台である理数教育の充実を図る必要があります。科学に関する基礎的な素養を身に付けるとともに、仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価して表現したり、帰納的な考え方や演繹的な考え方を活用したりするなど、思考力・判断力・表現力の育成に向けた指導内容の充実を図ります。

また、観察・実験において子どもの学習意欲を高めるよう教員研修を実施します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2	理科実技実験研修 の実施 【指導課】	小学校若手教員を対象に理科の実験に関する研修会を実施し、模擬授業を実践するとともに、実験の演習を通じて指導力の向上を図ります。	各学校の理科教育推進教員（若しくは推薦者）が東京都の研修に参加し、校内のOJT研修で各教員に内容を伝達しました。
2	理数フロンティア 事業 【指導課】	東京都から指定された理数フロンティア校における実践を市内小・中学校に広めるとともに、様々な教材を提供します。	平成26年度で東京都の理数フロンティア事業が終了し、理科教育カンファレンスに移行しました。

【主な課題】

(a) 理数教育について

各学校において、理科、算数・数学科の授業改善を行うとともに、地域資源を活用した理科、算数・数学科授業の充実や、理科教育推進担当教員等の活用を図る。

【今後の取組の方向性】

(a) 理数教育について

子どもたちの理科、算数・数学への関心を高め、理数教育の一層の充実を図る授業改善を行います。特に、地域の人材や企業・自然などの地域資源、学生等のボランティアを活用した授業の充実、理科教育推進担当教員等を活用した初任者研修等における実験・観察の実習を実施します。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 3 読書活動の推進と言語能力の育成

各校で「学校図書館活用計画」を作成し、学校図書館担当教員、司書教諭、学校司書及びボランティアなどが連携し、子どもの読書活動を一層推進します。

また、学校図書館と市民図書館の連携を強化するとともに、子どもに読書活動を通して考える力や豊かな感性、情緒などを身に付けさせ、人間力の基礎となる「言語力」の育成を図ります。

東京都から指定された、言語能力向上拠点校を中心とした取組を、学力向上推進委員会を通じて広めます。

【施策の取組状況】

- (1) 読書活動の推進
- (2) 司書の専門性の活用
- (3) 言語能力の育成

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(1)	全校一斉朝読書の実践 【指導課】	市内全校で朝読書を実施し、言語能力の向上を図るとともに、豊かな感性や思いやりの心をはぐくみます。	中学校は全校で毎日 10 分間の朝読書を実施し、読書の習慣化を図りました。小学校 10 校は学校の状況により週に 1 回から週に 5 回、10～15 分程度の朝読書を実施しました。小学校の他 3 校は、読書週間に朝読書を実施したり、登校後の準備が終わった後などに読書を行ったりしました。
3-(1)	読み聞かせの実践 【指導課】	学級担任や上級生、ボランティア等による「読み聞かせ」を実施し、読書への関心を高めま	小学校 10 校で保護者等の図書ボランティアや図書館支援員、図書委員会による読み聞かせを行いました。他 3 校は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外部の方による読み聞かせは実施せず、学級担任による読み聞かせを行いました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(1)	学校図書館 の蔵書の充実 【庶務課】	子どもに親しまれる図書や調べ学習に役立つ図書資料の充実に努めます。	古い図書等の整理を行い、各学校の予算の範囲内で図書を購入しました。その結果、学校図書館図書標準に対する蔵書率は、小・中学校全校で100%を超え、全体として小学校は146%、中学校は119%となっています。
3-(1)	学校図書館 の利用促進 【指導課】	学校図書館の利用促進を図るための指導を行います。	読書活動全体計画、年間指導計画を作成し、国語、総合的な学習の時間、社会科等を中心に活用を促進しました。小学校では読書週間に図書委員会を中心とした読み聞かせや読書集会等を行いました。
3-(2)	学校司書の派遣と 図書ボランティア による活動の推進 【指導課】	学校司書を派遣し、学校図書館の充実に図ります。また、図書ボランティアの育成を図り、学校における読書活動を推進し、子どもの豊かな感性や情緒を身に付けさせるとともに、言語能力を育成します。	全小・中学校に司書教諭を配置し、各学校に司書資格のある支援員を年間45日派遣するとともに、保護者等の図書ボランティアを活用して読書活動の充実に図りました。
3-(2)	学校図書館管理 システムの活用 【指導課】	学校図書館管理システムの活用を図り、子どもたちの読書傾向を分析し、図書購入の資料とするとともに、言語能力育成に生かします。	学校図書館管理システムから各分野の蔵書割合を算出し、バランスのとれた図書購入を行いました。また、新たに購入した図書を紹介し、子どもたちの本への親しみをさらに高められるような工夫をしました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(3)	言語能力向上 拠点校の取組 【指導課】	拠点校において、伝統的な言語文化の理解や社会生活に役立つ言語の技能及びコミュニケーション能力の育成についての研究に取り組み、その成果を広めます。	共成小学校が市の研究指定校として、「言葉の力で考えを深める児童の育成」を研究主題について研究発表を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から、授業や研究発表を動画配信し、各学校で視聴できるように工夫しました。共成小学校の研究成果も踏まえながら、今後も言語活動の充実を継続できるように指導・助言を行いました。
3-(3)	子どもの主張意見 文コンクールの 開催 【指導課】	「青少年とともにあゆむ都市宣言」に基づき、自分の思いを発表する意見文コンクールを開催します。	全小・中学校で取り組み、自己との関わりを見つめ、これからの昭島について考えたことを表現しました。応募数は1,822編となりました。委員会を2回開催し、小・中学校から、各15点の入選作品を選定しました。10月23日(土)に行った発表会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から、来場者を制限しながら実施しました。

【主な課題】

(a) 読書活動について

子どもの活字離れを防ぐためにも、朝読書や読書週間等の学校における読書活動の充実が必要である。

(b) 学校図書館運営業務の財源の確保について

司書資格を持っている学校図書館支援員(委託業務)による学校図書館の環境整備等は有効である。配置日数を年45日としているが、今後も継続し、拡充するには財源の確保が課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 読書活動について

読書活動全体計画に基づき、国語の時間に加え、朝の時間・休み時間・放課後等の授業以外の時間を活用して、計画的に読書活動を充実させる。また、一人一台のタブレット端末を使用した市民図書館との連携を図る。

(b) 学校図書館運営業務の財源の確保について

学校図書館支援員による学校図書館の環境整備のための配置日数について年45日を維持し、学校図書館運営業務を継続し、また拡充していくためには、財源の確保を検討していく。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 4 個に応じた支援の充実

発達障害を含めた特別な支援を必要とする子どもをトータルな面から支援する体制を整え、子どもの一人一人の教育ニーズを把握し、もてる力を高め、生活や学習の困難を改善・克服するための特別支援教育を推進します。

また、不登校傾向にある子どもに適応指導教室における支援を行うことや、教育に関する悩みがある保護者が相談しやすいよう相談体制を充実します。

【施策の取組状況】

- (1) 特別支援教育の充実
- (2) 不登校への対応・適応指導の充実
- (3) 教育相談体制の充実
- (4) 就学援助等による支援

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	推進体制の整備 【指導課】	自閉症・情緒障害特別支援学級を開設し、子どもが必要としている支援に応じた教育を行います。	小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の「さくら学級」においては、大学の准教授や特別支援学校の特別支援教育コーディネーター、指導主事等が、中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の「清泉学級」においては、大学の准教授が、授業観察及び指導・助言を行い、タブレット端末を活用した個別最適な学び等、児童・生徒一人一人の実態に応じた指導を目指した授業改善を行いました。
4-(1)	教育内容の充実 【指導課】	通級指導学級における教育課程や個別の教育支援計画の充実を図ります。また、交流や共同学習を実践します。	自閉症・情緒障害特別支援学級、特別支援教室巡回指導教員を対象とした情緒障害学級部会を年4回、知的障害特別支援学級担当教員を対象とした知的固定学級部会を年3回開催し、教育課程の内容の充実や授業研究等を通じた研修を行いました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	人材の育成 【指導課】	すべての教員が特別支援教育に携わることから、研修を実施するとともに、教育内容を充実します。	「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を全教員に配布しました。指導課訪問の際に、全教員に対して、教室環境・学習環境・授業に関して具体的に指導しました。
4-(1)	特別支援教育関係機関との連携 【指導課】	エリア・ネットワークを活用し、都立あきる野学園などの関係機関との連携を図るとともに「居住地交流」や「副籍交流」を活性化し、特別支援教育を推進します。	「居住地交流」及び「副籍交流」については、関係機関と保護者等と協議し、児童・生徒の障害の程度に応じた交流及び共同学習を実施しました。
4-(1)	特別支援教育の啓発活動の推進 【指導課】	特別支援教育について多くの方に理解していただくために、説明会や研修会を定期的に実施します。	特別支援教育に関する市民説明会を年2回実施し、発達障害の特性や、将来の自立に向けた講演会を行いました。内1回は子ども育成課との共同開催で実施しました。参加者は延べ84人でした。
4-(1)	情緒障害等通級指導学級での指導の充実 【指導課】	情緒障害等通級指導学級に指導員を配置し、子どもへの指導を充実させるとともに、通級指導学級の担任が子どもの在籍校を巡回指導します。	小学校は平成30年度から特別支援教室に移行し、4校の拠点校から9校の巡回校に指導教員が巡回指導し、令和3年5月1日現在の通室児童数は278人で始まりました。中学校は令和3年度から全校に特別支援教室を設置し、1校の拠点校から5校の巡回校に指導教員が巡回し、令和3年5月1日現在の通室生徒数は37人で始まりました。
4-(1)	特別支援学級の開設 【指導課】	支援を必要とする子どもに対して、個に応じた指導が充実できるよう、特別支援学級を開設します。	令和元年度に富士見丘小学校に自閉症・情緒障害特別支援学級の「さくら学級」を開設しました。全学年で24名の児童が在籍しています(令和3年4月1日現在)。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(2)	教育支援室の指導体制と指導内容の充実 【指導課】	教育支援室における指導体制と指導内容を充実し、不登校傾向にある子どもが学校復帰または社会的自立ができるよう支援します。	教育支援室に小学生 16 名、中学生 20 名が通室しました。通室児童・生徒に対して、個別指導を継続的に行い、学校復帰及び上級学校への進学、社会的自立を目指しました。(※教育支援室児童・生徒在籍状況については〔表 1〕のとおり)
4-(2)	学校と家庭の連携推進事業 【指導課】	不登校・いじめなどの生活指導の課題に対応するため、支援員を配置し、地域や学校の実態にあった取組を行います。	全小・中学校に学校と家庭の連携支援員を配置し、登校時の家庭訪問や登校後の子どもへの個別指導により、不登校傾向の子どもに支援を行い、登校を促しました。(※児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題(不登校)に関する調査については〔表 2〕のとおり)
4-(3)	適切な就学 【指導課】	子どもが適切な教育を受けることができるよう就学相談を実施します。	特別支援教育係が年間を通して、随時、就学相談を受け、円滑に就学支援委員会(年 13 回開催)につなげる体制をとりました。
4-(3)	スクールカウンセラーの配置 【指導課】	子どものみならず保護者の相談に応じるために、全校にスクールカウンセラーを配置します。	スクールカウンセラーを全小・中学校に配置し、子ども・保護者の相談に応じました。
4-(3)	スクールソーシャルワーカーの派遣 【指導課】	教育相談室にスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもの様々な行動や保護者のもつ課題について関係諸機関との連携を図り、解消します。	スクールソーシャルワーカー 3 名を教育福祉総合センターに配置し、子どもや保護者の家庭にかかわるトラブルに、円滑に対応できる体制をとりました。関係機関とのケース会議に延べ 23 回出席して、支援を行いました。
4-(3)	教育相談研修・教育相談担当者会の実施 【指導課】	教員が教育相談の能力を身に付け、子どもとの関わり方を学ぶための研修を実施します。また、教育相談の担当者が集まり各学校の取組について情報交換を行います。	初任者を対象に教育相談基礎研修を実施し、24 名が受講しました。また、特別支援教育コーディネーター研修において、教育相談における各学校の取組について情報交換しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(3)	教育相談室の充実 【指導課】	教育相談員のキャリアアップを図るとともに、相談体制をより整備し、教育相談の充実を図ります。	週1回、受理会議を実施し、相談の方向性について検討を行いました。また、東京都主催のWebによる研修を計5回受講しました。(※教育相談室相談状況については〔表3〕のとおり)
4-(3)	望ましい学級集団を形成するための調査の実施 【指導課】	学級集団への満足度についての調査を実施し、よりよい学校生活を送れるように支援します。	学級満足度調査を小学校第3学年～中学校第3学年で実施しました。臨床心理士が各学級の実施結果から、学級の状態や支援すべき子どもを把握して、各学級の担任にフィードバックし、学級経営の充実を図る体制を構築しました。また、新たに昭島市に着任した教員を対象に学級満足度調査に係る研修会を実施しました。
4-(4)	就学援助の実施 【指導課】	経済的な事情で教育費の支出が困難な家庭を対象として、就学に必要な費用を援助します。	小学生772名、中学生416名を対象に合計1億951万3,453円の援助を行いました。(就学援助率は小学校13.7%、中学校で16.4%) また、給付型奨学金制度から、高等学校等に入学予定の生徒9名に合計54万円の入学準備金と、昨年度までに採用された生徒25名に合計249万3,700円の奨学金を支払いました。
4-(4)	特別支援教育 就学奨励の実施 【指導課】	子どもが特別支援学級に在籍する家庭を対象として、その就学の特殊性から経済的な負担を軽減するため、就学に必要な費用を援助します。	小学生42名、中学生27名を対象に合計417万7,508円の援助を行いました。
4-(4)	日本語指導の実施 【指導課】	外国籍の児童・生徒や帰国子女に対して、日本語指導が必要な場合、日本語指導員を派遣します。	外国籍等の子ども9名に対して日本語指導員を派遣して、授業の補助を行いました。

〔表 1〕

〈教育支援室児童・生徒在籍状況〉 (人)

区分	小学校	中学校	合計
人数	16	20	36

〔表 2〕

〈児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題（不登校）に関する調査〉

小学校	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
都出現率	0.56%	0.74%	0.88%	1.06%	未公表
市出現率	0.51%	0.63%	0.63%	0.74%	1.45%
不登校児童数	28人	35人	35人	42人	82人

中学校	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
都出現率	3.78%	4.33%	4.76%	4.93%	未公表
市出現率	3.27%	3.12%	3.74%	3.64%	3.92%
不登校生徒数	86人	80人	94人	91人	99人

〔表 3〕

〈教育相談室相談状況〉 (件)

相談内容	不登校	いじめ	交友関係	性格上の問題	情緒不安定	特別支援	進路相談	学校教育	家庭教育	その他	合計
相談件数	496	4	8	296	55	34	29	185	110	207	1424

【主な課題】

(a) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上について

特別支援学級担任や特別支援教室巡回指導教員だけでなく、特別支援教育コーディネーターを中心に、通常の学級の教員の特別支援教育に関する専門性を一層向上させていく必要がある。

(b) 特別支援教育の啓発活動について

障害のある児童・生徒の自立と社会参加に向けて、特別支援教育の理解啓発を継続する。障害のある子どもをもつ保護者の理解が、子どもの成長・発達に大きな影響を与えることから、保護者が我が子の障害を受容できるようにしたり、将来の見通しについての不安を軽減できるようにしたりするなど、特別支援教育への正しい理解を深めるようにする必要がある。

(c) 特別支援教室の開設について

小・中学校の特別支援教室の全面実施に伴い、過去5年の通室児童数は増加傾向にあり、今後も個別指導計画に基づく指導の充実が必要である。

〈特別支援教室の通級・通室人数（小・中合計）〉

年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
人数	215人	249人	237人	267人	271人

(4月1日現在数)

(d) 不登校児童・生徒について

不登校の未然防止に向けて、楽しい学校づくり、分かりやすい授業づくりを進めていく必要がある。小学校低学年に不登校の兆候が表れ、中学年で不登校になる実態もあるため、傾向が見え始めた時点での早期対応について充実させる必要がある。家庭状況の複雑化や多様化に対応するため、スクールソーシャルワーカーの活用や関係機関との適切な連携を図る必要がある。

(e) 日本語指導の実施について

前年度に引き続き、日本語の習得に支援が必要な子どもに対して、指導を行った。新型コロナウイルスの影響により、新たに入国する外国籍の子どもが減っているため、日本語指導員の派遣は前年度より減少している。今後の増加に備え、引き続き日本語指導に対応する体制を整える必要がある。また、日本語の理解を短期間で深めるため、学校だけでなく、保護者の協力を得て、家庭でも日本語の習得に取り組むように働きかけていく。

【今後の取組の方向性】

(a) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上について

特別支援学級担任教員を対象とした研修会は、授業研究を中心に感染拡大防止に努め、工夫して実施する。「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を若手教員研修等で活用し、通常の学級における特別支援教育の推進を図る。

(b) 特別支援教育の啓発活動について

年2回の市民向け説明会を継続して実施する。また、特別支援学級合同学習発表会の際の紙面紹介等を活用し、障害のある児童・生徒の自立と社会参加に向け、特別支援教育についての理解・啓発を推進する。

(c) 特別支援教室の指導の充実について

特別支援教室の指導にあたっては、今年度の指導の成果を生かして一人一人の課題に応じた自立活動の充実を図っていく。また、特別支援教室専門員研修を実施し、特別支援教室の指導の充実を図る。

(d) 不登校児童・生徒について

安心して登校できる学校づくりや、児童・生徒の関心を高める楽しい授業の実現に向け、指導・助言を行う。欠席が続く児童・生徒に対しては、校内委員会等を活用して学校全体で把握し、早期対応を行う。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター等の

関係機関との連携を図り、組織的に対応する。

(e) 日本語指導の実施について

日本語指導員の派遣が必要な子どもたちのために、引き続き予算の確保をしていく。令和2年度からNPO法人の紹介を受け、多様な言語の日本語指導員を依頼することができることになったので、引き続き協力を得ていく。

また、日本語の理解を短期間で深めるため、学校だけでなく、保護者の協力を得て、家庭でも日本語の習得に取り組むよう働きかける。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 1 人権教育の推進

子ども一人一人が発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解する必要があります。自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面や状況下で具体的な態度や行動で示せることが大切であり、さらには、人権が尊重される社会づくりにつながるようにはしていかなければなりません。

この目標を達成するために、学校の教育活動全体を通して人権教育に取り組みます。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1	人権教育の推進 【指導課】	あらゆる偏見や差別をなくすために、全教育活動を通じて人権教育を推進します。	教育課程編成の最重要課題に位置付け、教育活動全体を通して、全教職員で取り組みました。人権教育研修会は講師を招き、オンラインを活用して実施しました。人権パネル展では、各学校の取組を紹介し、今年度も各学校で「人権標語」の作成を行い、人権について考える機会を設けました。
1	人権教育推進委員会の開催 【指導課】	学校教育において、様々な人権課題を解決していくための実践について、研修を行います。	例年は、年に4回の研修を開催し、東京都教育委員会人権尊重教育推進校の研究発表会や協議会に参加する機会を設定してきました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインによる研修及び研究発表の視聴を行いました。
1	人権教育全体計画の作成と人権諸課題に関する指導の充実 【指導課】	小・中学校全校で「人権教育全体計画」及び「人権教育年間指導計画」を作成するとともに、人権教育推進委員会で情報を共有しながら、人権課題に関する計画的な指導を行います。	教育課程編成の際に、全体計画と年間指導計画を見直し、新たな人権課題等を踏まえて、次年度の全体計画と年間指導計画を作成しました。

【主な課題】

(a) 人権教育推進委員会の開催について

人権教育推進委員会の取組を更に充実させ、委員を通して各学校の教員全体の「人権課題」についての理解を深めるとともに、人権感覚の向上や実践につなげていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 人権教育推進委員会の開催について

研修において、人権教育推進委員が具体的な事例や研究授業から、新たな人権課題等を踏まえた内容を学ぶ機会を増やし、学んだことを各学校で還元していくようにする。また、教員の人権感覚を高めるために、各学校において人権教育プログラムや映像資料等を活用した研修が効果的に行われるよう、指導・助言を行う。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 2 道徳教育の充実

子どもたちが、自他の生命を尊重し、法やルールの意義やそれらを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できるよう、家庭、学校、地域社会の連携のもと、道徳教育の改善、充実を図ります。

各学校における道徳の時間を道徳教育の要の時間と位置づけ、各教科との密接な関連を図りながら、計画的、発展的に道徳的価値や人間としての生き方について自覚を深められるようにするとともに、道徳的実践力を育成します。

また、毎年度「道徳授業地区公開講座」を実施し、家庭や地域と連携して子どもたちの豊かな心を育成するとともに、道徳教育の一層の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 道徳授業の充実
- (2) 道徳教育の推進

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	道徳授業の充実 【指導課】	小・中学校における年間指導計画の検討を行い、道徳の時間を中心に全教育活動を通じて指導の充実を図ります。	全小・中学校、道徳教育の全体計画を見直し、35時間（小学校第1学年は34時間）の授業について、教科書に準拠した年間指導計画を作成しました。また、考え・議論する道徳の実現に向け、ICTの活用や対話的活動の充実などの授業改善に取り組みました。
2-(1)	道徳授業地区公開講座の充実 【指導課】	道徳授業を保護者及び地域に公開し、家庭、学校、地域社会が連携して子どもたちの豊かな心を育成します。	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、授業の公開方法や、保護者や地域の方との連携方法を工夫しながら、各学校で実施しました。
2-(2)	各教科等における道徳教育の推進 【指導課】	道徳教育推進教師を中心に、各学校において指導の重点項目を設定し、学習指導要領に基づき、各教科等における道徳教育を推進します。	カリキュラム・マネジメントの視点から、各教科等との関連を明確にし、年間指導計画の下、道徳教育を実践しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(2)	あいさつ運動 の実施 【指導課】	学校・保護者・地域が連携してあいさつ運動を実施することにより、子どもたちを地域で育てる意識を醸成します。	日頃から指導を継続するとともに、あいさつ運動や児童会・生徒会の取組を生かし、子どもたちの基本的な生活習慣の向上に努めました。

【主な課題】

- (a) 特別の教科 道徳について
「考え・議論する道徳」の実現に向け、ICTの活用や対話的活動の充実など、各学校で更なる授業改善を行う必要がある。
- (b) 道徳授業地区公開講座での意見交流会について
オンラインの活用など、保護者や地域の方々との意見交流会について、実施方法の工夫や内容の充実に向けた工夫をする必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 特別の教科 道徳について
「特別の教科 道徳」の充実に向けた研修や指導主事による研修を行っていく。
- (b) 道徳授業地区公開講座での意見交流会について
東京都教育委員会が作成したビデオ資料などを活用し、子どもたちの道徳性を高めていくために身近な大人としてどのようなことをしていくとよいのか考える。学校や家庭、地域がどのように子どもたちに関わっていくことが大切か、それぞれの役割に応じて意見を出し合い、共通理解を図る。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 3 体験活動の充実

子どもたちが、地域の自然や歴史、文化などに直接触れる郷土学習や福祉の心を育てるボランティア活動等に参加するとともに、小・中学校で、発達段階に応じた「移動教室」等を通し、子どもたちの体験活動の充実を図ります。そして、自主的に体験しようとする力を育成します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3	小学校での移動教室の実施 【指導課】	集団での宿泊体験を通して、よりよい人間関係を築くとともに、思いやりの心や助け合いの心、あきらめない気持ちを育成するため、市内全小学校第5・6学年による移動教室を実施します。	新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、市内全小学校第5学年が八ヶ岳に1泊2日、第6学年が日光に2泊3日の移動教室を実施しました。
3	中学校移動教室・修学旅行の実施 【指導課】	自然との関わりや日本の伝統文化、歴史についての理解を深めるとともに、最後まで努力する態度を育成するため、市内全中学校で農業体験、スキー教室などの移動教室や修学旅行を実施します。	中学校3年生については中学校6校中4校が京都・奈良方面、1校が京都・大阪方面、1校が浅草・お台場方面に、1泊2日または2泊3日の修学旅行を実施しました。また、中学校2年生の移動教室は、全校スキー教室を実施しました。1年生の移動教室は、全校スキー教室の実施を予定していましたが、1・2年合同で実施した1校を除き、令和4年度に延期しました。
3	小・中学校での生産体験の実施 【指導課】	小・中学校において、学校農園や近隣の農園等を活用して、生産活動を行います。	各学校の実情に応じて、学校農園や近隣の農園を活用したり、ゲストティーチャーを招いたりして実施しました。

【主な課題】

(a) 小学校第5学年の移動教室について

例年利用してきた「羽村市自然休暇村」の閉館に伴い、新たな宿泊施設として「三鷹市川上郷自然の村」の利用を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、同施設の休館が続き、施設の変更が必要となった。今後も、安全かつ充実した活動を行うため、宿泊施設等の検討が必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) 小学校第5学年の移動教室について

新たに、宿泊施設を「キープ自然学校」と「帝産ロッヂ」とした。宿泊施設の変更に伴い、児童の安全を確保できるように、実地踏査において十分な情報収集を行う。移動教室運営委員会や、実地踏査の結果を基に、安全かつ充実した活動ができるよう、実施計画を立てる。

主要施策 4 いじめ問題への対応

昭島市の全ての子どもが安心して登校し、学校生活を送ることができるよう、学校の内外を問わず、いじめの未然防止、早期解消に取り組みます。

いじめはどんなことがあっても社会の中では許されないことですが、どの子どもにも起こる可能性があるという意識をもって、関係機関と連携し、組織的かつ継続的な取組を行います。

学校でも教育活動全体を通じて、全ての子どもに「いじめは決して許されない」ことの理解を促し、豊かな情操や道徳心、自他の存在を尊重し合える態度、自己肯定感等、心の通う人間関係を構築する能力を育成します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4	いじめ問題防止 会議等の開催 【指導課】	いじめは絶対許されないという意識啓発活動を推進し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応等に関係機関と連携して取り組みます。	昭島市いじめ防止対策推進基本方針に基づき、いじめ防止等に向けた取組を推進するため、学校関係者、保護者、関係機関、地域の健全育成団体等の代表者を委員とするいじめ問題防止会議を年3回開催しました。 「言葉によるいじめの未然防止及び言葉を通じた学級内における人間関係づくり」について協議し、いじめ防止啓発資料「心に響く温かい言葉いっぱい为学校をつくるために」を作成し、各学校に提供しました。 また、いじめ問題への対応、いじめの再発防止等の検討及び協議を行い、学校を支援するとともに、実効的な対策を推進するため、いじめ問題対策委員会を年2回開催し、学識経験者、弁護士、警察、心理士、福祉の専門家による委員から、学校が対応したいじめ事例に対し、多角的な視点で指導・助言をいただきました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4	いじめ防止等に関する教育委員会の具体的な取組の実施 【指導課】	いじめ問題の状況に関する調査、いじめ相談体制の確立、サポートチームや関係諸機関との連携、教職員の資質・能力の向上、インターネット等によるいじめ対策の推進、啓発活動の推進など、具体的な取組を実施します。	中学校生徒会が中心となって制作した「いじめ防止ポスター」を各小学校や自治会の掲示板に掲示し、社会全体でいじめを許さないという啓発活動を実施しました。
4	学校いじめ防止基本方針の推進 【指導課】	各学校の実態に応じていじめを防止する方針を定め、いじめを受けている子どもに対しての支援を的確に行います。	各学校において、学校いじめ対策委員会を生かし、学校いじめ防止基本方針の見直しを図り、保護者会やホームページ等を活用して、周知しました。
4	いじめに関する学校における取組の実施 【指導課】	いじめ防止のポスターの掲示やふれあいボックスを設置するなど、いじめの防止や早期発見等のため、子どもがいつでも思いを伝えることができるような取組を実施します。	軽微ないじめを見逃さないように、未然防止の校内体制を整備しました。また、年に3回以上、いじめ防止に係るアンケートを実施し、早期発見・早期対応に努めました。

【主な課題】

(a) いじめ問題防止会議について

年間を通して、「言葉によるいじめの未然防止及び言葉を通じた学級内における人間関係づくり」について協議を行い、各学校において、言葉によるいじめの未然防止に関わる指導の徹底が図られるよう、教員向けの指導資料を作成した。

この指導資料を新年度に、各小・中学校の全教職員に配布するとともに、保護者に対しては保護者会等で説明し、配布する予定である。今後も継続して、啓発活動や具体的な取組を検討し、効果を検証する必要がある。

(b) いじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組について

いじめの防止について児童・生徒が主体的に考える機会を継続的に設定していく必要がある。

(c) いじめの早期発見・早期対応について

軽微ないじめの把握の仕方に学校間で差があるため、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、迅速な報告体制を構築する必要がある。また、初期対応能力の向上が必要不可欠である。

【今後の取組の方向性】

(a) いじめ問題防止会議について

いじめの未然防止や早期発見・早期対応等の取組について協議を行い、その結果を踏まえ、いじめ防止等に向けた取組を推進する。

(b) いじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組について

小中連携の取組の一環として、中学生と小学生がいじめ防止について意見交流を行う機会を設定したり、中学校生徒会が中心となって作成するいじめ防止ポスターを小学校に掲示する取組を継続していくなど、児童・生徒がいじめ防止について考える機会を意図的に設けていく。

(c) 児童・生徒のいじめの認知件数について

いじめの定義について、生活指導主任会において研修を深め、各学校での研修に活かせるようにする。また、毎月の報告書を活用して、軽微ないじめについても背景を含めて学校と教育委員会で情報を共有する。必要に応じて報告事例についての聴き取りを行い、生活指導主任といじめ対応の留意点を共有できるようにする。詳細な状況や対応経過の報告のみにとどまらず、各学校が児童・生徒に対して速やかに対応できるよう連携を強化する。

(d) いじめ問題対策委員会について

昭島市いじめ防止対策推進基本方針に基づき、年に2回、有識者から助言を受けながら、いじめ問題への対応、いじめの再発防止等の検討及び協議を行い、学校を支援する実効的な対策を推進していく。

(e) いじめによる重大事態の調査に関する調査委員会の組織について

学校において、いじめに起因した重大事態が発生した場合には、令和2年度に制定した昭島市いじめ問題の調査に関する条例に基づき、市の附属機関として、学識経験者、弁護士、心理士等の外部有識者による調査委員会を設置し、調査を実施する。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 1 体力向上の推進

子ども一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、「第五次昭島市総合基本計画」（平成23年5月策定）を踏まえ、学校・家庭・地域が連携した体力向上策を推進します。

また、各学校では、東京都の「総合的な子どもの基礎体力向上方策（第2次推進計画）」に基づき、子どもの体力の実態を把握するとともに、一校一取組を推進し、計画的に体力の向上を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 体育・保健体育の授業の充実
- (2) オリンピック・パラリンピック教育の推進
- (3) 一校一取組の充実
- (4) 部活動の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	体育・保健体育の授業の充実 【指導課】	小・中学校における体育や保健体育の授業改善を図り、子どもたちの体力向上に資するため、体力向上推進委員会を設置し、実践研究を推進します。	「令和3年度 東京都教育委員会 国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業」指定地区として、各学校が、生活習慣と運動習慣の改善を通じて体力向上に取り組みました。
1-(1)	体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用 【指導課】	各種調査を実施し、その調査結果を分析し、本市の子どもたちの実態に応じた指導や体育・保健体育の授業改善に活用します。	年間を通して「元気アップガイドブック」を活用した授業改善や、日常的な体力向上に取り組み、「反復横跳び」、「立ち幅跳び」など課題が見られた種目を中心に、体力向上に取り組みました。長座体前屈は、小・中学校男子の全ての学年において東京都の数値を上回り、ボール投げは、小・中学校女子の全ての学年において、東京都の数値を上回りました。（※東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査については〔表7〕のとおり）
1-(1)	武道実技研修の実施 【指導課】	中学校における武道の指導を安全に行うとともに、確実な指導技術を身に付けるため、教員の実技研修を実施します。	東京都教育委員会が実施する武道実技研修に参加することにより、他地域との交流も図ることができました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	校庭芝生化の推進 【庶務課】	校庭の芝生化を推進し、地球環境への配慮を行うとともに、子どもたちの運動能力の向上を図ります。	小学校 13 校及び中学校 4 校の芝生運動場について、芝生の健全な生育を図るため、計画的に播種や目土等の更新作業を実施しました。
1-(2)	オリンピック・パラリンピック教育推進校での研究と啓発 【指導課】	運動・スポーツへの興味・関心を高める体育授業等の内容・方法の改善や日常的な運動・スポーツの実践による健康増進に向けた取組の充実を図ります。	各学校がオリンピック・パラリンピック教育推進校として、5つの資質の育成に関連付けながら発展させてきた活動や、学校経営方針、教育目標、児童・生徒の実態、地域性等を踏まえ、集大成としての取組を行いました。
1-(3)	一校一取組の充実 【指導課】	体力の向上及び健康の保持増進を図るため、運動量を増やすなど、指導法の工夫・改善を図ります。	各学校が創意工夫し、朝の時間や休み時間、放課後等に子どもが運動できるような環境や時間を設定して取り組みました。
1-(4)	中学校における運動系部活動参加の推進 【指導課】	中学校において、スポーツを通して、生徒一人一人が特性を生かして部活動に参加できるようにし、最後まであきらめずに継続することや仲間と協力して成し遂げることの喜びを体験できるようにします。	全中学校の運動部活動は51部あり、それぞれの運動部活動の特性を生かし、生徒一人一人の心身の成長を目指して活動を行いました。
1-(4)	運動系部活動指導補助員の充実 【指導課】	中学校に運動系部活動の技能の向上を図るため指導補助員を派遣し、より専門的な指導を行います。	全中学校で 31 名の部活動指導補助員を派遣し、生徒の能力向上を図りました。また、運動部及び文化部の部活動指導員を市内で 14 名派遣しました。
1-(4)	部活動対外試合への支援 【庶務課】	部活動の各種大会の参加費や全国大会及び関東大会への交通費を支援します。	部活動に対して、各種大会の参加費や消耗品、備品等を支出しました。また、関東大会以上の試合に延べ 19 人が出場し、交通費、宿泊費等を支出しました。

[表7]

(東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査)

令和3年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(東京都統一体力テスト)について
令和3年10月8日

性別	学年	人数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長距離歩行(cm)	反復跳び(回)	持久走(秒)	シャトルラン(回)	50M走(秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)	体力合計点	(東京都) 体力合計点	
小学校	男子	1	453	116.5	21.3	9.4	11.0	26.5	25.3	-	15.8	11.4	112.6	7.3	29.3	29.2
		2	488	122.2	23.7	10.7	13.5	28.6	29.2	-	25.2	10.5	121.4	10.7	36.8	36.2
		3	474	128.1	27.0	12.4	15.9	31.4	32.3	-	32.7	10.1	132.5	13.6	42.4	42.1
		4	434	133.9	30.0	14.3	17.5	33.6	35.5	-	38.0	9.5	142.4	16.7	48.1	47.9
		5	472	139.0	33.6	16.6	19.4	34.5	39.0	-	47.3	9.2	153.0	19.9	52.9	53.3
		6	501	145.4	38.6	19.1	21.6	36.2	43.1	-	54.6	8.8	161.0	23.5	58.6	59.0
	女子	1	471	115.6	20.8	8.8	10.5	29.0	24.3	-	13.1	11.8	105.8	5.2	29.1	29.3
		2	441	121.8	23.4	10.1	13.4	31.8	27.9	-	20.1	10.9	116.2	7.0	37.3	36.7
		3	482	127.7	26.3	11.7	16.2	34.9	30.5	-	24.5	10.4	126.5	8.8	43.5	42.7
		4	468	134.2	30.0	13.8	17.8	36.7	34.2	-	31.6	9.8	136.9	11.0	50.0	49.0
		5	454	141.1	34.5	16.5	18.9	39.5	37.7	-	36.2	9.5	143.7	13.4	55.3	55.0
		6	459	147.6	40.1	18.9	20.1	41.2	40.4	-	41.1	9.2	150.7	14.7	59.6	60.0
中学校	男子	1	423	153.8	43.8	23.5	22.8	41.8	47.4	437.7	60.4	8.4	179.8	18.2	33.1	32.4
		2	383	161.7	49.5	28.6	25.3	44.3	49.7	389.2	76.5	7.8	196.0	20.2	40.4	40.1
		3	393	166.3	53.5	33.8	27.6	47.4	54.1	377.3	102.3	7.4	213.4	23.4	48.4	47.2
	女子	1	416	151.9	43.2	20.8	19.6	45.4	43.3	310.7	44.3	9.0	162.8	12.1	43.1	42.5
		2	379	155.3	47.2	23.1	21.9	45.9	44.8	298.1	49.2	8.8	167.0	13.7	47.3	47.6
		3	394	156.8	49.1	24.2	22.2	46.1	45.4	305.5	52.2	8.8	165.2	14.6	48.4	50.6

※網掛けは東京都以上の数値。

【主な課題】

- (a) 体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用について
都の平均点より低く、課題のある種目については、体育の授業・休み時間・放課後等に取り組を充実させる必要がある。
- (b) オリンピック・パラリンピック教育推進校について
オリンピック・パラリンピック教育において、各学校が5つの資質の育成と関連付けて発展させてきた活動や新たに取組を始めた活動の中から、今後も継続したい取組を、「学校2020レガシー」として設定し、学校の特色として充実を図る。
- (c) 校庭芝生化について
芝の生育状態や、除草、散水などの管理等に学校間で差がある。また、保護者や地域の方の協力をいただいているが、維持管理費用がかかる。
- (d) 運動部活動の指導・運営に係る体制整備について
「昭島市立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき指導内容の充実、生徒の安全確保、教員の長時間勤務の解消等の観点から、円滑に運動部活動を実施できるよう検討を進める必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用について
体力向上・健全育成の取組のために作成した「元気アップガイドブック」や「グッドモーニング60分」の取組を活用して、日常的な遊びや運動を通じた総合的な体力向上を図る。
- (b) オリンピック・パラリンピック教育推進校について
各学校がオリンピック・パラリンピック教育のレガシーを教育課程に位置付けて取組を充実させる。

(c) 校庭芝生化について

芝生の大規模校については、散水用に井戸水や雨水を利用するなど維持管理費の抑制に努めていく。また、踏圧等により芝生が枯れてしまった部分について、児童・生徒の教育活動と関連させて補植するなど、適切に維持していく。

(d) 運動部活動の指導・運営に係る体制整備について

「昭島市立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき、運動部活動を適切に運営していく。また、部活動指導員を活用し、部活動指導の充実を図るとともに教員の長時間勤務の解消に努めていく。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 2 学校給食・食育の充実

子どもの健全な発育のため、地元農家の協力を得て、地場野菜を積極的に活用し、安全・安心な学校給食の提供を行います。

また、「第五次昭島市総合基本計画」（平成23年5月策定）を踏まえ、学校、家庭及び地域等と連携し、食育を推進します。

そして、各学校では、「食に関する全体計画」に基づき、食育リーダーを中心とした指導体制を一層充実するとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣の形成を促進します。

【施策の取組状況】

- (1) 学校給食の充実
- (2) 食に関する指導の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	学校給食運営基本計画の策定及び実施 【学校給食課】	学校給食に関する中期的な計画を策定し、学校給食の充実を図ります。	共同調理場整備事業では、現位置での建て替え整備に向けた実施設計を行い、用途地域における許可申請及び建築確認申請を行いました。 中学校給食については親子調理方式移行に向けた、給食施設改修工事及び調理機器等の設置を行いました。
2-(1)	学校給食施設・設備の維持管理 【学校給食課】	学校給食を安定的に提供するため、学校給食の調理用施設・設備の維持管理を行います。	施設等の適正な維持管理をするため、保守点検などを行うとともに、調理機器の修繕や買換えを行い、安全・安心な給食の提供に努めました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	学校給食を通じた食育の推進 【学校給食課】	子どもに身近な教材である学校給食を通して、食料の生産・流通や地域の食文化及び適正な食生活の理解を深めます。	学校給食を通して、栄養教諭及び栄養士が児童・生徒に対し、食に関する指導を行い、食育の推進に努めました。 給食のメニューや昭島産の食材を使った料理の調理動画が読み込める料理レシピ集「おうちでLet's 食育クッキング」を配布し、料理作りのきっかけとなるよう動画配信を行いました。
2-(1)	地産地消の推進 【学校給食課】	地産地消を進め、自然に親しみ、自然のめぐみと生産者への感謝の心を育成するため、学校給食に地場食材を積極的に取り入れます。	地産地消の推進に向けて、生産者と意見交換を行い、江戸東京野菜である「拝島ネギ」を献立に取り入れるなど、使用の拡大を図りました。昭島産の梨を使ったゼリーを給食で提供する際、梨の生育、ゼリーが製造されるまでの生産者の思いを伝える、動画を作成し、各学校で活用しました。
2-(2)	お弁当の日の実施 【学校給食課】	学齢に応じたお弁当作りへの協力を通じて、家庭内での役割や食事の大切さについて考える機会となるよう、お弁当の日を実施します。	全小・中学校において「お弁当の日」を年3回実施しました。児童生徒が発達段階に応じたお弁当づくりに係わるができるよう取り組みました。
2-(2)	食に関する指導の推進 【指導課】 【学校給食課】	食育の推進を図るため、各学校で食育リーダーを選任し、食に関する全体計画を作成し、家庭へ情報発信をします。	教育課程編成時に今までの食に関する全体計画の取組を見直し、作成しました。また、各学校で食育リーダーを選任し、年2回会議を開き、学校における食育の推進に向けて、食育の取組の展開や内容の充実を図りました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(2)	栄養教諭の活用 【学校給食課】 【指導課】	共同調理場に栄養教諭を配置し、学校を巡回しながら、食に関する指導の充実を図ります。	学校と連携を図り、食に関する指導を行いました。授業では、生産者と共に野菜の育成や生産者の思いを伝える等、地域への愛着を育みました。また、各学校の食育リーダーに対し「学校におけるこれからの食育について」の講話を行い、各学校の取組が充実するよう支援しました。

【主な課題】

- (a) 新たな学校給食共同調理場の整備について
新たな学校給食共同調理場の現位置での建て替え整備について、令和6年4月の供用開始に向けて、着実に工事を進める必要がある。
- (b) 衛生管理について
安全・安心な学校給食の提供を行うため、業者、職員等へ衛生管理の徹底を図る必要がある。
- (c) 食育推進のための連携について
学校給食を通じた食育を推進していく中で、家庭や地域と連携した取組みについて、更に検討を進める必要がある。
- (d) 食育指導の充実について
食育を更に推進するため、栄養教諭の複数配置が必要である。また、食育の取組は、各学校の実態に合わせたものが必要である。
- (e) 家庭における食育の取組について
食育を推進するにあたり、家庭での食育が重要であり、保護者や児童・生徒が食育を身近にとらえる機会や情報提供が必要である。
- (f) 地産地消の推進について
地元の農産物を積極的に給食に活用し、生産者や食材への感謝の気持ち、地域への愛着を育むことができるようすることが必要である。

【今後の取組の方向性】

- (a) 新たな共同調理場の整備について
新たな共同調理場の現位置での建て替えにあたり、整備工事が円滑に進行するよう、関係部署や設計事務所などと連携を密にする中で進行管理を行う。また、新たな共同調理場の整備後の給食配送車の運用や、アレルギー対応給食の提供等について検討していく。

(b) 衛生管理について

職場環境の整備や職員の衛生管理に対する意識向上を図り、異物混入や食中毒を防いでいく。また、異物混入時の連絡体制などの徹底を図るとともに、食品の選定時にはより細かく確認することにより、食中毒の防止や安全な食材の調達に努める。

(c) 食育推進のための連携について

学校給食を通じた食育を推進するため、家庭・学校・地域が一体となって取り組める体制を整える。

(d) 食育指導の充実について

栄養教諭の増員配置について東京都教育委員会へ要望し、各学校と連携を図りながら食育を推進していく。

(e) 家庭における食育の取組について

家庭での食育を推進するため、お弁当の日の取組を家庭に周知し、理解を深めていくとともに、児童・生徒がお弁当づくりを通じて、食への関心や食事の大切さなどについて、家庭で考えるきっかけづくりとなるようにする。また、情報発信について、その手法について検討していく。

(f) 地産地消の推進について

市内の農産物の生産者と連携を深め、生産の状況に合わせた計画的な使用をする。また、特色ある伝統野菜を活用することで地域のよさを理解させ、郷土への関心を高める。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 3 学校保健安全の推進

子どもたちが安全な学校で安心して学校生活を送ることができるよう、安全教育を推進するとともに心と体の健康を保つための体制を整えます。

【施策の取組状況】

- (1) アレルギー疾患対応の充実
- (2) 心と体の健康管理の充実
- (3) 安全教育・防災教育の充実
- (4) 通学路における安全対策の推進
- (5) 中学生救命救急講習授業の実施

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(1)	アレルギー疾患対応マニュアルに基づいた対応の充実 【指導課】 【学校給食課】	学校がアレルギー疾患を理解し、個々の子どもの症状等を的確に把握します。また、個別の配慮や緊急時の対応へ備えます。	アレルギー疾患対応については、「学校生活管理指導表」の提出を受け、面談を行い、保護者、学校、教育委員会が共通認識をもち対応しています。また、学校管理職・養護教諭・栄養士・学級担任を対象としたアレルギー疾患対応マニュアルの説明会を実施し、教職員の啓発、当事者意識の向上に努めました。 なお、学校給食における食物アレルギー対応については、「昭島市学校給食食物アレルギー対応給食実施要綱」に基づき対応しています。
3-(2)	定期健康診断の実施 【指導課】	子どもの健康状態を定期的に把握するために、定期健康診断を行います。	6月30日までにすべての学校が定期健康診断を行い、子どもの健康状態を把握しました。
3-(2)	就学時健康診断の実施 【指導課】	小学校入学前の子どもに対して、安心して学校生活を始めることができるよう、就学時健康診断を行います。	各学校で10月～11月に就学時健康診断を実施し、希望する保護者に対して学校長が個別に面談を行いました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(2)	薬物乱用防止教室の実施 【指導課】	小学校低学年では「薬の正しい使い方」から学び、中学校では、薬物（シンナー・覚せい剤・危険ドラッグ等）の作用を科学的に学び、薬物の害について理解を深め、自己の生き方を考え、行動選択ができるようにします。	全小・中学校で薬物乱用防止教室を実施し、薬物の害についての理解を深めました。セーフティ教室等を活用し、教員が資料を活用して指導したり、警察官・学校薬剤師等、薬物乱用防止について専門性の高い講師を活用したりして実施しました。
3-(3)	学校地震防災計画の実施 【指導課】	各学校で策定した計画を確実に実施し、子どもの安全確保に努めます。	学校地震防災計画を基にした避難訓練を各学校において、年11回程度実施しました。
3-(3)	学校保健安全計画の実施 【指導課】	安全指導や保健指導、避難訓練、不審者対応訓練など、各学校が策定した計画を確実に実施します。	教育課程編成時に学校保健安全計画を基に実施した取組を改善して作成し、実施形態を工夫しながら取り組みました。
3-(3)	セーフティ教室の実施 【指導課】	子どもが自分で自分の身を守ることができるよう、様々な危険について対応できる能力を育成するためにセーフティ教室を開催します。	セーフティ教室の実施形態を各学校が工夫し、警察や関係諸機関と連携した犯罪被害防止や万引き防止、SNSにおけるトラブル防止に関する学習を行いました。
3-(4)	スクールガード・リーダーや見守り活動の実施 【指導課】	学校や通学路における子どもの安全確保を図るため、スクールガード・リーダーや地域・保護者による見守り活動の充実を図ります。	スクールガード・リーダーを6名配置し、通学路や校内安全について1校あたり年6回の巡回指導を実施しました。また、各学校でPTA・地域と連携し、登下校の見守りを実施しました。
3-(4)	防犯ブザーの貸与 【指導課】	防犯ブザーを小学校1年生に貸与します。	小学校第1学年907名に対して防犯ブザーを配布しました。
3-(4)	防犯カメラの設置 【指導課】	学校、地域等が行う通学路における児童の見守り活動を補完するため、計画的に防犯カメラを設置します。	見守り活動の補完的な役割を果たす、市内の小学校通学路上に設置している75台の防犯カメラの保守・点検を実施しました。
3-(5)	中学生救命救急講習の全員実施 【指導課】	昭島消防署と連携し、中学校2年生全員を対象に救命救急講習を行い、非常時への備えを学ばせます。	中学校2校において、1校は2年生、1校は2・3年生を対象に実施しました。他の4校は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止しました。

【主な課題】

(a) アレルギー疾患対応について

平成29年度に改訂し、全教職員へ配布したアレルギー疾患対応マニュアルについての周知徹底、フォローアップの実施が必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) アレルギー疾患対応について

アレルギー疾患は生命に関わる事態となるため、今後も対応マニュアルに基づいた適切な対応ができるよう各学校に指導していく。また、食物アレルギーのある児童・生徒については、学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)をもとに学校・家庭・学校給食課で情報を共有するとともに、間違いが起きないチェック体制を整備し、それぞれの児童・生徒に合った安全な対応を行う。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実

幼稚園・保育園と小学校の間において、小学校入学段階において円滑なスタートができるよう連携会議を開催したり、学級支援員の配置等を行ったりします。

また、小学校から中学校への進学時に学習や生活面においてギャップを感じることが無いように、小・中連携推進委員会において情報交換を行い、年間3回の小・中連携の日を設定するなどの取組を推進します。

また、特別な支援を必要とする子どもに適切な支援を行うため、個別の教育支援計画を小学校と中学校間で情報共有します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1	幼・保・小連携推進委員会の開催 【指導課】	幼稚園・保育園・小学校の代表者が集まり、円滑な小学校生活が始まるよう情報を共有します。	幼・保・小連携推進協議会を年3回開催し、幼稚園長、保育所長、小学校長と情報交換を行いました。また、各小学校のスタートカリキュラムの実践をまとめ、各小学校、幼稚園・保育所等に配布し、情報共有を図りました。
1	小・中連携推進の強化 【指導課】	中学校の学区ごとに年間3回小・中連携の日として具体的な取組を行うとともに、小中一貫教育の在り方について検討を行います。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインを活用した交流等を行いました。また、各中学校区において、形態を工夫して児童と生徒の交流活動を行いました。
1	学級支援員の配置 【指導課】	新1年生が学校生活を始める4月に、きめ細かな指導を行うために学級支援員を配置します。	全小学校の新1年生に学級支援員（学習支援員）を配置しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1	個別の教育支援計画の活用 【指導課】	特別な支援を必要とする子どもに対して、個別の教育支援計画を立て活用するとともに、進学時に引継を行います。	特別な支援を要する子どもには、保護者の協力を得て、本人・保護者の願いを踏まえ学校生活支援シート（個別の教育支援計画）を作成し、保護者の了解の基、進学時に引き継ぎを行いました。

【主な課題】

(a) 小・中学校の連携推進について

小中一貫教育研究指定校による実践事例等を生かし、各中学校区において児童・生徒の実態に応じた連携事業の充実を図る。連携の仕方について、更なる工夫を図っていく。

【今後の取組の方向性】

(a) 小・中学校の連携推進について

研究指定校の成果を受けて、各中学校区において義務教育9年間を見据えた育てたい子ども像を共有した上で、年3回「小・中連携の日」を設定し、引き続き教員間及び児童・生徒間の交流活動を実施する。学習や生活等のスタンダードを共通理解したり、必要に応じて統一感をもたせたりするなど、児童・生徒が円滑に学校生活を送ることができるよう、連携方法を工夫しながら事業を推進していく。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 2 日本の伝統文化教育の充実

子どもの発達の段階を踏まえ、各教科等を通じて日本の文化や伝統、東京都や昭島市の歴史と風土についての学習を充実することで、我が国と郷土を愛し、伝統や文化を継承・発展させようとする子どもを育成します。また、他国を尊重し、国際社会で活躍する子どもの育成に努めます。

また、小学校において音楽鑑賞教室・連合音楽会を実施するとともに、連合の展覧会を開催し、豊かな情操を育成します。

【施策の取組状況】

- (1) 伝統文化教育の推進
- (2) 文化行事の開催

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	各教科等における日本の伝統文化教育の推進 【指導課】	学習指導要領等の趣旨を踏まえ、各教科等において、日本の伝統文化教育を推進し、我が国の歴史や文化を継承・発展させようとする子どもを育成します。	各教科等で日本の伝統・文化について取り上げ、日本の伝統文化教育を推進しました。また、オリンピック・パラリンピック教育の一環としても実施しました。
2-(1)	体験活動を通じた日本の伝統文化教育の推進 【指導課】	生活科や総合的な学習の時間における昔あそび等の体験活動を充実します。また、日本の伝統や文化、昭島市の歴史や風土について学ぶ機会の充実を図り、伝統文化を継承・発展させようとする態度を育みます。	例年は、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材を活用した昔あそび等の体験活動や尺八や箏、三味線といった伝統楽器等の学習を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から校内での活動が中心となりました。
2-(1)	地域との連携による伝統文化教育の推進 【指導課】	外部講師として地域人材の活用を図り、東京都や昭島市の歴史や文化を学ぶことで、郷土を愛する心や継承しようとする態度を育成します。	例年は、和太鼓、茶道、箏など伝統文化に関する見識の高い外部講師を招聘し、体験的な活動に重点をおいて日本の伝統文化教育を実践していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながらの実施となりました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(2)	連合音楽行事 の開催 【指導課】	小学校5年生で音楽鑑賞教室、 小学校6年生で連合音楽会を行 い、音楽に親しむ機会を設けま す。	新型コロナウイルス感染症拡大 防止の観点から、連合音楽会は 中止とし、各学校で代替の活動 を実施しました。
2-(2)	小学校展覧会 の実施 【指導課】	小学校全校で取り組んでいる図 画工作の作品から代表作品を集 め、展覧会を実施し、鑑賞する 機会を設けます。	新型コロナウイルス感染症拡大 防止の観点から、公民館を会場 とした一斉展示は中止とし、各 学校で展覧会を実施しました。 また、市の公式ホームページ上 での展覧会も実施しました。
2-(2)	中学校合唱 コンクールの実施 【指導課】	中学校において合唱コンクール を実施することにより、協力す る大切さや豊かな情操を育成し ます。	新型コロナウイルス感染症拡大 防止の徹底を図りながら、4校 が KOTORI ホールで実施しまし た。2校は3月の実施を計画し ていましたが、まん延防止等重 点措置が発令されたため、中止 しました。

【主な課題】

(a) 地域との連携による伝統文化教育について

日本の伝統・文化を大切にしていこうとする態度を育むために、継続して体験活動を実施していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 地域との連携による伝統文化教育について

日本の伝統・文化のよさを体験的に理解できるように、系統性のある指導計画を作成できるよう指導・助言を行う。また、地域と連携した取組についてどのような形態でなら実施可能か模索し、検討していく。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 3 家庭・地域の教育力の向上

子どもたちの教育は、学校だけでなく、家庭や地域と連携し、充実させる必要があります。

学校での学習指導に加えて、家庭における基礎的な生活習慣や学習習慣を身に付けていくことも大切です。

そのために、家庭学習についての重要性を各学校が家庭に伝え、連携して取り組みます。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3	家庭学習の定着 【指導課】	学習ドリルや家庭学習のしおり等を活用し、家庭での学習習慣の定着を図ります。	タブレット端末を活用した家庭学習を行うなど、各学校で保護者と連携して学年や発達段階に応じた家庭学習の習慣化を図りました。
3	家庭における生活習慣の充実 【指導課】	「早寝・早起き・朝ごはん」などの家庭における生活習慣の啓発を行い、保護者の協力のもと、充実を図ります。	全小・中学校で、年度当初の保護者会において、「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣について啓発を図りました。また、「グッドモーニング60分」の取組では、起床時刻の目標を定め実践することで、登校前の60分間の有効活用を進めました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3	eライブラリ事業の展開 【庶務課】 【指導課】	インターネットの接続環境がある中で、学校以外でも予習・復習ができるコンテンツにアクセスできるeライブラリ事業を展開します。	GIGAスクール構想に基づき、児童・生徒一人一台に配布したタブレット端末から、eライブラリに簡単にアクセスできるようシングルサインオンを設定しました。また、タブレット端末を活用して家庭学習ができるよう、各小・中学校のホームページにリンクを貼り、各家庭に周知しました。さらに、家庭学習の利用促進資料「くじらーニング」の各家庭への配布及び教員用の家庭学習利活用手順を配布し、利用の促進を図りました。

【主な課題】

(a) 家庭学習の定着について

主体的に家庭学習に取り組むことができるよう、課題の工夫が必要である。

(b) eライブラリ事業の普及について

タブレット端末を活用して行える家庭学習用コンテンツとして子どもたちへの活用は広がったが、子どもたちが、長期休業日等に自主的に、個々の課題に応じて学習できるようにすることが必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) 家庭学習の定着について

意欲的な取組につながるよう、タブレット端末による学習コンテンツの活用や調べ学習など、学習形態や内容を工夫し、より良い学習習慣づくりに取り組んでいく。

(b) eライブラリ事業の普及について

GIGAスクール構想による一人一台端末において引き続き利用し、教員への研修も行い、より一層の活用を促進する。家庭学習活用パンフレットについては内容を精査し、児童・生徒がより興味を持って取り組むことができるよう工夫する。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 4 学校運営の改善

多くの行事、各種公開講座、学校公開週間等の機会を設け、「開かれた学校」づくりを推進し、学校運営の状況について、保護者・地域の方々の理解を図ります。

現在増加している若手教員に研修や経験を積ませることにより、リーダーとしての資質を身に付けるとともに指導力を高めます。

また、各学校の自己評価（教員による評価）、学校関係者評価（子ども・保護者、学校評議員による評価）、第三者評価（専門家による評価）を関連させ、学校の取組に対して評価と支援をいただき、学校運営を活性化します。

【施策の取組状況】

- (1) 教育推進計画の着実な実施
- (2) 「開かれた学校」の推進
- (3) 人材育成の推進
- (4) 学校評価（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	教育推進計画の 着実な実施 【指導課】	各学校が作成する教育推進計画（HDSプラン）を着実に実施し、学校運営の充実を図ります。	平成30年度から学校評価の様式と教育推進計画の様式を統合し、学校経営のPDCAサイクルに生かしています。2月の教育課程届出相談に合わせ、成果と課題を確認しました。
4-(2)	情報発信への取組 の推進 【指導課】	学校の取組をホームページや学校だより等を通じて、保護者や地域に向けて発信します。	全小・中学校がホームページや学校だより等を通じて、保護者や地域に向けて日々の教育活動について情報提供を行いました。
4-(2)	学校公開の推進 【指導課】	現在行っている学校公開（行事・公開講座・公開週間）について積極的に行うとともに、主な行事の公開の日について市のホームページで公表します。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から時間短縮や規模縮小、動線の工夫等をしながら行事を実施しました。学校公開は、動画配信等、各学校が工夫して児童・生徒の様子を保護者に公開しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(2)	スクール インターンシップ 事業の実施 【指導課】	近隣の大学と連携・協力し、小・中学校で実習活動する大学生を受け入れ、教育活動を活性化します。	小学校4校が教員を目指しているスクールインターンシップの学生8名を受け入れ、教育活動の活性化を図りました。
4-(3)	職層に応じた研修 の実施 【指導課】	職層に応じた研修を教育委員会が行うとともに、教育課題についての研修会を設定し、教員の指導力を高めます。	5月に時事的な課題を踏まえ、管理職を対象とし、学校経営研修を実施しました。4月には、主幹教諭と主任教諭の任用時研修を実施しました。年間を通じて計画的に中堅教諭等資質向上研修、1～3年次の若手教員研修も実施し、職層ごとに教員としての資質・能力向上を図りました。
4-(4)	学校評価の充実 【指導課】	自己評価・学校関係者評価・第三者評価を行い、多くの視点から学校運営を検証し、課題として明らかになった部分を改善します。	全小・中学校で自己評価及び学校関係者評価を実施し、次年度の教育課程の編成に生かしました。第三者評価については、平成29年度に検討した結果、一定の役割を果たしたことを受け、事業を終了しました。

【主な課題】

(a) 情報発信への取組の推進について

学校ホームページの更新頻度が各学校によって差がある。「開かれた学校」を推進するためにも、定期的に情報発信することが課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 情報発信への取組の推進について

学校ホームページに4月中に掲載する内容を学校に示し、5月上旬に確認し、各学校に指導・助言をする。また、指導課から依頼した通知等が確実にアップロードされているかも都度確認し、積極的な情報発信を行うよう指導・助言をする。

主要施策 5 教育環境の整備

子どもたちが安全で快適に学校生活を送り、効果的な学習活動ができるように施設や設備、教材の維持・整備を計画的に行います。

また、地域の活動拠点としての学校施設の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
- (2) 学校施設の維持と活用
- (3) 学校ICT・教育機器・教材の整備

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(1)	学校施設の大規模改修工事の計画的実施 【庶務課】	空調設備やトイレ、外壁、プールなどの大規模改修工事を計画的に実施します。	共成小ほか6校の体育館に空調設備を設置、拝島第一小校舎空調設備の更新、成隣小及び清泉中の外壁改修、東小及び光華小の便所改修などの工事を実施しました。
5-(2)	学校施設・設備の維持及び整備 【庶務課】	子どもたちが安全・安心で快適に学校生活を送れるよう、各種施設の維持管理を行うとともに、設備を利用しやすいよう整備します。	冷暖房機、プール浄化装置、消防用設備などの保守点検や、快適な学習環境の確立に向けた修繕を実施しました。
5-(2)	校内防犯体制の整備 【庶務課】	不審者等の侵入に備えて、子どもたちを守る体制を整えるとともに、設備の充実を図ります。	不審者侵入対策として、非常通報装置を設置するとともに、各学校に防犯カメラ、モニター、感知式パトライトの常時起動を行っています。
5-(3)	学校ICTの整備 【庶務課】	情報教育の推進に不可欠な教育用・教職員用コンピュータ及び周辺機器の計画的な整備を行います。	インターネット回線スピードの改善・安定化のため、回線の変更やネットワーク機器の設定変更・バージョンアップを実施しました。また、大型ディスプレイ19台を普通教室・特別教室等に設置しました。
5-(3)	教育機器・教材等の整備 【庶務課】	学習指導要領に対応した授業を円滑に実施するため、教育機器・教材等の整備を行います。	理科設備及び算数・数学設備の整備のため、小学校5校と中学校3校に顕微鏡や体積学習器等の教材を購入しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(3)	情報教育研修 の実施 【指導課】	導入した ICT 機器や教育機器・教材等を有効活用するため、情報教育研修を実施します。	ICT 担当者連絡会を月 1 回開催し、各学校のタブレット端末の活用に関わる取組や成果と課題を共有しました。

【主な課題】

- (a) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
学校施設の老朽化が進み、大規模改修工事を行わなければならない施設が多々ある。
- (b) 校内防犯体制の整備
学校の困障等によっては、不審者の学校敷地内への侵入を防ぐのが難しい。
- (c) ユニバーサルデザインの推進
黒板周りの貼り紙や机・椅子の引きずる音が気になる子どもがいる。
- (d) 教職員用パソコンの入替
教職員が利用中のパソコンについて老朽化が進み、故障や動作不良が発生している。

【今後の取組の方向性】

- (a) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
学校施設の大規模改修等工事については、実施計画に基づき実施し、学校運営に支障が出ないよう施設を整備する。
- (b) 校内防犯体制の整備
不審者対応として、校内に設置している防犯カメラによる訪問者の確認と来校者に対する教職員の声掛け等を徹底する。
- (c) ユニバーサルデザインの推進
黒板周りの貼り紙をなくしたり、棚にカーテンをつけるなど各学校に徹底させる。机・椅子の足にテニスボールをつけ騒音を減らす。
- (d) 教職員用パソコンの入替
校務に支障が出ないよう教職員用パソコンの入替を実施する。

主要施策 6 情報教育の推進

子どもたちが高度情報化社会に柔軟な対応ができるようにするため、情報機器の導入や視聴覚ソフトの活用による効果的な学習指導を行うとともに、インターネットなどを活用した学校間交流などを推進します。

また、情報リテラシー教育の徹底により、正しい利用方法の指導を行うとともに、インターネットなどの普及による多種多様な危険や犯罪に巻き込まれないよう、情報教育の充実を図ります。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
6	小・中学校コンピュータ等の活用の推進 【指導課】	子どもが ICT の活用方法に慣れ親しみ、習熟することなどを通じて、急速に進展する情報化社会に対応した能力を身に付けます。	各教科等の学習を通してタブレット端末に慣れ親しむとともに、プログラミング的思考や情報活用能力の育成を行いました。
6	タブレット端末の活用 【指導課】	タブレット端末の教育効果を検証し、計画的な配備を行い、子どもたちの活用能力を育成します。	各教科における学習や、プログラミング教育、家庭学習等において、効果的に活用しました。
6	情報活用能力の育成 【指導課】	コンピュータや学習情報センターとしての図書館を利用した学習を通して、子どもの情報活用能力を育成します。	国語・社会・総合的な学習の時間等において、図書館やタブレット端末を活用した調べ学習を授業に取り入れ、子どもの情報活用能力を育成しました。
6	情報モラル教育の推進 【指導課】	情報活用には光と影の部分があり、SNS やスマートフォンの活用には、それらを踏まえた情報モラルが必要であることを指導します。	各学校において教育活動全体を通して、SNS 東京ノート等を活用し、情報モラルの向上について指導しました。また、セーフティ教室では、SNS やスマートフォンの正しい利用方法について指導しました。

【主な課題】

(a) 情報モラル教育の推進について

SNSやオンラインゲーム等を用いた子ども同士の不適切な関わりから生じるいじめなどの諸問題は、低年齢化の傾向が見られる。これらの問題に対して学校で計画的な指導に取り組み、家庭に情報発信する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 情報モラル教育の推進について

スマートフォンやインターネットから生じるネットいじめ等の諸問題について、児童・生徒に危険性を認識させる。また、情報活用によるメリットやマナーを守った適正な使用により生活を向上させることを目的とした指導を、セーフティ教室や学級活動、道徳の時間等で実施する。学校便り等で保護者にも情報提供を行い、情報モラルに関する啓発活動を推進する。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 7 環境教育の推進

自然に親しみ、自然を大切にすることを育成するとともに、地球環境の保全について考え、行動できる教育を推進します。

また、学校・家庭・地域の連携・支援体制を確立し、環境教育のより一層の充実を図ります。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
7	豊かな自然環境を生かした教育の推進 【指導課】	総合的な学習の時間を活用して、農業体験や昭島に残されている自然やその保全など、地域の教育資源を生かした教育活動を実施します。	自然環境の保全に向け、調べ学習を充実させ、学びを深めました。来年度は、社会情勢等を考慮しながら、活動方法等を工夫し、体験活動を更に充実させていきます。
7	環境月間における環境教育の推進 【指導課】	環境月間（6月）に関連して、各教科等で環境教育を推進します。	各学校が、それぞれの学校の実態に応じて、各教科等との関連を図りながら、4R・節電・節水等に取り組みました。
7	みんなで実行 ISO の実施 【指導課】	電気・ガス・水道について使用量等の調査活動を通して、環境への配慮や節約意識を醸成します。	電気・ガス・水道について使用量が見えるようにし、全教職員に節約意識を周知させ、環境への配慮を行いました。

【主な課題】

(a) ごみの減量について

ごみの減量は、昭島市全体の課題であるため、子どもたちが主体的にごみの減量やリサイクルに取り組む態度を継続して育てていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) ごみの減量について

各学校でごみの減量や分別の取組を徹底するとともに、各教科等の学習を生かし、無駄がないか考えながら消費活動を行えるよう指導していく。また、子どもたちがごみの減量に主体的に取り組む態度を育てるため、日常生活指導や「ごみ減量ポスター」の作成等の機会を捉えて指導する。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 8 国際理解教育の推進

グローバル化が進展するなかで、子どもたちが広い視野をもち、異文化を理解し、世界の人々と協調しながら生きていく態度を身に付けることを目指し、国際理解教育を推進します。

また、国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育てるために、小・中学校において外国語によるコミュニケーション能力の育成を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 外国語教育・外国語活動の推進
- (2) 国際理解に関する事業の実施

番号	施策・事業名	概要	取組内容
8-(1)	外国語教育や外国語活動の充実 【指導課】	外国語の授業や外国語活動を通じて、小学校段階から系統的に指導を行い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力の基礎を培います。	小学校と中学校で情報共有し、授業改善の視点について話し合いました。授業交流については実施が難しい状態であったため、来年度に向けて実施方法等を工夫していきます。
8-(1)	ALT（外国語指導助手）派遣事業の充実 【指導課】	国際理解教育を一層推進するために、各小・中学校にALTを派遣し、中学校外国語教育及び小学校外国語活動の充実を図ります。	中学校外国語の授業では外国語を母国語とするALTを全中学校6校に、1校あたりで約80日派遣しました。小学校外国語活動では、小学校5・6年生は各学級に平均約32時間、小学校3・4年生は各学級に平均約20時間派遣しました。
8-(1)	小学校外国語カリキュラムの開発 【指導課】	学習指導要領の内容を踏まえ、文部科学省が発行する外国語活動副教材に合ったカリキュラムを実施します。	小学校段階から系統的に指導を行い、コミュニケーションへの興味・関心を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
8-(2)	平和教育の充実 【指導課】	他者と共存できる感性を育み、命と人権に関する身近な問題から平和な社会的関係のあり方を考えたり、世界の人々と緊密につながっていることを理解したりして、共に友好的に生きることのできる基礎を養います。	小・中学校の教科等の指導においては、社会の授業を中心に、平和な社会的関係の在り方を考えたり、世界の人々と緊密につながっていたりすることへの理解を図りました。また、各学校が人権教育を推進する中で、命と人権の大切さを指導しました。
8-(2)	中学生英語スピーチコンテストの実施 【指導課】	英語による中学生の主張の機会を設け、話すことを中心として積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ります。	中学生15名が出場し、「未来をひらく発表会」において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができました。
8-(2)	英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業の実施 【庶務課】 【指導課】	国内施設に宿泊し、外国人学生がリーダーとなり、英語研修や英語を使ったゲームなどを行い、外国人とのコミュニケーションを図る楽しさを実感させます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度は実施しませんでした。
8-(2)	中学生海外交流事業の実施 【庶務課】 【指導課】	オーストラリア（パース）にある学校との相互交流を通して、直にその国の文化や歴史、言語に触れることで、国際的視野を広げさせます。	新型コロナウイルス感染症拡大により海外との往来が困難であることから、令和3年度は実施しませんでした。

【主な課題】

(a) 外国語教育や外国語活動の推進について

小学校で身に付けるべきことを確実に身に付けさせ、中学校1年生の始めの段階で生徒が学習につまずかないようにする必要がある。小学校と中学校の連携を図り、授業改善を推進していく必要がある。

(b) 国際理解に関する事業の実施について

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施できなかった。

【今後の取組の方向性】

(a) 外国語教育や外国語活動の推進について

東京都教育委員会から委託を受けた中学校英語教育推進モデル地区事業の研究の成果を生かして、中学校卒業時のゴールを見据え、小学校第6学年までに学ぶ内容と、中学校で学ぶ内容について教職員が共通理解して取り組めるように研修する。また、小中連携の取組等を活用し、小・中学校の教員の連携を強化することで、授業改善を推進していく。

(b) 国際理解に関する事業の実施について

中学生海外交流事業では世界的な新型コロナウイルス感染症拡大のため、海外往来による交流再開の見通しが見えない中で、オンライン交流を含めた今後の交流事業の在り方について、検討する。

また、英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業においても、十分な感染症対策を講じたうえで、今後どのように実施していけるか検討する必要がある。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 9 キャリア教育の推進

子どもの望ましい勤労観・職業観を育て、将来の進路につなげるキャリア教育が重視されています。職場訪問や職場体験などの体験活動は、子どもの勤労観・職業観を育成する上で大きな期待が寄せられ、小学校段階から意図的・計画的に実践する必要があります。自立した社会人・職業人として生きていくために求められる資質、能力の育成を目指して、キャリア教育を推進します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
9	キャリア教育全体計画の作成と年間指導計画の作成 【指導課】	各学校において「キャリア教育全体計画」に基づいた年間指導計画を作成し、子どもが将来への夢をもてるようにするとともに、望ましい勤労観を育成します。	一人一人のキャリア形成と自己実現に向けて、現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ったりしました。
9	中学生職場体験の充実 【指導課】	全中学校において2年生による職場体験を実施し、働くことの意義や勤労観・職業観を育成するとともに、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、職場体験は全中学校で中止としました。各学校では、職業調べ、身近な人への職業インタビュー、ハローワークの職員による職業講話などを実施しました。
9	職場体験受入事業所の確保・拡大 【指導課・各課】	生徒に幅広い選択肢の中から自分の将来の夢に近い事業所や興味のある事業所で働くことを体験させ、好ましい勤労観を育成します。そのために中学生職場体験の受入事業所の確保に努めます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、職場体験は全中学校で中止としました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
9	キャリア教育 推進委員会の活用 【指導課】	小・中学校のキャリア教育推進担当教員が集まり、講師を招いた研修会や情報交換を行うとともに、研究授業を通じて教員の指導力の向上を図ります。	キャリア教育の推進について、進路指導主任会において、キャリア・パスポート（昭島市版キャリアアルバム）を活用したキャリア教育の実践事例や今後の課題等について協議しました。

【主な課題】

- (a) 職場体験受入事業所について
すべての生徒が希望する事業所で体験することが難しいため、体験できる事業所を広げる必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 職場体験受入事業所について
進路指導主任会等で学校間の情報交換を行い、事業所の確保に引き続き努める。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 1 生涯学習

平成 25 年 3 月に策定した「あきしま学びぷらん（第 2 次昭島市生涯学習推進計画）」に基づき、「だれもが、いつでも、どこでも」学ぶことができる生涯学習社会の実現に向けて、学習の機会と場の充実を計画的に推進します。

また、市民の学習ニーズの把握につとめ、学習講座の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 生涯学習推進体制の整備
- (2) 生涯学習の推進
- (3) 公民館活動の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	社会教育関係団体 指導者育成 【社会教育課】	社会教育関係団体の育成、発展を図るため団体の登録、補助事業や指導者育成の研修会などを実施します。	社会教育関係団体、地域活動に携わる方々向けの研修会、市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議“若者版”をオンラインで開催しました。 参加者 23 人
1-(1)	生涯学習推進のための校区協議会 機能の充実 【社会教育課】	「小学校区を中心にした生涯学習」を推進するために、PTA や自治会などと連携し、実施団体の設置や活動を支援します。	生涯学習校区協議会育成補助金については、活動休止により実施しませんでした。
1-(1)	市立会館 管理運営事業 【社会教育課】	11 館設置されている市立会館が市民の皆様の活動拠点として、また、地域の情報交換の場としての充実を図ります。	大神会館外壁等改修工事及び富士見会館空調設備改修工事を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、手洗い時の感染防止強化のため便所手洗い等自動水栓化修繕を実施しました。
1-(2)	生涯学習援助協力者の登録制度の充実と活用の促進 【社会教育課】	生涯学習援助協力者制度の充実を図り、登録者への支援の場の提供など支援者の充実を図ります。	生涯学習援助協力者 登録者 7 人 生涯学習サポーター養成講座 1 期（2 月～3 月）開催 参加者 7 人

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(2)	土曜地域ふれあい事業 【社会教育課】	子どもたちの居場所づくりと地域の方々の技能や技術を生かした生涯学習の場の充実を図ります。	陶芸教室は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。
1-(2)	生涯学習情報センターの設置 【社会教育課】	生涯学習情報雑誌「あきしま学びガイド」による生涯学習の機会の情報提供を図り、生涯学習センターとしての機能強化のため市立会館の充実を図ります。	4月に発刊 市主催の講座・イベントなど219件を掲載しました。 配付用 540部
1-(2)	成人式の実施 【社会教育課】	昭島市の将来を担う市民の成人式を、新成人による実行委員会を組織し、実施します。	1月10日に新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じながら、午前・午後の2部制で市内ホテルにて開催しました。 実行委員 8人 参加者 686人
1-(3)	公民館事業の充実 【市民会館・公民館】	仲間づくりの場、集団活動の場、学びの場、文化創造の場として明日を築く市民が育つ場としての事業を展開します。	障害のある青年の交流講座、各種講座、自主企画事業を実施しました。
1-(3)	公民館利用団体懇談事業の実施 【市民会館・公民館】	公民館がより一層効果的に活用されるよう、公民館運営に関する意見交換会を公民館利用登録団体と行います。	公民館利用者連絡会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。公民館活動や利用に関するアンケート調査を行いました。
1-(3)	市民講座の実施 【市民会館・公民館】	地域課題や生活課題に即したテーマでの各種講座を開設し、市民の皆さんの自主的な学習の場を提供します。	子育てセミナー、男女共同参画セミナー、社会文化セミナー、歴史文化セミナー、シニア講座、時局講演会、地域課題講座等を実施しました。
1-(3)	市民大学の実施 【市民会館・公民館】	市民としての自治能力を培い、学びの成果を地域で活かせるように、学術的な学びの場を提供する昭島市民大学を実施します。	市民大学第10期1年次（全20回）受講終了者 21名 市民大学フォーラム講演会を開催しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(3)	シニア講座の実施 【市民会館・ 公民館】	高齢者が抱える様々な課題を学び、交流し、学びの成果を自身の生活に活かせるような講座を実施します。	「健康寿命を延ばす秘訣～元気で長生き100歳も夢じゃない～」の講座を実施しました。 全4回 参加者 14人
1-(3)	障害のある青年の交流講座の実施 【市民会館・ 公民館】	障害のある青年たちが、健常な青年たちと共に活動し、交流を深め、共生できる社会の実現のために、多様な機会の提供と支援に努めます。	開講のつどい、よさこいソーラン、工作、ハイキング、クリスマス会、などを実施しました。 全9回 参加者 23人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、回数を減らし活動しました。

【主な課題】

(a) 生涯学習事業等について

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、新しい生活様式における各種事業等のあり方について引き続き検討する必要がある。

また、生涯学習情報は、冊子や団体紹介カードなどの活用や窓口での案内など情報提供に努めているが、学びたい市民と団体とをつなげる機能が弱い。

(b) 市立会館管理運営事業について

市立会館は、設置後50年以上経過する施設があり、経年劣化による施設の改修工事や維持管理を進める必要がある。また、省エネルギー性能の向上など環境に配慮し時代の変化に応じた施設機能の向上を図る必要がある。

また、デジタル機器の利用者に向けたインターネット環境の整備が必要である。

(c) 土曜地域ふれあい事業について

学校週5日制実施により始めた事業であるが、児童の習い事や家族で過ごす時間の増加などにより参加者が減少傾向にある。加えて、ボランティア講師の高齢化が顕著となっており、新たな人材発掘も容易には進まないことから事業の継続について検討が必要である。

(d) 社会教育関係団体指導育成事業について

社会教育委員との連携事業「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」において、団体の活動の悩みや情報交換の場の提供をしているが、若い世代の会議への参加について、更なる働きかけが必要である。

(e) 公民館の役割及び支援体制について

誰もが自由に学べる拠点として市民が求める多様な学習課題と時局の流れを的確に把握する必要がある。公民館で学んだことを地域に生かすということ、講座を通じ地域活動を活性化させることが公民館活動の目的のひとつであることから、その活動の場の提供や、活動の支援をするために、庁内や関係機関との連携を図ることが必要である。

また、新しい生活様式における事業のあり方等についての検討が必要であ

る。

(f) 市民会館・公民館の施設整備について

市民会館・公民館は昭和57年の開館以来40年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいる。市民に安全で快適な施設を提供するために、実施計画に基づき、大規模改修工事を行っている。今後は公共施設等総合管理計画における個別施設計画に基づき、適切な施設整備を行う必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 生涯学習事業等について

新しい生活様式における生涯学習事業等のあり方について、ICTの活用も含め引き続き検討を進める。

また、冊子による生涯学習の情報提供を継続するとともに、生涯学習サポーターの育成と活用を図り、学びたい市民と活動団体とをつなげるコーディネーターの設置を進めていく。また、サポーターの養成については、養成講座修了者の会、昭島生涯学習サポーターの会まなぶんの活動を支援していく。

(b) 市立会館管理運営事業について

昭島市公共施設総合管理計画の市立会館個別計画により各施設の特性に適した保全を実施し計画的な改修と維持管理に努めていく。

また、Wi-Fi環境を整備し利用者へ周知するとともに、デジタルデバイス対策の事業を企画する。

(c) 土曜地域ふれあい事業について

学校公開日、土曜授業日などのほか、児童生徒の習い事等で土曜日に実施する事業への参加が減少傾向にあることから、本事業は縮小若しくは廃止し、より市民ニーズの高い事業の検討を進める。

(d) 社会教育関係団体指導育成事業について

引き続き「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」を通して、団体活動におけるスキルアップと横のつながりをつくるための場の設置を進めていく。

(e) 公民館の役割及び支援体制について

市民が求める多様な学習課題と時局の流れを把握するための情報収集を行うとともに、デジタル化に向けた環境整備を行いながらデジタルデバイドの解消に努める。また公民館の活動や役割について学習会の開催など、積極的な周知を行っていく。

また、市民の自主的な公民館活動を支え、地域での活動の場に関する情報を提供できるよう努めるとともに、庁内・関係機関との連携について引き続き検討していく。

(f) 市民会館・公民館施設整備について

公共施設等総合管理計画における個別施設計画に基づき、施設の長寿命化を図り、計画に沿った改修事業を着実に進める。また、利用者へのサービス向上と、維持管理経費節減のため、管理運営の手法についても検討を行う。

主要施策 2 図書館活動

市民図書館は、市民生活に欠かすことのできない教育文化施設です。子どもの読書活動推進のための様々な事業、青少年の読書活動、図書館利用の推進及びあらゆる人に対応した読書環境への整備を進めます。

また、(仮称)教育福祉総合センターの中に中央図書館の建設が計画されており、図書館機能の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 図書館サービスの充実
- (2) 図書館資料の充実
- (3) 子どもの読書活動の支援
- (4) サービス網の整備

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	中央図書館の整備 【市民図書館 管理課】	中央図書館建設に向けて図書館機能の充実を図ります。	新しい図書館は貸出・返却、学習席等の利用に ICT を活用し、セルフサービス化を推進するとともに、自動化書庫の導入による省力化も実現し、利便性が高く効率的な運営が可能となりました。また、ティーンズコーナーや屋外読書ひろば等の多彩な閲覧環境と個人学習席やグループ学習室、研究個室等の学習環境を備えました。 旧市民図書館閉館に伴い、令和2年度から引き続き東部地区の臨時窓口を玉川会館内に開設しています。
2-(1)	障害者用録音図書 のデジタル化 【市民図書館 管理課】	障害者用録音図書の安定供給や利便性の向上を図ります。	デージー図書（録音図書の CD 版）を3タイトル制作し、また、他の図書館からの借用を含め301タイトルを貸出しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	図書館ボランティアの活用や市民図書館協議会との連携 【市民図書館管理課】	図書館ボランティア講習会を実施し、活躍の場を広げるとともに、市民図書館協議会との共催事業を企画するなど、市民が参画した図書館づくりに努めます。	音訳者講習会を実施しました。
2-(2)	蔵書の充実 【市民図書館管理課】	市民の身近な課題解決を支援したり、ブックスタートに適したりする図書を中心に蔵書を充実させていきます。また、利用者のリクエストや社会ニーズを考慮した資料の整備に努めます。 さらに、児童・青少年を対象とした各種事業を行うとともに、児童図書の充実に努め、児童・青少年の図書館利用の促進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書購入冊数 17,132冊 ・多文化サービスの充実を図るため、中国語、韓国語、タガログ語、ネパール語、フランス語、英語などで記された図書を購入しました。 ・電子書籍サービスを実施しています。(4,741タイトル)
2-(3)	第二次子ども読書活動推進計画の推進 【市民図書館管理課】	平成24年3月に策定した計画を学校等とともに連携をしながら実施します。	平成29年度より第三次計画へ移行し、引き続き学校等との連携を図りながら子ども読書活動の推進に努めました。
2-(3)	第三次子ども読書活動推進計画の策定及び実施 【市民図書館管理課】	第二次子ども読書活動推進計画の取り組み状況や国の計画などを参考に第三次子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読書への関心を深める事業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生を対象に貸出券を交付しました。 ・おはなし会やものがたりライブなど、読書習慣の定着を促がす事業を実施しました。 ・交流ひろばを利用して季節展示を実施しました。 ・令和4年度から5か年の計画期間とする新たな計画を策定しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(3)	学校図書館との連携 【市民図書館管理課】	小学校教育研究会との連携や職員の学校派遣を行い、連携を深めます。また、中学校の読書活動推進委員会と協働し、中学生の読書活動を推進します。	・小学校へ職員を派遣し、ブックトークを6回実施しました。 ・小学校及び中学校の司書教諭等を対象とした司書教諭等研修会は新型コロナウイルス感染症拡大抑止のため中止となりました。 ・児童・生徒による図書館見学(877人)
2-(3)	中・高校生の読書フォーラム 【市民図書館管理課】	中・高校生の読書フォーラムを実施し、読書に関する興味・関心を深めます。	市内の高校生を実行委員として、中学生のビブリオバトル、実行委員による図書紹介のプレゼン、出版社代表による記念講演を実施しました。 参加者数：15人
2-(4)	移動図書館の実施 【市民図書館管理課】	図書館から遠い地域や身体的理由で図書館を利用できない方々のために、移動図書館「もくせい号」による利用サービスの向上を図ります。	従来市内13箇所のサービスステーションに加え、東中神駅南口駅前ロータリーステーションにおける夜間巡回も含め、延べ262回実施しました。
2-(4)	近隣他市の図書館との連携 【市民図書館管理課】	近隣他市の図書館との相互利用について模索し、市民の利便性を高めます。	現在、立川市、福生市、武蔵村山市、あきる野市との相互利用を継続しています。

【主な課題】

(a) 図書館資料の充実について

市民の学び成長を応援し、身近な課題解決に資する資料を中心に、電子書籍も含めた蔵書の充実を図る必要がある。

(b) 子どもの読書活動の支援について

第四次となる新たな子ども読書活動推進計画の目標達成に向け効果的な事業を実施する必要がある。

(c) 学校図書館との連携について

子どもの読書力向上のために、学校と連携して団体貸出による学校図書館の支援、ブックトークなどの学校訪問、司書教諭研修など学校支援を充実する必要がある。

(d) 図書館ボランティアとの協働について

読み聞かせや排架等図書館ボランティアの活躍の場を広げ、市民が参画した図書館活動を推進するとともに、図書館を拠点とした活動を支援していく必要がある。

- (e) 高齢者への対応について
今後更に進む高齢化に対応し、高齢者にとっても利用価値の高い図書館となるよう、魅力的な事業展開が求められる。
- (f) 市民総合交流拠点施設内に設置する分館について
令和7年度開設予定の市民総合交流拠点施設内に設置する分館について具体的な検討を進める必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 図書館資料の充実について
市民の様々な情報要求及び様々な言語に対応できるよう、電子書籍も含めた図書館資料の充実に努める。
- (b) 子どもの読書活動の支援について
子ども読書活動推進計画に基づき、様々な事業の実施を図るとともに、調べる学習コンクールへの積極的な参加を促す取り組みを行う。
- (c) 学校図書館との連携について
団体貸出や学校を訪問してのブックトーク等の実施を継続するとともに、学校図書館運営において要となる司書教諭に対する研修会を実施する。
また、学校の要望を反映し、調べ学習に対応した資料の収集と提供に努める。
- (d) 図書館ボランティアとの協働について
広くボランティアを募り、読み聞かせ等ボランティア講習会を実施し、ボランティアのスキルアップを図るとともに、市民団体等とのコラボレーションにより、図書館を拠点とした活動の支援に努める。
- (e) 高齢者への対応について
高齢者向けの図書館オリエンテーションを実施する等、図書館を身近な施設と捉えてもらうとともに、高齢者向けの資料の充実及び講演会等の催し物の実施に努める。
- (f) 市民総合交流拠点施設内に設置する分館について
令和7年度に開設予定の市民総合交流拠点施設内に設置する分館について、地域の実情に合わせ具体的な検討を進める。

主要施策 3 文化・芸術

昭島市文化芸術の振興に関する基本方針に基づき、市民の文化活動の振興を図るため、身近な場所での多様な芸術鑑賞の機会の提供、また、日常的な文化活動や発表の機会の提供を行い、市民の文化活動や教養を高め、感動や喜び、精神的な安らぎをもたらす心豊かにする文化芸術活動を推進します。

【施策の取組状況】

- (1) 市民文化の育成
- (2) 自主的な活動の支援
- (3) 文化芸術に関する意識の高揚
- (4) 文化芸術に接する機会の拡充
- (5) 文化芸術を担う人材の育成

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(1)	市民文化祭の実施 【市民会館・公民館】	昭島市の文化の祭典として、多くの市民が日頃の文化活動の成果を発表する場として、また市民相互の交流を図る機会として市民文化祭を実施します。	市民文化祭 10月9日～11月3日 演奏・演芸・展示・発表を実施しました。 20部門 参加者 8,041人
3-(2)	文化・芸術活動団体への支援 【市民会館・公民館】	自主的な文化芸術活動を行っている団体への活動場所の提供や発表の機会の拡充に努めるとともに、文化芸術に関する情報を提供します。	文化芸術活動を行っている公民館登録団体に、公民館の使用料を免除し活動場所の提供をしました。また、発表の場として市民文化祭を実施しました。
3-(3)	文化芸術に関する講座・講演会の実施 【市民会館・公民館】	日々の生活に潤いをもたらす文化芸術作品に触れ、豊かな感性を養えるよう関心と理解を高める講座・講演会等を実施します。	自主市民講座「クラシックギター入門」を実施しました。 全6回 参加者 9人 歴史文化セミナー「昭島の祭り未来へと継承しよう」を実施しました。 全3回 参加者 20人

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(4)	市民会館自主文化事業の充実 【市民会館・公民館】	昭島市民会館文化事業協会を中心に質の高い多様な芸術・文化事業を実施し、市民文化活動の振興と地域文化の向上を目指します。	感染拡大防止対策を講じ、市民会館文化事業協会による、歌謡、クラシック、寄席など多岐にわたる様々な鑑賞事業を、共催を含め9事業、大ホールで実施しました。 入場者 延べ3,501人
3-(4)	公民館ふれあいコンサートの充実 【市民会館・公民館】	市民のみなさんに身近な場所で芸術鑑賞の機会を提供します。	ふれあいコンサートを2回実施しました。 ・12月25日 参加者 68人 「古き良きシャンソンの名曲とオリジナル AJARAN クリスマスコンサート」 ・2月19日 参加者 59人 「SPRINGCONCERT～ソプラノ、フルート、ピアノによるハーモニー～」
3-(5)	伝統芸能の後継者の育成 【社会教育課】	市民の共有の財産であり、将来の文化芸術の発展の基礎となる伝統芸能を保存・継承するための支援をします。	【文化財保存事業補助金】 ・拝島日吉神社祭礼囃子保存育成事業 120,000円 ・福島ばやし保存育成事業 60,000円

【主な課題】

(a) 文化芸術の振興について

令和4年度から5か年を計画期間とする「昭島市文化芸術推進基本計画」における基本方針である『文化芸術の振興』を計画的に推進していくため、市の関係部署とのさらなる調整や、民間団体との連携強化を引き続き検討する必要がある。

(b) 文化芸術活動の推進について

公民館事業として市民文化に接する機会の拡充としてICTを活用した新たな取り組みを検討する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 文化芸術の振興について

心豊かで活力ある昭島市を実現し、今後の文化芸術の振興に向けた具体的な施策を展開していくため、市民の自主的な文化芸術活動を支援し、市内のそれぞれの主体が多様な特性を生かしながら効果的に推し進めることができるよう取り組む。

(b) 文化芸術活動の推進について

市民文化祭をはじめ、市民による自主的な文化芸術活動の発表の場を提供するとともに、ICTを活用した新たな文化芸術の活動を推進する。

また、活動の促進に向け、文化芸術に関する情報発信及び施設の限られたスペースを有効活用し、誰でも気軽に情報を得ることができるよう検討を進める。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 4 スポーツ・レクリエーション

健康志向の高まりにより、生涯にわたりスポーツに親しみ、個々のライフステージに応じたスポーツの楽しみ方が求められ、スポーツ・レクリエーションの種目も多様化しています。

こうした中で、市民が健やかでより豊かな生活を実現するため、「いつでも どこでも いつまでも」スポーツ・レクリエーションを親しむ地域スポーツ社会と市民の多様なニーズに取り組みます。

【施策の取組状況】

- (1) スポーツ振興計画の推進
- (2) スポーツライフの形成
- (3) スポーツ・レクリエーションの基盤整備

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	スポーツ振興計画の推進 【スポーツ振興課】	スポーツ振興計画の基本施策の実現に向けて着実に実施します。	現行のスポーツ推進計画で定める4つの基本施策に基づき、誰もがスポーツに親しむ取り組みの支援や、競技スポーツの支援、スポーツを支える人づくりや、地域の絆づくりなど、総合的に施策を推進しました。
4-(1)	スポーツ推進計画の策定及び実施 【スポーツ振興課】	平成23年度に改正された「スポーツ基本法」に基づき、国の定めた「スポーツ基本計画」を参酌し、「昭島市スポーツ推進計画」を策定し、実施します。	令和4年度から5か年を計画期間とする新たなスポーツ推進計画を策定しました。
4-(2)	チャレンジデーの実施 【スポーツ振興課】	市民のスポーツへの参加のきっかけづくりと健康づくりを図るため「チャレンジデー」を実施します。	平成30年度よりチャレンジデーからスポーツ週間へと変更しましたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。 予定期間 6月21日から27日
4-(2)	各種スポーツ・レクリエーション教室の充実 【スポーツ振興課】	多様なニーズに応じたスポーツ・レクリエーション教室を開催し、スポーツをするきっかけづくりとともに健康づくりを支援します。	幅広い年齢層の参加者を対象とした教室を開催しました。 開催教室数 全33教室 参加者 延べ6,965人

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(2)	市民体育大会 の実施 【スポーツ振興課】	競技スポーツとしての日頃の練習成果を発揮する場及びスポーツを通して、地域の交流を深め、活性化を図る機会を提供します。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、種目別大会の一部並びに自治会ブロック別運動会を、中止しました。 開催種目 14 種目 参加者 4,009 人
4-(2)	スポーツによる市民 交流大会の実施 【スポーツ振興課】	スポーツを通して、市民の健康づくりを図り、地域の交流と親睦を深める大会を実施します。	自治会対抗スポーツ大会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。 開催予定日 3月
4-(2)	気軽にスポーツを 親しむ事業の実施 【スポーツ振興課】	子どもから高齢者までが様々なスポーツを体験し、身近で気軽にスポーツに親しむことができる場を提供します。	親子ふれあいスポーツデー及びスポーツレクリエーションフェスティバルを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。
4-(2)	高齢者のためのス ポーツ大会の実施 【スポーツ振興課】	高齢者が生涯スポーツに親しみ、健康維持・増進を図るためのスポーツ大会を実施します。	シニア軟式野球大会を予定しておりましたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。 開催予定日 11月7日
4-(2)	新春駅伝競走大会 の実施 【スポーツ振興課】	「走る」ことによるスポーツの振興と健康づくり及び市民の交流を深める機会を提供します。	第 67 回の大会を予定していたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。
4-(2)	スポーツ力向上 事業の充実 【スポーツ振興課】	競技力向上を目的として、トップアスリートなどを招き、専門的な指導を実施します。	昭島市スポーツ協会の所属スポーツ団体において実施しました。 実施団体 5 団体 参加者 291 人
4-(2)	スポーツ推進委員 によるスポーツ の推進 【スポーツ振興課】	各小学校区域にスポーツ推進委員を配置し、市民の健康づくりのためにスポーツの推進を図ります。	定例会時において、インドアペタングやボッチャの体験会を実施し、ルール等を学びました。 市民健康づくり歩け歩け運動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(2)	大会への選手・役員の派遣 【スポーツ振興課】	スポーツを通して、近隣市等との交流を深めるとともに、競技力向上のために各種大会に選手・役員を派遣します。	都民体育大会などに昭島市代表として選手を派遣しました。 派遣大会数 2大会 派遣選手数 32人
4-(3)	指導者向け講習会の実施 【スポーツ振興課】	スポーツ団体の指導員向けの各種講習会を実施することにより、さらなる競技力の向上を図ります。	指導者を対象に、上級救命講習会を実施しました。 参加者 19人
4-(3)	運動施設の整備 【スポーツ振興課】	市内各運動施設の適切な維持管理を図るとともに、利用者が安心して利用できる施設整備を行います。	老朽化が進む各スポーツ施設において、建物・機械設備など各種修繕を行いました。 令和4年度に実施予定の総合スポーツセンター外壁等改修工事の設計を行いました。 多摩川河川敷の移動式トイレの買替を行いました。
4-(3)	学校施設の活用 【スポーツ振興課】	学校教育の場である学校施設の運動施設を、夜間及び休日に、地域のスポーツ活動の場としての活用を図ります。	校庭夜間照明設備開放 ・つつじが丘小 利用者 200人 ・旧拝島第四小 利用者 40人 ・昭和中校庭 利用者 262人 ・昭和中テニスコート 利用者 20人 旧拝島第四小学校運動施設開放 校庭 2,738人 体育館 0人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開放を中止した期間あり。
4-(3)	スポーツ団体への支援 【スポーツ振興課】	各種スポーツ団体への支援に努めるとともに、組織化の推進及び活動の活性化を図ります。	スポーツ団体の普及及び競技力向上のため各団体に補助金を拠出しました。 団体数 7団体 補助金額 3,445,204円

【主な課題】

(a) 運動習慣の定着について

新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の中止や、施設の休館等により運動習慣の定着が難しい状況となってしまった。コロナ禍における新たな生活様式に沿った運動機会の提供や方策について検討が必要である。

(b) 国際的な大会のレガシー継承について

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で高まったスポーツに対する機運をレガシーとして継承していく必要がある。

(c) 運動施設の整備について

老朽化が進む各運動施設の修繕等の対策が必要である。また、新たに設置を予定している立川基地跡地内調節池の平常時利用の運動施設としての設置については、近年の気象状況に鑑み、残堀川から水が流入した場合の利用者の安全対策や、流入後の施設への影響等を再検討する必要がある。

市民プールについては、令和2年度の劣化度調査により現状での施設再開が難しいことが判明した。今後はレジャー施設としてのプールのあり方等の検討が必要となっている。

【今後の取組の方向性】

(a) 運動習慣の定着について

新型コロナウイルス感染症の対策について、適宜対応が可能な運動機会の提供や方策についての検討を進めるとともに、新たな生活様式に対応した事業の見直し等も検討を進める。

(b) 国際的な大会のレガシー継承について

東京2020パラリンピック競技大会時に金メダルを獲得した“ボッチャ”競技を多摩地域全域でのインクルーシブ競技とするために、市での体験会や大会等の開催を通じ、パラリンピック競技への関心を高める啓発活動や、ジュニア育成のため、競技団体と連携し競技力の向上を目指すとともに、市民の誰もがスポーツに親しむための機会の充実を図る。

(c) 運動施設の整備について

健康づくりとしての生涯スポーツの関心が高くなっている現状を踏まえ、より多くの市民に安全・安心なスポーツ環境を提供するため、老朽化が進む運動施設の計画的な修繕を昭島市公共施設等総合管理計画における個別計画により実施する。総合スポーツセンターにおいては、大規模改修工事として、B棟・C棟の外壁等改修工事を予定しているが、施設全体の老朽化が顕著なため、今後の施設のあり方について検討を進める。

また、レジャー施設としての市民プールのあり方の検討を進める。

残堀川調節池の平常時利用の運動施設整備については、施設利用者の安全対策、施設への流入時の影響等を調査し、運動施設の内容について再検討を行い、東京都等と調整を行う。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 5 文化財

文化財は、地域の伝統的な文化が結実したもので、昭島の歴史や文化の理解に必要不可欠なものです。また、将来の地域づくりの核となるものとして、確実に次世代に継承していくことが大切です。

そこで、これらの文化遺産を後世に伝え、地域の文化遺産としての活用を図るため、その調査と保護・保存と活用を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 文化財の保護・保存
- (2) 文化財の活用

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(1)	郷土資料室の展示 【社会教育課】	市内の遺跡から発掘された土器・石器類や古文書、農具等の民具を体系的に展示し、昭島の歴史や文化の理解を図ります。	アキシマエンシス国際交流教養文化棟に郷土資料室、校舎等に郷土資料展示室を開設 来場者数 延べ 37,619 人 (内訳) ・郷土資料室 36,506 人 ・郷土資料展示室 1,113 人
5-(1)	民具の調査・整理 【社会教育課】	現在では使用されなくなった民具は、先人の生活実態を知る手掛かりとして貴重な文化財です。その収集と保存に努めます。	民具調査整理補助作業員 4 名 (会計年度任用職員) を雇用しアキシマエンシス校舎棟 3 階及び旧拝島第四小学校内民具等の調査、整理、分類作業を実施しました。
5-(1)	埋蔵文化財の発掘調査 【社会教育課】	土木工事等により、貴重な文化遺産である埋蔵文化財の散逸を防ぐため、文化財保護法に基づき、諸手続きを確実に実施します。	埋蔵文化財発掘調査箇所 ・広福寺台遺跡 (650.00 m ²) ・経塚下遺跡 (1,767.66 m ²) ・経塚下遺跡 (890.41 m ²) ・経塚下遺跡 (2,715.76 m ²) ※宅地開発等に伴う遺跡範囲の確認調査

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(1)	指定文化財の保護 【社会教育課】	国や都の指定文化財を保護・保存の支援を行うとともに、市指定文化財の保護・保存と活用を図るため助成事業などを継続します。	文化財保存事業補助金 ・文化財公開謝礼 16件 192,000円 ・木造大日如来坐像ほか2軀修理事業 7,137,000円 文化財の市指定 ・有形文化財(考古資料) 「山ノ神遺跡出土月待供養結衆板碑」 ・有形文化財(古文書) 「中村家旧蔵文書一括」
5-(2)	文化財ボランティアガイドの活用 【社会教育課】	文化財ボランティアガイドによる文化財めぐりの企画や郷土資料室の団体見学の解説など、活動の場の提供に努めます。	文化財ボランティア研修会等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。
5-(2)	文化財めぐりの実施 【社会教育課】	郷土昭島の歴史を自らの目で確かめ、身近な文化遺産を通して郷土を知り、文化財保護に対する啓発を図るために実施します。	以下の事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しましたが、拝島のフジの開花状況をホームページで紹介しました。 ・拝島のフジ開花時史跡案内 ・文化財めぐり ・大日如来(金剛像)坐像特別公開時の文化財ボランティアによる大日堂・拝島公園周辺史跡説明 ・文化財講演会
5-(2)	市史・文化財資料図書の発刊・頒布 【社会教育課】	昭島市の歴史や文化財に関する資料を作成し、広く市民に周知します。	・「追跡!まぼろしの八高線衝突事故」第二版 500冊発刊 ・昭島市近代史調査報告書IX 「100年前の旧道を歩く」 1,000冊発刊

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(2)	郷土資料室企画事業の充実 【社会教育課】	郷土資料室の企画による「まが玉づくり教室」の実施のほか、郷土の歴史や文化に親しむ機会の場の提供を図ります。また、アキシマクジラの化石の活用を検討します。	<p>郷土資料室企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京オリンピックと昭島」 4月6日～24日 延入場者数 2,156人 ・古の生活文化にさぐる 「にっぽんの KIREI (きれい) ～水と生活・そして未来～ 6月22日～7月7日 企画パネル展示、ワークショップ(計4回)、講演会 延参加者数 1,435人 「昭島だいすき絵手紙展」 応募者数 74人 ・カイコワークショップ 7月22日、31日、8月28日 延参加者数 52人 ・「帰ってきたアキシマクジラ」 7月13日～10月2日 延入場者数 13,470人 ワークショップ(化石レプリカ作り教室等計3回)、特別観察会「電子顕微鏡でみるアキシマクジラ」、ビデオ上映会 延参加者数 349人 ・「紅林文書が語る戦国社会」 9月18日、19日 延参加者数 56人 ・「昭島の人々から見た戦争」展 12月7日～3月27日 延入場者数 8,479人 ・まが玉づくり教室、化石採取教室は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。

【主な課題】

(a) 郷土資料室の展示について

旧郷土資料室展示品及び旧昭和中学校木造校舎に収蔵していた民具や出土遺物はアキシマエンシス校舎棟へ移送したが、旧拝島第四小学校に収蔵している民具と併せ、大量の民具の整理と展示に向けた適切な管理が必要である。

(b) 文化財の指定について

平成30年の文化財保護法の改正により、文化財の滅失や散逸等の防止を緊急の課題とし、文化財をまちづくりに活かし、地域社会総がかりで、その継承に取り組むため、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、個々の文化財の確実な継承に向けた保存活用制度の見直し、地方文化財保護行政の推進力強化について規定がなされた。これにより文化遺産を後世に伝え、地域文化遺産として活用を図るため、その調査と保護・保存が課題となっている。

【今後の取組の方向性】

(a) 郷土資料室の展示について

市内各施設に分散収蔵していた民具、土器、遺物、化石などがアキシマエンシス校舎棟保管室に集約できた一方、旧拝島第四小学校に収蔵している民具を含めた約2万6千点の豊富な民具や土器、化石等を整理し、管理、利活用するため民具データベースとの照合や土器等のデータベース化を継続して進めていく必要がある。

アキシマエンシスに開設した郷土資料室、郷土資料展示室の恒常的な展示を避けるため、これらの収蔵資料を、分野ごとに特化した企画展示を実施するなど創意工夫をすることでリピーターの絶えない施設運営をし、文化財保護思想の普及、啓発を図りつつ、内外から人を呼び込む観光資源としての機能をもつ文化財発信拠点となるよう努めていく。

(b) 文化財の指定について

これまで未指定の有形・無形の文化財を新たに市の指定としたり、都の指定にすべく東京都と協議を重ねたりする必要がある。今後も文化財保護審議会を中心に新指定すべき文化財を調査、検討していくとともに、市登録制度の検討をしていく。

第4章 令和3年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果（令和4年1月定例会で報告）

1 目的

児童・生徒及び保護者が、学校の教育活動についてどのような意見や要望をもっているかを把握し、学校評価等の資料に活用する。また、第2次昭島市教育振興基本計画の進捗状況について確認するための参考資料とする。

2 調査対象

○小学校第4～6学年の児童及びその保護者

○中学校第1～3学年の生徒及びその保護者

※保護者は、児童・生徒が複数在学している場合、児童・生徒数で回答

3 調査方法

保護者については、保護者用アンケート、児童・生徒については、校種ごとにアンケートを実施した。（令和3年11月実施）

4 回収数及び回収率

○小学校第4～6学年の児童	2721名(97.2%)
○小学校第4～6学年の保護者	2141名(76.4%)
○中学校第1～3学年の生徒	2253名(89.2%)
○中学校第1～3学年の保護者	1734名(68.5%)

確かな学力

○肯定的な回答をした児童は95%、生徒は89%である。
 ⇒日頃の学習成果や学力調査の結果等を基に、各学校が作成した授業改善推進プランに基づき、実態に即した指導を行う。
 ⇒ICTの効果的な活用を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
 ⇒保護者と連携して取り組むことができるよう、学校便りやホームページ、学校公開等を活用し、積極的に発信する。

【小学校】

	質問事項		とても 分かりやすい	分かりやすい	分かりにくい	とても 分かりにくい	無回答
児童	①学校の授業は分かりやすいですか。	令和3	36%	59%	5%	0%	0%
		令和2	35%	58%	6%	1%	0%
		令和元	52%	41%	6%	1%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	①学校は、お子様に学力を身に付けさせていると思いますか。	令和3	30%	61%	8%	1%	1%
		令和2	30%	60%	8%	1%	1%

【中学校】

	質問事項		とても 分かりやすい	分かりやすい	分かりにくい	とても 分かりにくい	無回答
生徒	①学校の授業は分かりやすいですか。	令和3	15%	74%	9%	1%	0%
		令和2	21%	66%	11%	1%	1%
		令和元	29%	56%	11%	3%	1%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	①学校は、お子様に学力を身に付けさせていると思いますか。	令和3	14%	54%	27%	5%	0%
		令和2	17%	58%	21%	3%	1%

確かな学力

○肯定的な回答をした児童は90%、生徒は89%である。
 ⇒明確な課題を示し、見通しをもった学習ができるよう、更に授業改善に努める。
 ⇒効果的なICTの活用や交流活動を取り入れ、児童・生徒が主体的に活動する学習過程を工夫する。
 ⇒家庭での学習支援にも繋げていけるよう、授業の工夫を積極的に発信する。

【小学校】

	質問事項		よく 取り組んでいる	取り組んでいる	あまり 取り組んでいない	取り組んでいない	無回答
児童	②授業に対して、すすんで取り組んでいますか。	令和3	31%	59%	9%	1%	0%
		令和2	32%	57%	10%	1%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	②学校は、お子様が意欲的に学習できるよう、授業を工夫していると思いますか。	令和3	28%	59%	11%	1%	1%
		令和2	26%	60%	12%	1%	1%

【中学校】

	質問事項		よく 取り組んでいる	取り組んでいる	あまり 取り組んでいない	取り組んでいない	無回答
生徒	②授業に対して、すすんで取り組んでいますか。	令和3	25%	64%	10%	1%	0%
		令和2	32%	57%	9%	2%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	②学校は、お子様が意欲的に学習できるよう、授業を工夫していると思いますか。	令和3	10%	55%	31%	4%	0%
		令和2	11%	56%	28%	3%	2%

確かな学力

○肯定的な回答をした児童は78%、生徒は82%である。
 ⇒肯定的に捉えることができていない児童・生徒について、昨年度より微増していることから、話し合う内容を明確にするとともに、話し合い活動のモデルを示すなどの支援策を講じる。
 ⇒感染拡大防止の観点から、対話的活動の充実が難しい状況下ではあるが、ICTの効果的な活用を図り、発言の苦手な児童・生徒への支援を含め、活動を工夫する。

【小学校】

	質問事項		よく参加している	参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答
児童	③授業中、子ども同士で話し合う時間や、意見などを発表する時間に、すすんで参加していますか。	令和3	34%	44%	20%	2%	0%
		令和2	34%	45%	19%	2%	0%

【中学校】

	質問事項		よく参加している	参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答
生徒	③授業中、生徒同士で話し合う時間や、意見などを発表する時間に、すすんで参加していますか。	令和3	31%	51%	16%	2%	0%
		令和2	36%	47%	13%	4%	0%

確かな学力

○放課後の勉強時間について、小学校では「30分以上1時間未満」と回答した割合が32%、中学校では「1時間以上2時間未満」と回答した割合が29%となっており、各校種で一番高い割合となっている。
 ○家庭学習の習慣について、小学校では67%の保護者、中学校では45%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒小学校高学年、中学校においては、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の個人票を返却する際に、東京都の平均数値を基にして考えたり、友達の学習習慣を参考にしたりするなど、自己の学習習慣を振り返る活動を取り入れる。
 ⇒生活習慣を整えることで学習習慣を確立していくことを目指し、「グッドモーニング60分」の取組等と関連付けた指導を行う。
 ⇒各学校で作成した家庭学習スタンダード等を活用し、家庭と連携して望ましい家庭学習の習慣を身に付けさせる。

【小学校】

	質問事項		3時間以上	2時間以上3時間未満	1時間以上2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満	まったくしない	無回答
児童	④放課後に1日平均、何時間勉強していますか。	令和3	8%	11%	30%	32%	14%	4%	0%
保護者	③お子様は、家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。	令和3	23%	43%	27%	7%	1%		
		令和2	24%	42%	27%	7%	0%		

【中学校】

	質問事項		3時間以上	2時間以上3時間未満	1時間以上2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満	まったくしない	無回答
生徒	④放課後に1日平均、何時間勉強していますか。	令和3	8%	14%	29%	22%	17%	10%	0%
保護者	③お子様は、家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。	令和3	14%	31%	35%	19%	0%		
		令和2	17%	33%	32%	18%	0%		

確かな学力

○放課後の読書時間について、小学校では「10分以上30分未満」と回答した割合が22%、中学校では「10分未満」と回答した割合が18%となっており、「まったくしない」と回答した児童が27%、生徒が42%となっている。
 ○「毎日読書していると思いますか」という質問に対し、小学校では69%の保護者、中学校では73%の保護者が「あまりそう思わない、そう思わない」と回答している。
 ⇒放課後に、読書をまったくしないと回答している児童・生徒に対して推薦図書を提示することや、宿題や自主学習に並行読書等の活動を取り入れるなどの工夫をする。
 ⇒保護者に対しても読書活動に係る啓発を行い、市民図書館等の利用も含め、学校と家庭で連携した読書習慣の改善を図る。

【小学校】

質問事項			2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	まったくしない	無回答
児童	⑤放課後に1日平均、何時間読書をしていますか。	令和3	7%	10%	20%	22%	14%	27%	0%
質問事項			そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	そうは思わない	無回答		
保護者	④お子様は、毎日読書していると思いますか。	令和3	12%	18%	34%	35%	1%		
		令和2	12%	19%	33%	35%	1%		

【中学校】

質問事項			2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	まったくしない	無回答
生徒	⑤放課後に1日平均、何時間読書をしていますか。	令和3	5%	7%	14%	15%	18%	42%	0%
質問事項			そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	そうは思わない	無回答		
保護者	④お子様は、毎日読書していると思いますか。	令和3	10%	17%	34%	39%	0%		
		令和2	8%	15%	31%	46%	0%		

豊かな心

○小・中学校共に、95%の児童・生徒が肯定的な回答をしている。
 ○「学校は、お子様に自分や友達を大切にすることを育てていると思いますか。」との質問に対し、小学校では91%の保護者、中学校では82%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒各学校において、自他を共に大切にできる心情を育むために、人権教育を推進してきた成果が表れている。
 ⇒児童・生徒の前向きな捉え方を生かし、更に自己有用感を高めていくことができるよう、道徳科や特別活動等の指導を中心に学校教育全体で取り組む。

【小学校】

質問事項			とても思う	思う	あまり 思わない	思わない	無回答
児童	①自分や友達を大切にしていると思いますか。	令和3	55%	40%	4%	1%	0%
		令和2	52%	43%	4%	1%	0%
質問事項			そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	そうは思わない	無回答
保護者	①学校は、お子様に自分や友達を大切にすることを育てていると思いますか。	令和3	35%	56%	7%	1%	1%
		令和2	36%	56%	7%	1%	0%

【中学校】

質問事項			とても思う	思う	あまり 思わない	思わない	無回答
生徒	①自分や友達を大切にしていると思いますか。	令和3	49%	46%	3%	1%	0%
		令和2	50%	43%	6%	1%	0%
質問事項			そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	そうは思わない	無回答
保護者	①学校は、お子様に自分や友達を大切にすることを育てていると思いますか。	令和3	22%	60%	14%	3%	0%
		令和2	22%	58%	18%	1%	1%

豊かな心

○小・中学校共に、89%の児童・生徒が肯定的な回答をしている。しかしながら、小・中学校共に10%程度が、「あまり思わない、思わない」と回答している。
 ○小学校では93%の保護者、中学校では86%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒人権教育や道徳教育の充実を図り、学校教育全体で豊かな心の醸成に取り組んできた成果が表れている。
 ⇒「あまり思わない、思わない」と回答している児童・生徒について、具体的な行動等を価値付けながら指導を継続し、思いやりの心をもった行動が実践できるように粘り強く取り組む。
 ⇒よい行動を積極的に認め励ますことや、改善が必要な行動を適切に指導することについて、学校と家庭が連携して取り組む。

【小学校】

	質問事項		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
児童	②思いやりの心をもって行動していると思いますか。	令和3	35%	54%	10%	2%	0%
		令和2	31%	56%	12%	1%	0%
	質問事項		そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	②お子様は、思いやりの心をもって行動している様子が見られますか。	令和3	36%	57%	6%	0%	1%
		令和2	36%	56%	7%	0%	1%

【中学校】

	質問事項		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
生徒	②思いやりの心をもって行動していると思いますか。	令和3	34%	55%	9%	1%	0%
		令和2	35%	56%	8%	1%	0%
	質問事項		そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	②お子様は、思いやりの心をもって行動している様子が見られますか。	令和3	29%	57%	8%	5%	0%
		令和2	33%	58%	7%	1%	1%

豊かな心

○肯定的な回答をした児童は85%、生徒は79%である。
 ○小学校では88%の保護者、中学校では81%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒SDGsの視点を生かして人権教育や道徳教育、性教育等を充実させ、多様性を認め合うことができる心を育成する。

【小学校】

	質問事項		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
児童	③男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接していると思いますか。	令和3	46%	39%	12%	3%	0%
		令和2	44%	40%	13%	3%	0%
	質問事項		そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	③お子様は、男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接することができていると思いますか。	令和3	47%	41%	9%	1%	1%
		令和2	43%	46%	9%	1%	1%

【中学校】

	質問事項		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
生徒	③男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接していると思いますか。	令和3	37%	42%	16%	5%	0%
		令和2	37%	44%	15%	4%	0%
	質問事項		そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	③お子様は、男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接することができていると思いますか。	令和3	31%	50%	15%	4%	0%
		令和2	34%	48%	16%	2%	0%

豊かな心

○肯定的な回答をした児童は87%、生徒は89%である。
 ○「気持ちが安定するように配慮した心の居場所づくりに努めていると思いますか。」との質問に対し、中学校の22%の保護者が、「あまりそうは思わない、そうは思わない」と回答している。
 ⇒「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」に基づく、教室環境や言語環境の整備に努め、個別の支援策を工夫しながら教育活動を継続してきたことが、成果として表れている。
 ⇒学級満足度調査の分析や心理士によるフィードバック等を有効に活用し、今後も児童・生徒の実態に応じた学級経営に努める。
 ⇒心理的な支援が必要な児童・生徒、不登校傾向のある児童・生徒に対しては、スクールカウンセラーを活用したり、教育支援室やフリースクールと連携したりするなど、気持ちが安定するように配慮した心の居場所づくりに努める。

【小学校】

	質問事項		できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	無回答
児童	④学校で落ち着いて安心して生活できていますか。	令和3	50%	37%	10%	3%	0%
		令和2	50%	39%	8%	3%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	④学校は、お子様の気持ちが安定するように配慮した心の居場所づくりに努めていると思いますか。	令和3	26%	60%	11%	2%	1%
		令和2	25%	59%	13%	2%	1%

【中学校】

	質問事項		できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	無回答
生徒	④学校で落ち着いて安心して生活できていますか。	令和3	44%	45%	8%	2%	0%
		令和2	49%	41%	8%	2%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	④学校は、お子様の気持ちが安定するように配慮した心の居場所づくりに努めていると思いますか。	令和3	19%	57%	18%	4%	0%
		令和2	15%	62%	18%	3%	2%

豊かな心

○肯定的な回答をした児童は89%、生徒は90%である。
 ○小学校では91%の保護者、中学校では81%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒学級満足度調査やいじめアンケート等の結果を生かし、児童・生徒の実態を的確に捉えていく。全ての児童・生徒が楽しい学校生活を送ることができるようにするために、組織的な対応を継続する。
 ⇒特別活動や異学年交流等を充実させるなど、児童・生徒が主体的に関わり、満足感や達成感を味わえる教育活動を工夫する。

【小学校】

	質問事項		楽しく 過ごしている	ほぼ楽しく 過ごしている	あまり楽しく 過ごしていない	楽しく 過ごしていない	無回答
児童	⑤楽しく学校生活を過ごしていますか。	令和3	56%	33%	8%	3%	0%
		令和2	55%	35%	7%	3%	0%
		令和元	55%	34%	8%	2%	1%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	⑤お子様は、楽しく学校生活を過ごしていると思いますか。	令和3	47%	44%	7%	1%	1%
		令和2	47%	44%	6%	2%	1%

【中学校】

	質問事項		楽しく 過ごしている	ほぼ楽しく 過ごしている	あまり楽しく 過ごしていない	楽しく 過ごしていない	無回答
生徒	⑤楽しく学校生活を過ごしていますか。	令和3	53%	37%	8%	2%	0%
		令和2	54%	36%	8%	2%	0%
		令和元	53%	34%	8%	4%	1%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	⑤お子様は、楽しく学校生活を過ごしていると思いますか。	令和3	26%	55%	14%	5%	0%
		令和2	37%	51%	9%	2%	1%

豊かな心

○相談してみようと思う大人がいると回答した児童は86%、生徒は78%である。しかし、相談してみようと思う大人がいないと回答している児童が13%、生徒が21%いる。
 ○「お子様のことで何か困ったことがあったとき、相談してみようと思う先生がいますか。」という質問に対し、小学校では79%の保護者、中学校では70%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒各学校で行っている「SOSの出し方に関する教育」を更に充実させる。日常の学校生活での指導はもとより、長期休業前後等の適切な時期に、発達の段階に応じた指導を行う。
 ⇒児童・生徒の声なき声に耳を澄まし、積極的な声掛けや組織的な対応を継続する。

【小学校】

		質問事項		2人以上いる	1人いる	いない	無回答	
児童	⑥こまったことがあったら、相談してみようと思う大人はいますか。	令和3	62%	24%	13%	1%		
		令和2	60%	24%	15%	1%		
		令和元	52%	32%	14%	2%		
		質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	⑥お子様のことで何か困ったことがあったとき、相談してみようと思う先生がいますか。	令和3	36%	43%	15%	5%	1%	
		令和2	33%	44%	17%	5%	1%	

【中学校】

		質問事項		2人以上いる	1人いる	いない	無回答	
生徒	⑥困ったことがあったら、相談してみようと思う大人はいますか。	令和3	54%	24%	21%	1%		
		令和2	52%	26%	21%	1%		
		令和元	41%	30%	27%	2%		
		質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	⑥お子様のことで何か困ったことがあったとき、相談してみようと思う先生がいますか。	令和3	24%	46%	21%	9%	0%	
		令和2	21%	46%	23%	9%	1%	

○肯定的な回答をした児童は81%、生徒は80%である。
 ○「学校は、お子様に将来の生き方や夢について考える機会を提供していると思いますか。」という質問に対し、小学校では66%の保護者、中学校では60%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ○「学校からお子様提供される進路に関する資料・情報は、役に立ちますか。」という質問に対し、小学校では48%の保護者、中学校では58%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒児童・生徒の回答結果からは、各学校において、道徳科や特別活動、総合的な学習の時間等の指導を生かし、自分のことを振り返って考える活動場面の設定ができていると捉えられる。
 ⇒将来の生き方や夢、進路等について家庭と連携した取組に発展させていくため、キャリア・パスポートの有効活用や積極的な情報発信、丁寧な説明等を行う。

【小学校】

		質問事項		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
児童	①「自分の得意なことは何か」、「自分に向いていることは何か」について考えることがありますか。	令和3	42%	39%	13%	6%	1%	
		令和2	41%	39%	14%	6%	0%	
		質問事項		そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	①学校は、お子様に将来の生き方や夢について考える機会を提供していると思いますか。	令和3	13%	53%	30%	3%	1%	
		令和2	14%	53%	29%	3%	1%	
保護者	②学校からお子様提供される進路に関する資料・情報は、役に立ちますか。	令和3	8%	40%	42%	8%	2%	
		令和2	8%	40%	42%	8%	2%	

【中学校】

		質問事項		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
生徒	①「自分の得意なことは何か」、「自分に向いていることは何か」について考えることがありますか。	令和3	40%	40%	14%	6%	0%	
		令和2	36%	41%	16%	7%	0%	
		質問事項		そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	①学校は、お子様に将来の生き方や夢について考える機会を提供していると思いますか。	令和3	9%	51%	34%	6%	0%	
		令和2	10%	51%	33%	4%	2%	
保護者	②学校からお子様提供される進路に関する資料・情報は、役に立ちますか。	令和3	10%	48%	35%	7%	0%	
		令和2	10%	50%	31%	6%	3%	

輝く未来

○小・中学校共に、81%の児童・生徒が肯定的な回答をしている。
 ○「お子様は、自分の将来や進路について考えていると思いますか。」という質問に対し、小学校では50%の保護者、中学校では57%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒児童・生徒の回答結果からは、道徳科や特別活動、総合的な学習の時間等の指導を生かし、自分の将来について考える活動場面の設定ができていると捉えられる。上級学校と連携したり地域人材の活用を図ったりすることを通して、児童・生徒が将来に希望をもち、主体的に進路選択をすることができるよう、活動を工夫する。
 ⇒児童・生徒と保護者の回答に差が見られることから、家庭で共に将来や進路について考える場がもてるよう、学校と家庭で連携した取組を工夫する。

【小学校】

		質問事項		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
児童	②自分の将来について考えることがありますか。	令和3	46%	35%	13%	7%	0%	
		令和2	45%	35%	13%	7%	0%	
		令和元	48%	31%	13%	7%	1%	
		質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	③お子様は、自分の将来や進路について考えていると思いますか。	令和3	14%	36%	40%	8%	1%	
		令和2	15%	36%	39%	9%	1%	

【中学校】

		質問事項		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
生徒	②自分の将来について考えることがありますか。	令和3	44%	37%	14%	5%	0%	
		令和2	39%	37%	18%	6%	0%	
		令和元	45%	34%	14%	6%	1%	
		質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	③お子様は、自分の将来や進路について考えていると思いますか。	令和3	17%	40%	34%	9%	0%	
		令和2	18%	40%	33%	9%	0%	

輝く未来

○肯定的な回答をした児童は87%、生徒は88%である。
 ⇒学期初めに各自が目標をもてるようにし、学習面や生活面の振り返りを丁寧に行うとともに、具体的な賞賛や改善に向けた助言を行ってきたことが、成果として表れている。
 ⇒道徳科の学習、キャリア・パスポートの有効活用等を通して、児童・生徒が自分の生活をじっくりと振り返り、前向きに捉えたり改善を図ったりする時間を確保することで、一人一人のキャリア形成と自己実現に向けた活動を推進していく。

【小学校】

		質問事項		とても思う	思う	あまり 思わない	思わない	
児童	③これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思えますか。	令和3	37%	50%	11%	2%	0%	
		令和2	37%	50%	11%	2%	0%	

【中学校】

		質問事項		とても思う	思う	あまり 思わない	思わない	
生徒	③これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思えますか。	令和3	37%	51%	10%	3%	0%	
		令和2	34%	53%	10%	3%	0%	

輝く未来

○肯定的な回答をした児童は58%、生徒は61%である。
 ○小学校では61%の保護者、中学校では60%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒対話的活動の機会を充実させ、自分とは異なる他者の考えが、自己の考えを広げたり深めたりする体験を増やす。
 ⇒学校便りやホームページ、保護者会や個人面談等を活用し、家庭内での働き掛けについて具体的な提案を行うなど、学校と家庭で連携した取組ができるよう工夫する。

【小学校】

	質問事項		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
児童	④自分以外の人と、自分の将来について話をすることができますか。	令和3	25%	33%	27%	13%	1%
		令和2	25%	34%	25%	16%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	④お子様は、家庭で将来について話をしますか。	令和3	22%	39%	31%	6%	1%
		令和2	21%	40%	31%	7%	1%

【中学校】

	質問事項		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
生徒	④自分以外の人と、自分の将来について話をすることができますか。	令和3	26%	35%	26%	12%	0%
		令和2	22%	36%	29%	13%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	④お子様は、家庭で将来について話をしますか。	令和3	20%	40%	32%	8%	0%
		令和2	22%	39%	30%	9%	0%

たくましい体

○肯定的な回答をした児童は80%、生徒は74%である。
 ○「学校の体力向上の取組について、満足していますか。」との質問に対し、小学校では73%の保護者、中学校では65%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒学校生活において運動時間を確保するとともに、運動することの楽しさを味わえるようにするため、引き続き、体育科・保健体育科の授業改善に取り組む。
 ⇒児童・生徒、保護者共に、中学校において肯定的な回答が低くなっている。元気アップガイドブックの効果的な活用を図り、学校と家庭、社会教育等が連携して運動習慣の改善に努める。

【小学校】

	質問事項		たくさん している	している	あまり していない	していない	無回答
児童	①学校で、休み時間や体育の時間に遊んだり体を動かしたりしていますか。	令和3	44%	36%	16%	3%	0%
		令和2	47%	34%	16%	3%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	①学校の体力向上の取組について、満足していますか。	令和3	17%	56%	22%	3%	2%
		令和2	18%	57%	21%	3%	1%

【中学校】

	質問事項		たくさん している	している	あまり していない	していない	無回答
生徒	①学校で、休み時間や体育の時間に遊んだり体を動かしたりしていますか。	令和3	32%	42%	19%	7%	0%
		令和2	33%	35%	22%	10%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	①学校の体力向上の取組について、満足していますか。	令和3	12%	53%	30%	5%	0%
		令和2	12%	55%	27%	5%	1%

たくましい体

○肯定的な回答をした児童は81%、生徒は74%である。
 ○「お子様は、授業等で学んだ安全や健康についての知識を日常の生活の中で生かしていると思いますか。」との質問に対し、小学校では82%の保護者、中学校では67%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒各学校において生活指導や保健指導を行うとともに、安全指導日や避難訓練、セーフティ教室を活用して指導してきたことが、生活において実践に生かされるよう、継続した指導を行う。
 ⇒防災ノートや東京マイ・タイムラインを活用して話し合うなど、実際の場面において適切な避難行動ができるよう、学校と家庭、地域が連携した教育を行う。

【小学校】

	質問事項		よく 生かしている	生かしている	あまり 生かしていない	生かしていない	無回答
児童	②学校で学んだ安全や健康についての知しきを生活の中で生かしていますか。	令和3	30%	51%	17%	2%	0%
		令和2	29%	53%	15%	2%	1%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	②お子様は、授業等で学んだ安全や健康についての知識を日常の生活の中で生かしていると思いますか。	令和3	21%	61%	16%	2%	2%
		令和2	22%	58%	18%	1%	1%

【中学校】

	質問事項		よく 生かしている	生かしている	あまり 生かしていない	生かしていない	無回答
生徒	②学校で学んだ安全や健康についての知識を生活の中で生かしていますか。	令和3	22%	52%	21%	4%	0%
		令和2	21%	51%	22%	6%	0%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	②お子様は、授業等で学んだ安全や健康についての知識を日常の生活の中で生かしていると思いますか。	令和3	12%	55%	29%	5%	0%
		令和2	13%	57%	25%	4%	1%

たくましい体

○肯定的な回答をした児童は73%、生徒は57%である。
 ○「お子様は、授業等で学んだ正しい食事の在り方や栄養についての知識を日常の食生活の中に生かしていると思いますか。」との質問に対し、小学校では65%の保護者、中学校では55%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒家庭科の学習や体育科・保健体育科の学習で得た知識を、実際の生活の中で生かすことができるよう、改めて食育やがん教育等の充実を図る。
 ⇒お弁当の日について、発達の段階に応じた取組の充実が図られるよう、啓発する。
 ⇒家庭において生活習慣病の予防等を話題にし、適切な改善が図れるよう、具体的な取組を啓発する。

【小学校】

	質問事項		よく 生かしている	生かしている	あまり 生かしていない	生かしていない	無回答
児童	③学校で学んだ食事や栄養についての知しきを生活の中で生かしていますか。	令和3	29%	44%	22%	5%	1%
		令和2	23%	47%	25%	4%	1%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	③お子様は、授業等で学んだ正しい食事の在り方や栄養についての知識を日常の食生活の中に生かしていると思いますか。	令和3	15%	50%	30%	4%	1%
		令和2	15%	48%	31%	5%	1%

【中学校】

	質問事項		よく 生かしている	生かしている	あまり 生かしていない	生かしていない	無回答
生徒	③学校で学んだ食事や栄養についての知識を生活の中で生かしていますか。	令和3	18%	39%	32%	10%	1%
		令和2	15%	42%	32%	10%	1%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	③お子様は、授業等で学んだ正しい食事の在り方や栄養についての知識を日常の食生活の中に生かしていると思いますか。	令和3	10%	45%	38%	6%	0%
		令和2	9%	46%	37%	7%	1%

その他1

○放課後は児童・生徒が様々な活動を行っていることが分かる。
 ○活動内容の傾向は、昨年度と大きく変化していない。
 ⇒勉強、勉強と部活動の両立、個性の伸長を目指した活動、楽しい時間の確保等、安全かつ有意義に放課後の時間を過ごすための工夫について家庭と連携して指導を継続する。

【小学校】

	質問事項		(部活動)	塾、習い事	宿題、勉強(自習)	読書	友達と遊ぶ	その他	無回答
児童	①放課後は、どのようにすごしていますか。(複数回答可)	令和3		22%	26%	10%	25%	16%	0%
		令和2	2%	22%	25%	11%	24%	13%	3%

【中学校】

	質問事項		部活動	塾、習い事	宿題、勉強(自習)	読書	友達と遊ぶ	その他	無回答
生徒	①放課後は、どのようにすごしていますか。(複数回答可)	令和3	21%	22%	17%	9%	18%	13%	0%
		令和2	21%	24%	21%	6%	14%	14%	0%

その他2

○自分のスマートフォンやタブレットの利用時間について、小学校では「1時間以上2時間未満」及び「持っていない」と回答した割合が20%、中学校では「4時間以上」と回答した割合が25%となっており、各職種で一番高い割合となっている。
 ⇒小学校高学年から中学校にかけて、スマートフォンやタブレットの所持率や利用時間の増加が見られる。
 ⇒視力低下や運動不足の予防、睡眠時間や質のよい睡眠の確保の観点から、家庭と連携した取組が必要である。
 ⇒友達との関係性から、望まない利用をしていることも考えられるため、実態把握や適切な指導の工夫をする。

【小学校】

	質問事項		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	まったく 使っていない	持っていない	無回答
児童	①自分のスマートフォンやタブレットなどは、1日平均、何時間使いますか。	令和3	12%	8%	14%	20%	13%	9%	4%	20%	1%

【中学校】

	質問事項		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	まったく 使っていない	持っていない	無回答
生徒	①自分のスマートフォンやタブレットなどは、1日平均、何時間使いますか。	令和3	25%	16%	21%	16%	7%	5%	3%	6%	1%

その他2

○家族が持っているスマートフォンやタブレットなどの利用時間については、以下のような実態である。
 ⇒家族の持っているスマートフォンやタブレットなどは、フィルタリングがかかっていない場合が想定されるため、安全面について家庭に啓発していく必要がある。
 ⇒利用時間が長い児童・生徒がいる実態から、学校と家庭で連携した取組をしていく必要がある。

【小学校】

	質問事項		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	まったく 使っていない	持っていない	無回答
児童	②家族が持っているスマートフォンやタブレットなどは、1日平均、何時間使いますか。	令和3	7%	8%	14%	13%	23%	29%	6%	0%

【中学校】

	質問事項		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	まったく 使っていない	持っていない	無回答
生徒	②家族が持っているスマートフォンやタブレットなどは、1日平均、何時間使いますか。	令和3	11%	8%	8%	10%	12%	39%	11%	2%

その他2

○スマートフォンやタブレットなどで、使ったことがあるアプリについては、以下のような実態である。
 ⇒アプリの利用の仕方によっては、犯罪行為に巻き込まれたり訴訟問題に発展したりすることがあることを、発達の段階に応じて指導する。
 ⇒インターネット上のトラブルを未然に防止するため、SNS東京ノートの活用による情報モラル教育の推進や、学校教育全般を通じたコミュニケーション能力の育成を図る。
 ⇒利用に際して、年齢が制限されているアプリもあるため、家庭において保護者が適切な管理をするよう啓発する。

【小学校】

	質問事項		ライン	ゲームアプリ	ユーチューブ	ツイッター	インスタグラム	ティックトック	フェイスブック	その他	無回答
児童	③スマートフォンやタブレットなどで、次のアプリを使ったことがありますか。(複数回答可)	令和3	49%	75%	84%	11%	10%	32%	4%	28%	1%

【中学校】

	質問事項		ライン	ゲームアプリ	ユーチューブ	ツイッター	インスタグラム	ティックトック	フェイスブック	その他	無回答
生徒	③スマートフォンやタブレットなどで、次のアプリを使ったことがありますか。(複数回答可)	令和3	83%	77%	83%	42%	46%	53%	15%	32%	0%

※本質問は複数回答を可能としているため、それぞれのアプリについて、利用したことがある児童・生徒の割合を示した。

その他2

○ゲーム機を使って、行ったことがあるものについては、以下のような実態である。
 ⇒児童・生徒が、ゲーム機を様々な目的で利用している実態があることが分かる。前質問と同様、利用の仕方に係る指導、トラブルの未然防止に向けた指導が必要である。
 ⇒保護者に対して、児童・生徒の利用実態について把握し、適切な管理をするよう促す。

【小学校】

	質問事項		オンラインゲーム	ユーチューブ	オンラインショッピング	チャット	ボイスチャット	行ったことはない	無回答
児童	④ゲーム機を使って、行ったことがあるものはどれですか。(複数回答可)	令和3	56%	50%	17%	28%	30%	28%	1%

【中学校】

	質問事項		オンラインゲーム	ユーチューブ	オンラインショッピング	チャット	ボイスチャット	行ったことはない	無回答
生徒	④ゲーム機を使って、行ったことがあるものはどれですか。(複数回答可)	令和3	66%	53%	21%	32%	35%	27%	0%

※本質問は複数回答を可能としているため、それぞれのアプリについて、利用したことがある児童・生徒の割合を示した。

その他2

○「家庭でルールを決めている」、「話合い中」と回答した児童の合計は80%、生徒の合計は69%である。
 ○「ルールを守らせていますか。」との質問に対し、小学校では66%の保護者、中学校では51%の保護者が肯定的な回答をしている。
 ⇒各学校においては、セーフティ教室やSNS東京ノートを活用した指導により、情報モラル教育のさらなる推進を図る。
 ⇒保護者会や個人面談等の機会を活用してSNSなどの利用実態を把握し、SNS家庭ルールの作成やルールを守った利用について啓発する。

【小学校】

	質問事項		決めている	話合い中	決めていない	無回答		
児童	⑤スマートフォンやタブレットなどで、インターネットを使うときは、家庭でルールを決めていますか。	令和3	73%	7%	20%	1%		
		令和2	71%	6%	21%	2%		
	質問事項		守らせている	だいたい守らせている	あまり守らせていない	守らせていない	ルールを決めていない	無回答
保護者	① お子様が、家庭でスマートフォンやタブレットなどで、インターネットを使うときは、ルールを守らせていますか。	令和3	25%	41%	22%	6%	3%	4%
		令和2	27%	46%	18%	4%		5%

【中学校】

	質問事項		決めている	話合い中	決めていない	無回答		
生徒	⑤スマートフォンやタブレットなどで、インターネットを使うときは、家庭でルールを決めていますか。	令和3	59%	10%	31%	0%		
		令和2	56%	10%	31%	3%		
	質問事項		守らせている	だいたい守らせている	あまり守らせていない	守らせていない	ルールを決めていない	無回答
保護者	① お子様が、家庭でスマートフォンやタブレットなどで、インターネットを使うときは、ルールを守らせていますか。	令和3	14%	37%	27%	12%	8%	2%
		令和2	18%	48%	26%	7%		1%

その他2

○肯定的な回答をした児童は79%、生徒は72%である。
 ⇒著作権侵害や肖像権侵害の防止、相手意識をもった利用の徹底等について、事例を基にした具体的な指導を行い、児童・生徒が被害者にも加害者にもならないようにする。
 ⇒家庭において、保護者が児童・生徒に範を示し、適切な利用に向けた見守りをできるよう啓発する。

【小学校】

	質問事項		とてもよく 生かしている	生かしている	あまり 生かしていない	生かしていない	無回答
児童	⑥学校で学んだインターネットを使うときのルールを、生活の中で生かしていますか。	令和3	29%	50%	15%	5%	0%
		令和2	28%	48%	15%	7%	2%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	②お子様は、学校で学んだインターネットを使うときのルールを、生活の中で生かしていると思いますか。	令和3	24%	47%	21%	4%	3%
		令和2	19%	44%	27%	5%	5%

【中学校】

	質問事項		とてもよく 生かしている	生かしている	あまり 生かしていない	生かしていない	無回答
生徒	⑥学校で学んだインターネットを使うときのルールを、生活の中で生かしていますか。	令和3	21%	51%	19%	9%	0%
		令和2	19%	51%	19%	9%	2%
	質問事項		そう思う	だいたい そう思う	あまり そうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	②お子様は、学校で学んだインターネットを使うときのルールを、生活の中で生かしていると思いますか。	令和3	14%	49%	28%	8%	1%
		令和2	12%	51%	27%	9%	1%

第5章 令和3年度「昭島市立学校教育推進計画」の数値目標
及びそれぞれに対する実績について

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○健康で明るい子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	学ぶ楽しさを実感させることのできる授業改善の推進、日常的な指導実践	基礎的・基本的な内容の確実な定着	・指導と評価の一体化した授業 ・日常生活に生かせる教材研究 ・学力調査の分析を行い、改善プランを作成・実行 ・朝自習、家庭学習の充実	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	4
		読書に関する指導や、読書の習慣化の取組を日常化し、読書活動の充実	・朝読書の質の向上 ・読書月間の取組の充実 ・図書支援員の有効活用 ・定期的な意識調査の実施	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3
		多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	・校内委員会の充実 ・大空教員との共同実践 ・UDを意識した環境作り ・障害理解の推進(研修)	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	4
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いながら、子どもの内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと特別の教科「道徳」としての改善・充実	・授業観察時の公開 ・価値項目を明確にし、児童の変容を見取る ・年間指導計画の確実な実施 ・全教育活動を通じた道徳教育の実施	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3
		いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の実現	毎学期のアンケートを生かし、SCとも連携しながら、いじめ・不登校0を目指す。	4 アンケート実施後の個別対応100% 3 :0.95 2 :0.9 1 :0.85	4
		学校行事等を通して異学年間の交流を深め、豊かな人間性を育てる	・交流体験活動の実施 ・実践的体験活動の実施 ・栽培体験学習の実施 ・たて割り半活動の実施	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3
健やかな体	様々な運動を体験させ、その特性にふれた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	休み時間の外遊びを奨励し、運動に親しみやすい環境整備を行う。	4 毎週子どもたちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上 3 2回 2 1回 1 0回	4
		年間を通した体力の向上(元気アップガイドブック等の活用)	・元気アップガイドブックの活用 ・グッドモーニング60分の取組 ・運動の特性を生かす体育授業改善 ・めあてが明確な学習の展開	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3
		食育の充実	ランチルームを活用し、栄養教諭や共同調理場と連携しながら食育の推進を図る。	4 年間で食育に関する授業の実施3回以上 3 2回 2 1回 1 0回	4
輝く未来	人権尊重の精神を基調として心身共に健康な児童の育成を目指し、自他の大切さを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童が未来を生き抜いていく力を培う。	QUの活用で一人一人の良さを生かし、やる気とまとまりのある学級集団作り	・1回目QUを学級づくりを生かす ・QUの結果から児童理解を深める ・2回目結果を比較し課題を掴む ・学級経営の評価を行う	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	4
		学級活動をはじめ、全教育活動において、キャリア教育の充実	・学校生活への適応 ・仲間づくり、集団の結束 ・自ら役割の自覚 ・年間指導計画に応じた、キャリア教育の実践	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3
		保護者・地域との連携を通して、様々な活動する大人から学び、将来への希望をもたせる	・地域人材を活用した取組の充実 ・家庭訪問・個人面談を実施し、場合によっては専門機関につないでいく ・PTA活動への理解と協力。参加。 ・地域行事への年1回の参加	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	2

年度末評価【総括表】

○子どもにとって安全安心で、居心地のよい学校	○家庭・地域とともにある学校	○児童・保護者・教職員ともに楽しい学校
○自ら考え、主体的に学ぶ子ども	○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子ども	○心身ともに健康で、活力のある子ども
○人権感覚を磨き、子どもを大切にす教師	○常に向上心を持ち、指導力向上に努める教師	○公務員としての自覚を持ち、信頼される教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 90%以上の児童が授業を工夫していると回答	4	国語では『読むこと』、算数では『変化と関係』領域の正答率が低い傾向が見られるので、授業改善プランに反映させていく。	教員が授業内容に関して相当検討しているように見受けられるので、今後とも引き継いでいってほしい。	A	国語・算数はさらに基礎・基本の徹底を図る。読書活動に力を入れ、特に課題となっている国語の言語指導に力を入れ、学力向上を目指す。
3 80%～90%未満の児童が授業を工夫していると回答					
2 70%～80%未満の児童が授業を工夫していると回答					
1 70%未満の児童が授業を工夫していると回答					
4 95%以上の児童が1時間以上の読書をしていると回答	1	課題となっている読書指導に力を入れ、読書習慣向上を目指す。	家庭内での読書時間が減少傾向に見受けられるので、再度読書習慣を植え付けてほしい。	B	アキシマエンスや立川図書館との連携を深めていく。
3 85%～90%未満の児童が1時間以上の読書をしていると回答					
2 80%～85%未満の児童が1時間以上の読書をしていると回答					
1 80%未満の児童が1時間以上の読書をしていると回答					
4 90%以上の児童が授業が分かると回答	4	特別支援教室の拠点校である強みを生かし、児童一人一人のニーズに応じた特別支援教育を推進していく。	特別支援教室の取り組みは、以前より評価されており、今後もニーズの多様化に対応してほしい。	A	障害理解教育の推進をこれからも進めていく。
3 80%～90%未満の児童が授業が分かると回答					
2 70%～80%未満の児童が授業が分かると回答					
1 70%未満の児童が授業が分かると回答					
4 90%以上の児童が大切にしていると回答	4	今年度より、校内研究で特別活動に取り組んでいる。学級づくり等道徳教育を生かしていく。	いじめ、不登校ゼロを目指し、SC、支援教室、保護者と連携して取り組みができていく。	A	思いやりの心を大切に、いじめのない教育活動、道徳教育に取り組んで行く。
3 85%～90%未満の児童が大切にしていると回答					
2 80～85%未満の児童が大切にしていると回答					
1 80%未満の児童が大切にしていると回答					
4 不登校(傾向を含む)人数0人	4	昨年9月よりブラジルに一時帰国している児童の安否について、在ブラジル領事館と連携して確認している。	安全・安心な学校に努めている様子が分かる。	A	更に児童理解を深めるとともに、コミュニケーションを大切に組み込んで行く。
3 1人					
2 2人					
1 3人					
4 90%以上の児童が学校が楽しいと回答	4	コロナ対策を講じながら、体験活動や学校行事を工夫して行っていく。	コロナ禍で児童にゆとりがなくなってきたように感じるので様々な工夫をお願いした。	A	コロナ禍にあつて、できない中でも、できる工夫を考えていく。
3 80%～90%未満の児童が学校が楽しいと回答					
2 70%～80%未満の児童が学校が楽しいと回答					
1 70%未満の児童が学校が楽しいと回答					
4 90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりと回答	4	学校だよりや保護者会に加え、学校保健委員会を開催し、児童の健康や体力について啓発を図り、家庭と連携する。	外遊びの充実に関し異学年での遊びを検討してほしい。	A	特別活動の校内研究を通じ発信を行っていく。
3 80%～90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりと回答					
2 70%～80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりと回答					
1 70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりと回答					
4 90%以上の家庭が体力向上に満足と回答	2	東ピックでは、縄跳び検定しか行っておらず実施方法について改善していく。投力向上の方策を練る。	体力作りは、学校だけでは難しいと思われます。家庭でも課題として捉えてほしい。	B	グッドモーニング60分や元気アップガイドブックの啓発を更に推進していく。
3 80%～90%未満の家庭が体力向上に満足と回答					
2 70%～80%未満の家庭が体力向上に満足と回答					
1 70%未満の家庭が体力向上に満足と回答					
4 年間の残菜率3.30%	4	食育について学校ホームページを活用して啓発を充実させていく。	食育は人間が生きていく上での大事な教育だと思う。多面的な指導をこれからもお願いしたい。	A	栄養教諭による食育指導を継続実施していく。
3 3.50%					
2 3.70%					
1 3.90%					
4 QUの結果で各学級の要支援群0人	3	来年度も2回目の調査を実施する。その変容を見取り、さらにまとまりのある学級集団作りを進める。	今後も継続して、やる気とまとまりのある学級集団づくりに取り組んでほしい。	A	年2回のQUテストを継続し、学級経営に生かしていく。
3 1人					
2 2人					
1 3人					
4 90%以上の児童が得意ものを考えたと回答	3	特別活動の校内研究を深める中で、キャリア教育に取り組んで行く。	学級活動を通し、少しずつでもキャリア教育の実践を期待する。	B	特別活動の充実とともに、キャリア教育の推進を図っていく。
3 80%～90%未満の児童が得意ものを考えたと回答					
2 70%～80%未満の児童が得意ものを考えたと回答					
1 70%未満の児童が得意ものを考えたと回答					
4 90%以上の児童が将来について考えたと回答	3	特別活動の視点を生かし、学校行事の見直しを図っていく。	コロナ禍で地域との交流が減少しているが、できることを少しずつでも学校と連携していけるようにしたい。	B	食育や命の教育、昔遊びなどで、積極的に地域人材を活用していく。
3 80%～90%未満の児童が将来について考えたと回答					
2 70%～80%未満の児童が将来について考えたと回答					
1 70%未満の児童が将来について考えたと回答					

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価				
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができ、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	児童が何を学ぶのか、何が分かったかを理解し、主体的に学習に取り組む態度を育む。	1単元、1単位時間において「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業を展開する。	4 90%以上の教員が振り返りの指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ	4				
		考えを言語化・可視化して深めることができる授業をつくる。(研究指定校としての取組)	思考ツール等、考えを可視化することで児童が考えを深め合う授業を展開する。	4 90%以上の教員が言語化・可視化に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ 1 70%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ	4				
		すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。	スモールステップで児童の変容を見取り、「できた」を実感できる評価を工夫する。	4 90%以上の教員がスモールステップで評価の工夫に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がスモールステップで評価の工夫に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がスモールステップで評価の工夫に取り組んだ 1 70%未満の教員がスモールステップで評価の工夫に取り組んだ	3				
		豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。	自他を大切にする気持ちを言葉で伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	児童が「あいさつ」「返事」「アイコンタクト」をより意識するよう取り組む。	4 90%以上の教員が「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ	4		
				「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得ると認識し、未然防止と早期対応に努める。	「やさしい言葉」を増やす活動に児童が主体的に取り組む指導を継続する。	4 90%以上の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ	4		
				小さな問題にも気付けるよう児童理解に努め、組織的・継続的に観察・指導する。	児童のサインをキャッチし、情報共有の日常化を図り、組織的対応を行う。	4 90%以上の教員が日常的に情報共有を行った 3 80%～90%未満の教員が日常的に情報共有を行った 2 70%～80%未満の教員が日常的に情報共有を行った 1 70%未満の教員が日常的に情報共有を行った	4		
				健やかな体	児童が自分の心と体の健康に関心をもち、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。	児童自身が体力向上の成果を実感できるよう、組織的・継続的に指導する。	体力向上週間や授業で関心を高め、元気アップガイドブックを継続的に活用する。	4 90%以上の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した 3 80%～90%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した 2 70%～80%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した 1 70%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した	1
						健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣に向け実践の態度を育む。	「グッドモーニング60分」に家庭と連携して取り組み、児童自身による習慣化を図る。	4 90%以上の教員が家庭と連携して習慣化を図った 3 80%～90%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った 2 70%～80%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った 1 70%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った	3
						自分の心の健康づくりに関心をもち、他者の心も大切にしている意識や態度を育む。	SST等心のもち方や他者との関わり方について学習の継続を図る。	4 90%以上の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ	3
輝く未来	目標をもって粘り強く取り組む態度を育み、人のかかわりを大切にした豊かな人間性やコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。					集団の中で、自分のできることを判断し、行動する力を育む。	リーダー・フォロワーシップを理解し、自己決定のうえ実践できるよう指導する。	4 90%以上の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ	3
						児童同士が協働し認め合う場を意図的に設定し、自己肯定感・自己有用感を育む。	「ありがとう」をキーワードに、児童が相互に承認する活動に取り組む。	4 90%以上の教員が認め合う活動に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 1 70%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ	4
						家庭・地域・中学校との連携を通して、キャリア教育を推進する。	「キャリアアルバム」を活用してキャリア教育の年間計画に基づき、計画的に指導する。	4 90%以上の教員が認め合う活動に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 1 70%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ	3

年度末評価【総括表】

①共に成し遂げる過程で、「ありがとう」が生まれる学校 ②児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校 ③児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校 ④児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校
①粘り強く目標に向かい、「ありがとう」を見付け合う児童 ②誰かのために自分ができることを考え実行する児童 ③思いや考えを共有し、学び合い、認め合う児童 ④自他の体を大切に、一緒に運動を楽しみ、互いに支え合う児童
①多様な立場の人と目標を共有して協働する教師 ②児童の心情や意図の理解に努め、価値付ける教師 ③児童にとって魅力ある授業づくりに努め、変容を見出す教師 ④児童の心と体が元気になるよう関わりをもつ教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 90%以上の児童が振り返りをしたと回答 3 80%～90%未満の児童が振り返りをしたと回答 2 70%～80%未満の児童が振り返りをしたと回答 1 70%未満の児童が振り返りをしたと回答	3	授業において教員が高い意識をもって充実した1時間の授業の展開になるように取り組んでいる。	学習における振り返りが理解度を深め、授業への関心を高めることになっている。	A	児童が何を学ぶのか、理解し主体的に学習に取り組めるように「振り返り」の内容充実を更に進める。
4 90%以上の児童がよりよく考えたと回答 3 80%～90%未満の児童がよりよく考えたと回答 2 70%～80%未満の児童がよりよく考えたと回答 1 70%未満の児童がよりよく考えたと回答	3	児童の考えを可視化することが考えを深め合う学習につながっている。	児童の考えを言葉で表現するための努力が学習の意欲につながっている。	A	児童に思考ツールの使い方を習熟させ、考えを深めるためにより友好的に活用できるようにする。
4 90%以上の児童が毎日「分かった・できた」と考えた回答 3 80%～90%未満の児童が毎日「分かった・できた」と考えた回答 2 70%～80%未満の児童が毎日「分かった・できた」と考えた回答 1 70%未満の児童が毎日「分かった・できた」と考えた回答	3	学習をスモールステップ化することにより児童が「分かった、できた」と感じる事ができた。	スモールステップ化することで児童の学習への理解が進むように指導していることに、指導のきめ細かさがある。	A	スモールステップを学習内容や児童の実態に合わせて最適化し、より児童が活躍できる授業をつくる。
4 90%以上の児童が「あいさつ・返事」ができると回答 3 80%～90%未満の児童が「あいさつ・返事」ができると回答 2 70%～80%未満の児童が「あいさつ・返事」ができると回答 1 70%未満の児童が「あいさつ・返事」ができると回答	3	教員が「あいさつ・返事」の大切さを理解し、しっかりと指導に取り組み、効果があった。	あいさつする児童が多くなったと感じる。しっかりと「あいさつ」ができるように今後も指導を続けていくと良い。	A	児童同士の言葉遣いに関して、継続的に指導をし、自他を大切に育てる態度を育む。
4 90%以上の児童がやさしい言葉を使うよう心がけたと回答 3 80%～90%未満の児童がやさしい言葉を使うよう心がけたと回答 2 70%～80%未満の児童がやさしい言葉を使うよう心がけたと回答 1 70%未満の児童がやさしい言葉を使うよう心がけたと回答	3	朝の会や学級活動など様々な場面で「やさしい言葉」について継続的に指導できている。	他者への思いやりの心を保つことはとても大事なことでやさしい言葉の指導を継続していくと良い。	A	ふれ合い月間における学校全体での相手への温かい言葉かけなどの取組を続けていく。
4 90%以上の児童が学校に相談できると回答 3 80%～90%未満の児童が学校に相談できると回答 2 70%～80%未満の児童が学校に相談できると回答 1 70%未満の児童が学校に相談できると回答	2	生活指導案件については即日対応し、学年間や全校で情報を共有しながら対応している。	児童が気軽に担任やSCに相談できるようにしていくことで児童の困り感を受け取れるようにしていくと良い。	B	SCやSSWを積極的に活用し、児童が相談できる大人を増やし、いつでも相談できる学校を目指す。
4 90%以上の児童が運動は楽しいと回答 3 80%～90%未満の児童が運動は楽しいと回答 2 70%～80%未満の児童が運動は楽しいと回答 1 70%未満の児童が運動は楽しいと回答	4	ブレイクリーダーと連携し、元気アップガイドブックを活用した取組を行うことで運動が楽しいと感じる児童が増えている。	楽しく運動できる取組を増やして、体を動かすことが好きな児童が増えていくと良い。	A	元気アップガイドブックを授業や休み時間、放課後など様々な場面で日常的に活用していく。
4 80%以上の児童・保護者が学習・生活習慣が改善したと回答 3 70%～80%未満の児童・保護者が学習・生活習慣が改善したと回答 2 60%～70%未満の児童・保護者が学習・生活習慣が改善したと回答 1 60%未満の児童・保護者が学習・生活習慣が改善したと回答	3	グッドモーニング60分の取組を通じて、生活習慣の実態を把握し、指導に役立てることができた。	早起きすることや朝食をとるなど生活のリズムが習慣化されるように今後も指導を継続して行ってほしい。	B	保健指導や家庭学習週間などの取組の連携を密にしてより実効性のあるものにする。
4 90%以上の児童が他者のためになる言動をしたと回答 3 80%～90%未満の児童が他者のためになる言動をしたと回答 2 70%～80%未満の児童が他者のためになる言動をしたと回答 1 70%未満の児童が他者のためになる言動をしたと回答	2	教員が心の指導の取り組みことで児童が他者のためになる言動をしやすくなる気持ちが高まった。	コロナ禍で大変なときであるので、より一層児童の心のケアに気を付けて行ってほしい。	B	道徳や特別活動の取組を充実させ、児童の自己肯定感を高め自分も他者も大切にすることを高める。
4 90%以上の児童が自分で考えて行動できると回答 3 80%～90%未満の児童が自分で考えて行動できると回答 2 70%～80%未満の児童が自分で考えて行動できると回答 1 70%未満の児童が自分で考えて行動できると回答	4	縦割り班の「なかよしタイム」の活動により、集団の中で考えて行動できる力が高まった。	縦割り班活動は高学年のリーダーシップを高める良い活動であるので継続して行ってほしい。	A	2学年交流だったなかよしタイムを全学年へ広げ、リーダーシップ・フォロワーシップの力を高める。
4 80%以上の児童が自分のことを好きと回答 3 70%～80%未満の児童が自分のことを好きと回答 2 60%～70%未満の児童が自分のことを好きと回答 1 60%未満の児童が自分のことを好きと回答	2	互いを認め合う活動を教員がしっかり行っている。自分のことを好きと回答している児童も多い。	自分を好きになることは自信をもつことにもつながるので大事であるからさらに進めていくべき。	B	作品を見合ったり教え合ったりする活動を取り入れ、互いを認め合う機会を増やしていく。
4 90%以上の児童が自分のよきや成長について考えたと回答 3 80%～90%未満の児童が自分のよきや成長について考えたと回答 2 70%～80%未満の児童が自分のよきや成長について考えたと回答 1 70%未満の児童が自分のよきや成長について考えたと回答	3	キャリアアルバムを通じて家庭と学校が連携し、計画的にキャリア教育を推進することができた。	学校と家庭と地域が、一体となって子供を育てていくことは大事なのでより一層連携を高めて行ってほしい。	B	キャリアアルバムを通じて児童が自己を見つめ直すことができるように、計画的な指導を続けていく。

学校教育目標	○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学习ノート」「寺小屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4 寺小屋…実施回数90%以上 3 寺小屋…実施回数80%以上 2 寺小屋…実施回数70%以上 1 寺小屋…実施回数70%未満	4
		生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導	4 教科でのICT活用…90%以上の授業 3 教科でのICT活用…80%以上の授業 2 教科でのICT活用…70%以上の授業 1 教科でのICT活用…70%未満の授業	4
		未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成	「探求ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視	4 探求ノートの活用…年20回以上 3 探求ノートの活用…年10回以上 2 探求ノートの活用…年5回以上 1 探求ノートの活用…年5回未満	3
豊かな心	認知機能高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子の育成	個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	「h-QU」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進	4 児童集会…実施率90%以上 3 児童集会…実施率80%以上 2 児童集会…実施率70%以上 1 児童集会…実施率70%未満	3
		認知機能高め、自他共に敬意をもって関係する力の育成	「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜く力等の重視	4 コグトレ…実施率90%以上 3 コグトレ…実施率80%以上 2 コグトレ…実施率70%以上 1 コグトレ…実施率70%未満	4
		自他を大切に、よく生きる、内面に根ざした道徳性の涵養	問題解決的あるいは体験を通じた発問構成の工夫、広い視野で考え議論する道徳	4 考え議論する道徳…実施率90%以上 3 考え議論する道徳…実施率80%以上 2 考え議論する道徳…実施率70%以上 1 考え議論する道徳…実施率70%未満	4
健やかな体	基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子の育成	新しい生活様式に基づき、人の命を守る意識と行動力の育成	「ゲッドモーニング60分」等、家庭との協働を強化し、感染防止と新しい生活様式の定着	4 健康観察表未記入…1日平均0~2人 3 健康観察表未記入…1日平均3~5人 2 健康観察表未記入…1日平均6~9人 1 健康観察表未記入…1日平均10人以上	3
		基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上	「元気アップガイドブック」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力	4 元気アップの取組…18項目以上 3 元気アップの取組…14項目以上 2 元気アップの取組…10項目以上 1 元気アップの取組…10項目未満	2
		様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力の醸成	自殺防止授業の他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進	4 相談できる3人記入…児童の90%以上 3 相談できる3人記入…児童の80%以上 2 相談できる3人記入…児童の70%以上 1 相談できる3人記入…児童の70%未満	3
輝く未来	未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成	学校図書館に学習・情報センター機能をもたせ、全教育課程で言語活動を充実	4 図書館機能を活用…全学級月4回以上 3 図書館機能を活用…全学級月3回 2 図書館機能を活用…全学級月2回 1 図書館機能を活用…全学級月1回以下	4
		情報活用能力とともに、新たな解を創造する力の醸成	1人1台の端末やオンラインの活用など、見方・考え方を働かせながら思索する場の充実	4 タブレットの活用…全学級週10回以上 3 タブレットの活用…全学級週6~9回 2 タブレットの活用…全学級週3~5回 1 タブレットの活用…全学級週3回未満	4
		多様な文化を尊重し、世界の人々と協調し活躍できる人材に育成	「キャリア・パスポート」の活用等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立での充実	4 キャリア・パスポート記入…児童の90%以上 3 キャリア・パスポート記入…児童の80%以上 2 キャリア・パスポート記入…児童の70%以上 1 キャリア・パスポート記入…児童の70%未満	3

年度末評価【総括表】

職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に臆することなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 診断シート…正答率向上30%以上 3 診断シート…正答率向上20%以上 2 診断シート…正答率向上10%以上 1 診断シート…正答率向上10%未満	3	○寺子屋の定着充実 ●推進プラン全面改定	寺子屋により、学力の底上げと学習習慣につながっている。	B	振り返りを大切にし、児童が自ら学びに向かう[学びのすすめ]の定着に努めます。
4 診断シート…正答率50%未満10%未満 3 診断シート…正答率50%未満20%未満 2 診断シート…正答率50%未満30%未満 1 診断シート…正答率50%未満30%以上	3	○タブレット効果的活用 ●探究学習を充実推進	対話型、発展型のスタイルはとても賛同できる。	A	探究学習の成果を土曜の[学習発表授業]で公開し、表現力を高めます。
4 探求ノート…未記入箇所10%未満 3 探求ノート…未記入箇所20%未満 2 探求ノート…未記入箇所30%未満 1 探求ノート…未記入箇所30%以上	3	○学習意欲・習慣向上 ●探求ノート充実改善	児童同士で教え合う機会に更に増やしてもいいと感じる。	B	全学年の[探求ノート]を完成させ、6年間で段階的に探究力を育成します。
4 社会通念上のいじめ…0~5件 3 社会通念上のいじめ…6~15件 2 社会通念上のいじめ…16~30件 1 社会通念上のいじめ…31件以上	3	○楽しく穏やかな学校 ●自己肯定感の向上	素晴らしい環境の中、切磋琢磨して自己有用感を高めている。	B	全ての学年で毎年[学級編成替え]を実施し、豊かな関係性を醸成します。
4 意欲的にコグトレ…80%以上の児童 3 意欲的にコグトレ…70%以上の児童 2 意欲的にコグトレ…60%以上の児童 1 意欲的にコグトレ…60%未満の児童	4	○対人スキルが向上 ●QUのさらなる活用	「コグトレ」を楽しみにしており、集中力や対人スキルが向上。	A	週1回の[コグトレ]で社会性を育てる認知、感情統制、対人スキル等を育成します。
4 自分事として考える…80%以上の児童 3 自分事として考える…70%以上の児童 2 自分事として考える…60%以上の児童 1 自分事として考える…60%未満の児童	3	○自他を認め合う意識 ●自尊感情の向上	自他ともに認め合い、大切にし、心に留める子が育っている。	A	本音で話し合いができる[考え議論する道徳]の授業展開を工夫します。
4 病欠児童…1日の平均0~3人 3 病欠児童…1日の平均4~7人 2 病欠児童…1日の平均8~11人 1 病欠児童…1日の平均12人以上	4	○感染防止の徹底 ●食育の計画的推進	日常生活や行事ごとの感染症対策がとても安心、信頼できる。	A	[お弁当の日]を中心に、食育を家庭・地域との連携して指導します。
4 運動することが楽しい…80%以上の児童 3 運動することが楽しい…70%以上の児童 2 運動することが楽しい…60%以上の児童 1 運動することが楽しい…60%未満の児童	3	○運動習慣が改善 ●元気UPの充実	せっかくの広い校庭で遊んでいる子が少なく感じてしまう。	B	[元気UP]で運動の魅力や体の成長が実感できる指導法を工夫します。
4 大人に相談できる…90%以上の児童 3 大人に相談できる…80%以上の児童 2 大人に相談できる…70%以上の児童 1 大人に相談できる…70%未満の児童	4	○気楽に相談できる ●SOSの出し方	伸び伸びと笑顔で過ごす児童が多いといつも感じます。	A	家庭と連携し、心と体の関連性を理解し、適切に対処できる力を育成します。
4 話し合いができる…80%以上の児童 3 話し合いができる…70%以上の児童 2 話し合いができる…60%以上の児童 1 話し合いができる…60%未満の児童	4	○総合学習単元開発 ●SDGs思索道場	富士見の子たちは学習にも図書館をよく利用しているのでは。	A	図書館活用で、言語能力を鍛え[読書感想文]、[調べる学習]に挑戦します。
4 情報リテラシー…概ね満足80%以上 3 情報リテラシー…概ね満足70%以上 2 情報リテラシー…概ね満足60%以上 1 情報リテラシー…概ね満足60%未満	4	○自分の言葉で思考 ●探求ノートの活用	市内でも先進的にICTを活用しており、確実に向上している。	A	探求的な見方・考え方を働かせて、[短作文]などで、思索力を養います。
4 将来のことを考えている…80%以上の児童 3 将来のことを考えている…70%以上の児童 2 将来のことを考えている…60%以上の児童 1 将来のことを考えている…60%未満の児童	2	○縦割り班活動充実 ●世界を見据えた教育	難題ですが、国際感覚を養うカリキュラムをより一層期待。	C	計画な目標の下、[音楽会]を毎年継続し、[SDGs]とも関連して学びます。

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	
確かな学力	○自ら学ぶ意欲や学び方を身に付けさせ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。	○授業力アドバイザー事業のアドバイスを受け、教員一人一人が自己点検を行いながら、個々の授業力の向上を図る。	○各教員は、「授業力自己診断」、児童には「授業アンケート」を実施し、そのデータをもとに授業力を向上させて学校独自の学力調査を行う。	4 全教員が「授業力自己診断」を実施した。 3 80%～100%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。 2 70%～80%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。 1 70%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。	4	
		○ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	○校内研究を充実させると共に、学校独自のアンケートを実施し、結果を分析して対応策を講じる。	4 全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。		3
		○そよかぜ職員によるOJTと、市のユニバーサルデザインを活用した教育実践を図る。	○そよかぜ職員によるOJTと、市のユニバーサルデザインを活用した教育実践を図る。	4 全教員がチェックリスト7項目に取り組んだ。 3 80%～100%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ。 2 70%～80%の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ。 1 70%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ。		
豊かな心	○人権意識を高め、自他ともに大切にできる態度を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、児童個々の良さを発揮し、安心して生活できるようにする。	○年2回の学校生活アンケートから児童の自己肯定感を数値化し、個々の児童に応じた指導をする。	4 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 3 80～100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 2 70%から80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4	
		○教育活動全体を通して、道徳的実践力を身に付けさせる。	○児童が考え議論する道徳の授業と評価を確実に実施する。	4 全教員が共通のワークシートを活用した指導をしている。 3 80%～100%未満の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている。 2 70%～80%の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている。 1 70%未満の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている。		3
		○児童の自己有用感を高める活動を行う学級活動を実践する。	○QU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		
健やかな体	○健康への関心を深め、基礎的な体力の育成と向上を図る。	○系統性を重視した健康教育と、体育活動を推進し、体力向上を目指す。	○体育講師を有効活用し、元氣アップガイドに基づくきめ細かい取り組みを実施する。	4 全教員が計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った。	3	
		○新しい生活様式の習慣化を図り、健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	○生活指導・保健指導・学級活動の充実を図り、計画的な指導を行う。	4 全教員が計画的な授業を実施した。 3 80%から100%未満の教員が計画的な授業を実施した。 2 70%から80%の教員が計画的な授業を実施した。 1 70%未満の教員が計画的な授業を実施した。		4
		○望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が食育計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。		
輝く未来	○子ども達が自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	入学時「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分を目指す「キャリアアルバム」を作成する。	4 全教員が方策を実施した。 3 80%～100%未満の教員が方策を実施した。 2 70%～80%未満の教員が方策を実施した。 1 70%未満の教員が方策を実施した。	3	
		○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	○文化、スポーツ、高齢者、地域工場・店舗での学びの場を、各学年設定する。	4 全学年の教員が交流体験を実施した。 3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した。		4
		○保護者や地域と連携し、児童が活動できる事業を展開する。	○PTAや地区委員会の行事に計画的に参加・協力する。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した。 3 80%～100%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した。 2 70%～80%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した。 1 70%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した。		
その他	○学校のレガシーとして、芝生の校庭を様々な教育活動に活用する。	○芝生での運動促進と、芝管理も体験させ、環境に対する意識も高めさせる。	○学校のレガシーとして、芝生の校庭を様々な教育活動に活用する。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した。 3 80%～100%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した。 2 70%～80%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した。 1 70%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した。	4	

年度末評価【総括表】

○児童にとって充実した学校 ○保護者にとって信頼できる学校 ○教職員にとって働きがいのある学校
○思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども○感性あふれる豊かな心をもつ子ども ○すすんで心と体を鍛えることができる子ども
○ありのままの児童を受け止め、個性を発揮させる教師 ○授業で勝負できる教師 ○家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 調査が前年比+2ポイント以上	2	学力調査は1月末に実施。結果を分析し、課題に沿った方策を立てる。全教員が自己診断を実施し、授業力向上アドバイザーの指導を受け、その内容を基に授業改善に取り組んだ。	教員は授業力の向上に尽力している。引き続き、授業力向上に期待する。	B	授業力向上アドバイザーからは、「振り返りを充実させるように指導を受けている。タブレットを活用した振り返りを提案していく。
3 調査の正答率が前年比0～+2ポイント未満					
2 調査の正答率が前年比0～-4ポイント未満					
1 調査の正答率が前年比-4ポイント以上					
4 90%以上の児童がタブレットを活用している。	4	校内研究を中心にタブレットの活用を図った。全児童が活用している。放課後や長期休業中も持ち帰り、課題に取り組ませている。	ICTの活用を図ることで、児童のタブレット活用能力が定着しつつある。放課後子ども教室でも、タブレットに親しんでいる児童が多い。今後もICT化は進んでいくと思われる。教育の場で触れる機会をたくさん持たせたい。	A	校内研究で効果的な授業の活用を研究するとともに、生活指導と連携し、ネットマナーや校内でのタブレットルールの定着を徹底する。
3 80%～90%未満の児童がタブレットを活用している。					
2 70%～80%未満の児童がタブレットを活用している。					
1 70%未満の児童がタブレットを活用している。					
4 90%以上の児童が安心して学校生活が過ごせている	4	週に2回の巡回で、そよかぜ教員との連携を図った。また、そよかぜ教員による研修を実施した。児童アンケート「毎日楽しく学校に来ている」の回答は全校平均90%である。	そよかぜ教室前の掲示がとても良い。児童や教員に啓発できていると感じる。今後に期待する。	A	習熟度別学習や各学年に応じた教科担任制の授業を生かし、個に応じた支援のさらなる充実を図る。組織的なユニバーサルデザイン環境の構築により、児童の安心感を
3 80%～90%未満の児童が安心して学校生活が過ごせている					
2 70%～80%未満の児童が安心して学校生活が過ごせている					
1 70%未満の児童が安心して学校生活が過ごせている					
4 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている	3	児童アンケート「今の自分は好きですか」の回答は全校平均78%。アンケートの実施後は、個々の児童から聞き取りを行い、各担任は個に応じて対応した。	生活アンケートで、「学校に来るのが楽しい」と答えた児童が90%という結果は、素晴らしいと思う。その反面「自己肯定感」「自己有用感」が下がる結果となったことが気にかかる。	B	自己肯定感を問う児童アンケートの結果は、1回目よりも2回目の数値が4%下がっている。人権教育を推進し、QUから得られた結果を基に個々の抱える問題に対応する。
3 70%以上の児童が自己肯定感があると感じている					
2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている					
1 自己肯定感があると感じている児童が60%以下だった					
4 90%以上の児童が振り返りを書くことが出来た	4	全学年共通のワークシートを活用し、振り返りを実施した。ワークシートを蓄積し、児童は自己の姿容を実感できている。教員間の研修やタブレットの活用で、授業の充実を図った。	道徳授業の公開をオンラインで実施し、工夫した授業が多いと感じた。タブレットを使って考えを発表したり、友達と意見を交換したりする姿が印象的であった。	A	道徳教育推進教師を中心とし、対話を促す効果的なタブレットの活用を研究し、道徳授業のさらなる改善を図る。授業観察等で教員間の参観機会を設け、研鑽する。
3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た					
2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た					
1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった					
4 学級生活満足群が50%以上	4	全学級で、係活動や当番活動の充実を図り、自己有用感を高める指導を行った。2回目の満足度調査では、15学級中9学級が「親和的な学級」であり、児童の生活満足群は50%以上である。	学級満足度調査を継続し、より良く生活が送れるようにと願う。また、アンケートの継続に期待する。結果を示した個々への対応により、教員は自他を大切に思う心を育んでいる。	A	QUの結果から得られる心理士のアドバイスを生かし、学級活動や個への支援の充実を図る。朝の時間を利用して、学級を活性化させる学級エクササイズ時間を設ける。
3 学級生活満足群が40%以上					
2 学級生活満足群が30%以上					
1 学級生活満足群が30%以下					
4 調査結果が昨年比平均ポイントから+5ポイント以上	3	2学期に「長なわ」の取組を実施し、外遊びを推奨した。体育講師による専門的な指導で体力の向上が図れた。	芝生の校庭で、転げ回る児童の姿を見ている。体力向上には外遊びが望ましい。放課後子ども教室では、タブレットに夢中で、外遊びをしない子供がいた。	B	引き続き外遊びの推奨を行い、体力向上を図る。学年に応じた計画を立て、元気アップガイドを取り入れた体育授業の改善と授業力の向上を目指す。
3 調査結果が昨年比～+5ポイント					
2 調査結果が昨年比-5ポイント以内					
1 調査結果が昨年比-5ポイント以上					
4 90%以上の児童が目標を達成している	3	登校時や休み時間明け、給食前のうがいや手指消毒の徹底を図り、感染対策を行った。養護教諭の保健指導を学期に一度実践した。	新しい生活習慣の中で、教員は体力向上や健康管理の大切な指導を実践してきた。児童の手洗いの様子を見る機会があるが、上達している。その様子からも指導の実感が伺える。	B	「すまいるカード」は長期休業後に実施し、「グッドモーニング60分」の推進について、家庭との連携を図る。
3 80%～90%未満の児童が目標を達成している					
2 70%～80%未満の児童が目標を達成している					
1 70%未満の児童が目標を達成している					
4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している	3	学期に一度の「お弁当の日」の前にはチャレンジカードに取り組み、実践目標を立てて振り返りを行った。栄養バランスを考える児童の育成が図れた。	黙食をしていると聞いた。給食の様子が昔と違って、栄養バランスを考える児童の育成が図れているのかを知りたい。	B	日常の給食指導を通して、好き嫌いせず食べることの大切さや食生活のマナーなどを身に付けるようにしていく。
3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している					
2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している					
1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している					
4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる	3	4月は1年生に対して、「スタートカリキュラム」を実践し円滑な接続を図った。学期始めや行事では「キャリアアルバム」を作成し、それを振り返ることで自己の成長を実感した。	新1年生の「スタートカリキュラム」についてもっと知りたい。	B	次年度の「スタートカリキュラム」の計画を3学期に立てる。また、学年に応じた「キャリアアルバム」を作成し、自己の成長を実感させた価値付けを行い、安心して進級・進学でオリンピック・パラリンピックのレガシーを存続し、感染症対策を講じた上での交流活動を計画する。リモートや文書での交流など、工夫を講じる。
3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる					
2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる					
1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる					
4 90%以上の児童が目標を達成している	4	コロナ禍で多くの計画が中止となったが、オリパラ事業によるアスリートの招聘ができた。全校でバレーボール選手との交流、3・4年がセバフクロ選手との交流ができ、運動への意識が高まった。	オリンピック・パラリンピック事業によるアスリートの招聘は、児童の興味・関心が広がる経験である。コロナ禍で人と人との交流をもつことが難しいと思うが、継続することに期待する。	A	地区委員会の行事等、郷土に伝わる文化について、道徳科や総合的な学習の時間を通し、児童に伝える機会を設ける。
3 80%～90%未満の児童が目標を達成している					
2 70%～80%未満の児童が目標を達成している					
1 70%未満の児童が目標を達成している					
4 60%以上の児童が積極的に活動に参加できた	1	コロナ禍で多くの計画が中止となった。唯一実施した地区委員会主催の凧作りの活動には39名の児童の参加があった。	今までのような行事が難しい状況であるが、動画やネット会議の利用など、ICTを駆使した別の方法の利用も検討すべき時がきていると感じている。	C	地区委員会の行事等、郷土に伝わる文化について、道徳科や総合的な学習の時間を通し、児童に伝える機会を設ける。
3 50%～60%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
2 40%～50%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
1 40%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
4 90%以上の児童が積極的に活動に参加できた	4	体育や休み時間で、90%の児童が芝生で活動した。委員会を中心に、芝生の雑草抜きを企画を立て、委員会の活動を企画した。また、学校HPで、芝生の親方を含め、地域・児童・職員が関わっている様子を発信できた。	芝生の上で思いっきり走り回る児童の様子を見た。そんな芝生を職員、地域でよく管理している。児童にも管理を任せ、愛校心を高めたい。	A	芝生維持管理の輪を広げ、学校のレガシーとして地域に根ざしたものにしたい。
3 80%～90%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
2 70%～80%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
1 70%未満の児童が積極的に活動に参加できた					

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、主体的に学びに向かう力を育成する。	自らの考えを広げ深める対話的な学びを工夫する。	体育の授業改善を中心に、学び合いの授業を実践する。	4 学び合い活動等の交流…80%以上の授業	4
				3 学び合い活動等の交流…70%以上の授業	
				2 学び合い活動等の交流…60%以上の授業	
				1 学び合い活動等の交流…60%未満の授業	
		児童向け資料「家庭学習の進め方」を活用し、家庭学習の充実を図る。	年3回の家庭学習強化月間を通して、家庭学習の習慣付けを図る。	4 強化月間中の家庭学習の提出率…90%以上の児童	3
				3 強化月間中の家庭学習の提出率…80%以上の児童	
				2 強化月間中の家庭学習の提出率…70%以上の児童	
		児童にやさしい教室環境、学習環境、授業を工夫・改善する。	玉小スタンダードに基づき、教室環境や学習環境、授業の進め方を整える。	4 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員	3
				3 玉小スタンダードに基づいた指導…80%以上の教員	
豊かな心	道徳教育の充実・推進を図り、規範意識、社会参画意識を養い、自己有用感を育成する。	道徳授業地区公開講座を中心として組織的に道徳教育に取り組む。	道徳教育推進教師を中心に授業改善を進めより良く生きるための道徳性を養う。	4 考え、議論する道徳授業の実施…95%以上の教員	2
				3 考え、議論する道徳授業の実施…90%以上の教員	
				2 考え、議論する道徳授業の実施…80%以上の教員	
				1 考え、議論する道徳授業の実施…80%未満の教員	
		「玉川小のやくそく」を継続的に発信し続け、定着を図る。	全教員が共通理解を深め、生活・授業規律を徹底する。	4 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員	3
				3 玉小スタンダードに基づいた指導…80%以上の教員	
				2 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員	
		自己有用感を高めさせるために、特別活動の充実を図る。	学級会の流れを系統的に学ばせ、自主的、実践的に集団行動する態度を育成する。	4 学級会の実施回数…8回以上の実施	2
				3 学級会の実施回数…7回以上の実施	
健やかな体	体育の授業改善とともに、日常的な運動習慣を定着させ、運動に親しむ資質や能力を育成する。	体力調査結果を検証・活用し、体育朝会を改善する。	体育朝会の年間指導計画を立て、ねらいを明確にして、系統立てて実施する。	4 体育朝会の実施…25回以上の実施	3
				3 体育朝会の実施…20回以上の実施	
				2 体育朝会の実施…15回以上の実施	
		生活指導部を中心に、安全に配慮した学校運営を行う。	危険察知能力を高めさせるために、計画的かつ系統的に安全に関する指導を行う。	4 安全に関する指導の実施回数…20回以上	2
				3 安全に関する指導の実施回数…15回以上	
				2 安全に関する指導の実施回数…11回以上	
		自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	元気アップガイドブックを活用し、運動や健康の大切さについての意識の向上を図る。	4 元気アップガイドブックの活用…9回以上	2
				3 元気アップガイドブックの活用…6回以上	
				2 元気アップガイドブックの活用…3回以上	
輝く未来	日本の伝統文化理解と継承を図り、多様な文化の尊重と国際理解・協力の態度を育成する。	伝統文化に関する理解を深め、多様な文化を受け入れる態度を育てる。	外部人材等を活用した伝統文化に関する授業を実践し、多様な文化を受け入れる態度を育てる。	4 外部人材等を活用した伝統文化の授業…全学年	1
				3 外部人材等を活用した伝統文化の授業…五つの学年	
				2 外部人材等を活用した伝統文化の授業…四つの学年	
		心のバリアフリーを浸透させ、多様性を尊重する態度を育てる。	障害者理解を柱として、年間指導計画に沿って、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。	4 講話+体験+交流の実施…全学年	1
				3 講話+体験+交流の実施…五つの学年	
				2 講話+体験+交流の実施…四つの学年	
		小中連携した児童の育成を図る。	自身の成長や変容に気付くことができるようにキャリア・パスポートの活用を図る。	4 キャリア・パスポートの活用…7回以上	1
				3 キャリア・パスポートの活用…6回以上	
				2 キャリア・パスポートの活用…5回以上	
				1 キャリア・パスポートの活用…5回未満	

年度末評価【総括表】

・子供たちにとって学びがいのある学校	・教職員にとって働きがいのある学校		
・心身共に健康な児童	・創造性に富んだ児童	・人間として調和のとれた児童	
・人権感覚が豊かな教師	・創造性に富んだ教師	・チームを意識した協調性のある教師	・絶えず研究と修養に励む教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学習定着度75%以上…90%以上の児童	3	各学級が全教科で学び合いの活動を取り入れ、学習の定着を図っている。各学級のワークテストの結果を調べると、概ね8割以上の児童が学年相当の知識を身に付けていることが分かった。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	B	引き続き、各学級・全教科で学び合いの活動を取り入れ、学力の定着を図る。タブレット教材を利用して学び合い活動を実施する等、校内研究を通して更に充実させる。
3 学習定着度75%以上…80%以上の児童					
2 学習定着度75%以上…70%以上の児童					
1 学習定着度75%以上…70%未満の児童					
4 学習定着度75%以上…90%以上の児童	4	概ね、宿題の提出率は8割程度であった。特に低学年は9割を超す提出率であった。家庭学習の提出率と、各評価テストの結果を比較したところ、提出率が100%の児童は、学習定着度も高い結果が見られた。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	B	低学年から宿題の提出を意識させること、その提出率を維持することを、家庭学習と学習定着度の関連性を研究し、児童、家庭に発信しながら学力の定着を図る。
3 学習定着度75%以上…80%以上の児童					
2 学習定着度75%以上…70%以上の児童					
1 学習定着度75%以上…70%未満の児童					
4 授業が分かりやすい…95%以上の児童	3	「ハンドサインや「話すのは一人」などの授業規律を継続的に指導し、分かりやすい授業を実践している。「学校アンケート(児童)」の「学校の授業は分かりやすいですか。」では肯定的な評価が93.5%であった。	授業に参加できない児童に対して、どのように対応し声をかけるのかなど具体的な手立てが必要である。	B	ハンドサインや「話すのは一人」をどの授業においても、継続的に指導する。どの児童にも分かりやすい授業を行う。
3 授業が分かりやすい…90%以上の児童					
2 授業が分かりやすい…80%以上の児童					
1 授業が分かりやすい…80%未満の児童					
4 社会通念上のいじめ…0件	3	低学年において「議論する道徳授業」の実施や課題がある。「いじめ総合対策」や「いじめ防止アンケート」を活用し、いじめ根絶に向けて、継続的にかつ組織的に対応していく。	低学年において議論することは難しいと感じる。率直な感想を出し合うことで良いと思う。	B	道徳の別案を作成、活用し、学校行事や他教科との関連を図りながら道徳教育の充実を図る。
3 社会通念上のいじめ…1件から5件					
2 社会通念上のいじめ…6件から10件					
1 社会通念上のいじめ…11件以上					
4 安心して生活できている…95%以上の児童	2	「全教員が生活・授業規律の徹底を図るために生活指導夕会で研修を含め共通理解の場を設けたことで、「学校アンケート(児童)」の「学校で落ち着いて安心して生活できていますか。」では肯定的な評価が88.3%であった。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	B	授業規律に関しては、全校で徹底した指導を図る。週に一回、学年主任が様子を見て、具体的な改善策を学年で相談していく。また、生活指導夕会での報告や研修を通じて、全教職員で共通理解し、実践していく。
3 安心して生活できている…90%以上の児童					
2 安心して生活できている…80%以上の児童					
1 安心して生活できている…80%未満の児童					
4 楽しく学校生活を送っている…95%以上の児童	2	「感染症対策をしながらの学級会の実施になり、十分に意見交流をできなかった場面があった。「学校アンケート(児童)」の「楽しく学校生活を過ごせていますか。」では肯定的な評価が88.3%であった。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	B	感染症対策を図りながら話し合い活動を充実させるため、タブレットを活用した校内研究を実施する。
3 楽しく学校生活を送っている…90%以上の児童					
2 楽しく学校生活を送っている…80%以上の児童					
1 楽しく学校生活を送っている…80%未満の児童					
4 遊んだり体を動かしたりしている…95%以上の児童	2	体育朝会は年間の朝会計画に基づいて行っている。外遊びに関しては日々推奨し、「学校アンケート(児童)」の「学校で遊んだり体を動かしていますか。」では肯定的な評価が85.1%であった。	運動経験や技能差が様々な児童がいる中で、学校体育だけで体力向上を実現することは難しい。外部機関や専門家との連携も必要である。	B	通常の体育の授業でも、準備運動の中で元気アップガイドブックの動きを取り入れ、系統性を意識して指導する。
3 遊んだり体を動かしたりしている…90%以上の児童					
2 遊んだり体を動かしたりしている…80%以上の児童					
1 遊んだり体を動かしたりしている…80%未満の児童					
4 安全や健康についての知識を生かす…95%以上の児童	2	危機管理マニュアルに関して、視覚的な資料を活用して指導し、「学校アンケート(児童)」の「学校で学んだ安全や健康についての知識を生活の中で生かしていますか。」では肯定的な評価が83.9%であった。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	B	危機管理マニュアル研修会を設け、教職員の学校生活上の安全や健康に関する知識の向上に努める。
3 安全や健康についての知識を生かす…90%以上の児童					
2 安全や健康についての知識を生かす…80%以上の児童					
1 安全や健康についての知識を生かす…80%未満の児童					
4 食事や栄養についての知識を生かす…95%以上の児童	1	学期初めにグッドモーニング60分に取り組んでいる。また学年便り等で、食事や栄養についての話題に触れ、「学校アンケート(児童)」の「学校で学んだ食事や栄養についての知識を生活の中で生かしていますか。」では肯定的な評価が74.2%であった。	元気アップガイドブックをより活用し、体力向上を図る必要がある。	C	体力向上旬間を設け、縄跳びや持久走に全校で取り組み、体力向上を図る。
3 食事や栄養についての知識を生かす…90%以上の児童					
2 食事や栄養についての知識を生かす…80%以上の児童					
1 食事や栄養についての知識を生かす…80%未満の児童					
4 自分や友達を大切にしている…95%以上の児童	3	「伝統文化に関する活動は、図工や音楽などの教科で触れている。「学校アンケート(児童)」の「自分や友達を大切にしていると思えますか。」では肯定的な評価が94.3%であった。	コロナ禍において外部人材の活用が難しい。そのような中で経験させることは難しいと感じる。	B	校内での活動は継続し、外部人材の活用においては、リモートやビデオレター等での実施計画を立て、状況に応じて使い分けていく。
3 自分や友達を大切にしている…90%以上の児童					
2 自分や友達を大切にしている…80%以上の児童					
1 自分や友達を大切にしている…80%未満の児童					
4 思いやりの心をもって行動している…95%以上の児童	2	「オリンピック・パラリンピックを題材とした活動や、総合の時間での体験活動を行った。「学校アンケート(児童)」の「思いやりの心をもって行動していると思えますか。」では肯定的な評価が85.5%であった。	コロナ禍において外部人材の活用が難しい。そのような中で経験させることは難しいと感じる。	C	オリンピック・パラリンピック教育で培った精神を校内の活動の中で継承し、外部人材の活用においては、リモートやビデオレター等での実施計画を立て、状況に応じて使い分けていく。
3 思いやりの心をもって行動している…90%以上の児童					
2 思いやりの心をもって行動している…80%以上の児童					
1 思いやりの心をもって行動している…80%未満の児童					
4 自分の将来について考える…95%以上の児童	2	キャリア・パスポートへの記入は学期に1~2回の活用、計4回活用できた。「学校アンケート(児童)」の「自分の将来について考えることはありますか。」では肯定的な評価が81.4%であった。引き続き、活用を推進していく。	*コメントなし。 (コロナ禍において、学校参観等ができず、現状を正確に把握できないため。)	C	小中一貫の日、小教研を中心に連携を継続し、他校と学習指導、生活指導を共有する。キャリアパスポートの継続の他、各教科で、児童のキャリア教育を推進する。
3 自分の将来について考える…90%以上の児童					
2 自分の将来について考える…80%以上の児童					
1 自分の将来について考える…80%未満の児童					

学校教育目標	◎よく考える子(すすんで学び考え、諦めずに問題に取り組む子ども)	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	
確かな学力	基礎・基本を大切にし、分ける授業の実現に努め、確かな学力の定着を図る。	宿題を含めた自学自習や読書習慣の定着を図る。	様々な機会を通して学び方を学ばせたり、タブレットを活用できるよう指導したりする。	4 全学級が具体的な取組を行っている	4	
				3 具体的な取組を行っている学級が12学級以上である。		
				2 具体的な取組を行っている学級が10学級以上である。		
		読み取る、書く、伝える、計算する、考察する、資料を活用する力の育成及び定着を図る。	資料や既習事項を基に考えたり、まとめたり、発表したりする場を1単位時間に1回以上適切に設定する。	朝学習、東京ベーシックドリルの活用で、基礎・基本の定着80%以上を目標に取り組む。	4 全学級テスト実施率が100%である。	4
					3 全学級テスト実施率が90%である。	
	2 全学級テスト実施率が80%である。					
	読み取る、書く、伝える、計算する、考察する、資料を活用する力の育成及び定着を図る。	資料や既習事項を基に考えたり、まとめたり、発表したりする場を1単位時間に1回以上適切に設定する。	資料や既習事項を基に考えたり、まとめたり、発表したりする場を1単位時間に1回以上適切に設定する。	4 全教科等において実施する。	3	
				3 90%以上の教科等において実施する。		
				2 80%以上の教科等において実施する。		
	豊かな心	状況に応じてすすんで挨拶をする子を育成する。	全ての教育活動で「オアシス」の挨拶の習慣化を図る。	4 全学級が実施する。	4	
				3 月2回、個人内評価で振り返りを行う。		
2 月1回、個人内評価で振り返りを行う。						
互いに認め合い、支え合う豊かな心を育成する。		共生社会を生きる子どもの育成を図る	全学年でオリンピック・パラリンピック教育を通して障害者理解を図る。	4 全学級が実施する。	4	
				3 12学級以上の学級が実施する。		
				2 10学級以上の学級が実施する。		
健やかな体	生活習慣を見直し、丈夫な身体とたくましい心を育成する。	「グッドモーニング60分」に取り組みながら生活習慣の定着とともに、基礎体力の向上を図り、健康教育を推進する。	4 全学級が実施する。	3		
			3 12学級以上の学級が実施する。			
			2 10学級以上の学級が実施する。			
	生活習慣を見直し、丈夫な身体とたくましい心を育成する。	「グッドモーニング60分」に取り組みながら生活習慣の定着とともに、基礎体力の向上を図り、健康教育を推進する。	1日1回の外遊び、月1回の「笑顔の日」、体育授業などで「中神サーキット」を行う。また、「元気アップガイドブック」の活用などで体力向上を図る。	4 全学級が計画・実施する。	4	
				3 12学級以上の学級が計画・実施する。		
				2 10学級以上の学級が計画・実施する。		
輝く未来	保護者・地域との連携を深める。	地域を素材とした学習や伝統文化の体験を通して、郷土昭島に対する愛着や誇りを育てる。	4 全学級が地域人材や伝統文化の体験と事前・事後の指導を行う。	4		
			3 5つの学年が地域人材や伝統文化の体験と事前・事後の指導を行う。			
			2 4つの学年が地域人材や伝統文化の体験と事前・事後の指導を行う。			
	保護者・地域との連携を深める。	自分の身は自分で守る知識の習得と実践する態度を身に付ける。	安全教育プログラムなどを活用し、様々な災害から身を守る方法について場面ごとに具体的に指導する。	4 全学級で指導する。	4	
				3 12学級以上の学級で指導する。		
				2 10学級以上の学級で指導する。		

年度末評価【総括表】

○特別支援教育を全校で進める学校	○子どもも教職員も当たり前のことを当たり前でできる学校	○子ども、保護者・地域、教職員が中神小でよかったと思える学校
○自ら考え、主体的に学ぶ子ども	○互いを尊重し思いやりのある行動ができる子ども	○心身ともに健康でたくましい子ども
○人権感覚を磨き子どもの自尊心を高める教師	○常に向上心をもち指導力向上に努める教師	

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 自学自習とタブレットを使える児童が90%以上 3 自学自習とタブレットを使える児童が80%以上 2 自学自習とタブレットを使える児童が70%以上 1 自学自習とタブレットを使える児童が70%未満	4	各学級・各教科で積極的にタブレット端末を使用した学習を取り入れた指導を行うことができた。	タブレット端末を使いこなしている児童が多い。引き続き研修やタブレット端末使用の工夫を進めてほしい。	B	並行して「情報モラル教育」を行い、安全を担保することが大切である。
4 テストの平均点が80点以上である。 3 テストの平均点が70点以上である。 2 テストの平均点が60点以上である。 1 テストの平均点が60点未満である。	3	基礎基本の定着に向けて日々指導をしてきた結果、効果が表れてきているが、個別支援が必要な児童が多い。	朝学習に真剣に取り組んでいる。基礎・基本のところをつまずかないよう、取組を継続してほしい。	B	個別指導、学習支援員の有効活用を継続していく。
4 90%以上の児童がすすんでできた。 3 80%以上の児童がすすんでできた。 2 70%以上の児童がすすんでできた。 1 70%未満の児童がすすんでできた。	3	振り返りにも重点を置き、互いに発表し合うなどの活動も展開することができた。	班単位での発表など、工夫した中で実施している。今後も学んだことを楽しく、自信をもって発表できる場が多く設定されるとよい。	B	今後も授業を計画的に行い、振り返りを発表し合う時間も保証していく。
4 主体的に問題解決しようとする児童が90%以上である。 3 主体的に問題解決しようとする児童が80%以上である。 2 主体的に問題解決しようとする児童が70%以上である。 1 主体的に問題解決しようとする児童が70%未満である。	3	各自が目標を立て、効果的に「プログラミング的思考」が展開されるよう、配慮を続けた。	「プログラミング的思考」が更に身に付き、教育的効果が高まるよう一層推進してほしい。	B	日々機能が進化するタブレット端末の機能を生かし、効果を高めていく。
4 「オアシス」の挨拶ができる児童が90%以上である。 3 「オアシス」の挨拶ができる児童が80%以上である。 2 「オアシス」の挨拶ができる児童が70%以上である。 1 「オアシス」の挨拶ができる児童が70%未満である。	4	概ねできているが、更に挨拶がよくできている児童を紹介することで、意識付けを行った。	全ての児童には浸透していないように見受けられる。具体的な交流を通して日常的に指導を行い、挨拶が習慣化できるとよい。	B	よくできている児童を全校で紹介し、意欲を高める取組も有効である。
4 障害者への理解を深めた児童が90%以上である。 3 障害者への理解を深めた児童が80%以上である。 2 障害者への理解を深めた児童が70%以上である。 1 障害者への理解を深めた児童が70%未満である。	3	コロナ禍でスケジュールをずらしたが、外部講師を招聘し、実践することができた。	制約が多い中で工夫が見られた。周囲にはいろいろな人がいることを知り、それらの人々への理解を深められる指導を期待する。	B	限られた予算の中で本校に協力していただける人材を更に探していく。
4 学校が楽しいと思う児童が90%以上である。 3 学校が楽しいと思う児童が80%以上である。 2 学校が楽しいと思う児童が70%以上である。 1 学校が楽しいと思う児童が70%未満である。	4	実践を進めた結果、互いを思いやり、居場所となる場所づくりがかなりできてきた。	児童の様子を見ると、成果が表れているように感じる。何よりも「学校が楽しい。」と思える児童が多いことが大切である。	A	よりよい人間関係を築くための「中神スタンダード」の内容の更新を図り、更に深めていく。
4 すずんで取り組む児童が90%以上である。 3 すずんで取り組む児童が80%以上である。 2 すずんで取り組む児童が70%以上である。 1 すずんで取り組む児童が70%未満である。	3	保健委員会が中心となり、計画的に取り組むことができた。	効果が感じられるよい取組である。健康づくりを習慣化することが大切だと思う。	B	更に広く、深く浸透するように働きかける。
4 すずんで取り組む児童が90%以上である。 3 すずんで取り組む児童が80%以上である。 2 すずんで取り組む児童が70%以上である。 1 すずんで取り組む児童が70%未満である。	3	体育的行事委員会を中心として、計画的に推進することができた。	成果が表れている。楽しみながら思い切り体を動かす機会を増やし、体力の増強につなげてほしい。	B	基礎体力の向上については、十分とは言えず、継続した取組が必要である。
4 郷土への愛着や伝統文化への理解をした児童が90%以上である。 3 郷土への愛着や伝統文化への理解をした児童が80%以上である。 2 郷土への愛着や伝統文化への理解をした児童が70%以上である。 1 郷土への愛着や伝統文化への理解をした児童が70%未満である。	3	コロナ禍による制限はあったが、実践方法を工夫し、概ね年間計画どおり実施することができた。	コロナ禍で、地域との交流は難しいと思うが、工夫して行っていた。できる活動を見つけて機会を増やすように努めてほしい。	B	感染症防止対策を十分にしながら活動を保証することが今後必要である。
4 90%以上の児童が身を守る方法を知った。 3 80%以上の児童が身を守る方法を知った。 2 70%以上の児童が身を守る方法を知った。 1 70%未満の児童が身を守る方法を知った。	4	日々の指導、避難訓練を通して意識を高めることができた。	指導の効果は感じられる。安全教育については、他人への不信任や恐怖心を抱かないよう、配慮が必要である。	B	中間評価時に引き続き、個々の児童の危険予測を継続して指導する必要がある。

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校 ○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価			
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的で深い学びの実現。	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究を行うことで、授業力の向上を図る。	授業力分析シートや教員それぞれが抱える課題ごとにグルーピングすることで、より主体的な授業改善を図る。	4	全グループで授業公開を伴う授業改善に取り組んだ。	4		
				3	1グループを除いて、授業公開を伴う授業改善に取り組んだ。			
				2	2グループを除いて、授業公開を伴う授業改善に取り組んだ。			
						1	3グループを除いて、授業公開を伴う授業改善に取り組んだ。	3
			学ぶことの楽しさを味わわせる授業を積み重ね、児童の学びに向かう力を向上させていく。	新型コロナウイルスの感染防止に取り組みながらも、児童自身に課題意識をもたせ、児童主体の問題解決学習を展開していく。	4	8割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。		
					3	7割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。		
						2	6割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	4
						1	6割未満の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	
			児童の学力を把握し、実態に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	単元ごとの3観点評価を計画的に行い、指導と評価の一体化を意識した授業運営を行う。	4	全学年で計画通り実施した。		
				3	5学年以上で計画通り実施した。	4		
				2	4学年以上で計画通り実施した。			
				1	3学年以下で計画通り実施した。			
豊かな心	自分とともに他者を大切に する態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成を図る。	自発的にあいさつをする態度を養い、あいさつが自然に通い合う関係をつくる。	ふれあい月間であいさつ運動を実施する。年度内で3回学校生活目標にあいさつを取り上げて、あいさつ指導の強化を図る。	4	全教員が日常的に指導した。	4		
				3	90%以上の教員が日常的に指導した。			
				2	80%以上の教員が日常的に指導した。			
						1	80%未満の教員が日常的に指導した。	4
			新型コロナウイルスの感染拡大防止を講じながら児童が落ち着いて安心した学校生活を送ることができるようにする。	児童、保護者、教職員が共通理解できるように感染拡大予防ガイドラインを作成し、年間を通じて感染予防策を実施できるようにする。	4	全教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。		
					3	90%以上の教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。		
						2	80%以上の教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。	4
						1	80%未満の教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。	
			いじめの未然防止・早期発見・早期解決を行う。人権についての教育を推進する。	軽微ないじめを見逃さない情報共有の日常化と、組織的対応を行う。新型コロナウイルスに関する差別や偏見に対する理解教育を行う。	4	全教員が日常的に情報共有を行った。		
				3	90%以上の教員が日常的に情報共有を行った。	4		
				2	80%以上の教員が日常的に情報共有を行った。			
				1	80%未満の教員が日常的に情報共有を行った。			
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成を図る。	元気アップガイドブックの運動内容を参考にして、児童の体力向上を目指す。	休み時間や朝の時間を活用し、元気アップタイムを実施する。	4	全校児童が参加した。	4		
				3	90%以上の児童が参加した。			
				2	80%以上の児童が参加した。			
						1	70%以上の児童が参加した。	4
			元気アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用し、児童の健康意識を高める。	からだ力向上週間で、生活リズム記録と振り返りを行う。	4	全学級で記録と振り返りを行った。		
					3	90%以上の学級で記録と振り返りを行った。		
						2	80%以上の学級で記録と振り返りを行った。	4
						1	70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
			児童の危険を予測し、回避する能力を向上させる。	「安全教育プログラム」とワークシート等を活用した安全指導を行う。	4	全学級で指導・活用した。		
				3	90%以上の学級で指導・活用した。	4		
				2	80%以上の学級で指導・活用した。			
				1	80%未満の学級で指導・活用した。			
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感を持ち、積極的に他者と かかわろうとする児童の育成を図る。	学級活動や学校行事などに、自己のよさを発揮しながら積極的にかかわり、自己実現を図ろうとする態度を養う。	「特別活動大人の10の流儀」を意識し、児童が自主的に参画できるように行動する。	4	全教員が意識し、実践に生かした。	2		
				3	90%以上の教員が意識し、実践に生かした。			
				2	80%以上の教員が意識し、実践に生かした。			
						1	60%以上の教員が意識し、実践に生かした。	2
			従来と異なる状況下でも、知恵を出し、工夫しながら新たな行事を生み出し、児童に達成感や連帯感をもたせる。	感染症拡大防止策や昭島市の指針を念頭に置きつつ、子供たちが主体的に取り組めるステージフェスの計画を立て、実施する。	4	80%以上の児童が楽しく参加し、協力して取り組んだ。		
					3	70%以上の児童が楽しく参加し、協力して取り組んだ。		
						2	60%以上の児童が楽しく参加し、協力して取り組んだ。	3
						1	60%未満の児童が楽しく参加し、協力して取り組んだ。	
			学級活動や児童会・クラブ活動で、集団の一員として学級や学校をよくしようとする態度や自己有用感を高める。	学級活動や、児童会・クラブ活動の時間に、課題を解決するための話し合いの時間を設定する。	4	90%以上の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。		
				3	80%以上の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。	3		
				2	70%以上の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。			
				1	70%未満の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。			

年度末評価【総括表】

「だれもが笑顔になる学校」○ひとりぼっちにしない学校 ○未来に向かってチャレンジする学校 ○ともに学びを創造する学校
○自ら課題を見付け、論理的に解決する子 ○感性を働かせ、創造・表現する子 ○お互いを認め合い、助け合える子 ○すすんで人とつながる子 ○自ら体を整え、健全な生活を築く子
○子供第一主義で行動する教師 ○子供の「人間モデル」としての教師 ○指導力向上を目指し学び続ける教師 ○家庭や地域と連携できる教師 ○健康管理ができ、人間性豊かな教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 国語・算数の学力調査において4学年以上で前年度よりプラス	3	リモートによる授業参観を取り入れることで8回の研究授業を行うことができ、グループ毎に同じ授業者が2回行うことで変容が見えるようにした。また、個人で所属するグループを選択することで主体的に授業改善に取り組めた。	コロナ禍においても教員の工夫が見られて好感ももてる。	B	コロナ禍でも授業ができるようにリモート化をすすめていく。
3 国語・算数の学力調査において3学年以上で前年度よりプラス					
2 国語・算数の学力調査において2学年以上で前年度よりプラス					
1 国語・算数の学力調査において前年度よりプラスが1学年以下					
4 児童アンケート「進んで学習に取り組む」90%以上	3	コロナの感染状況によって学習活動が制限される場面が多かった分、タブレットの活用がすすんだ。さらに児童の主体性を促す活用方法を模索していく。	タブレットの活用に対して意欲的に取り組んでいる。	A	引き続き授業において、タブレットを積極的に活用していく。
3 児童アンケート「進んで学習に取り組む」80%以上					
2 児童アンケート「進んで学習に取り組む」70%以上					
1 児童アンケート「進んで学習に取り組む」70%未満					
4 児童アンケート「授業内容が分かる」90%以上	4	児童の評価は非常に高く、目標を達成できている。しかし、児童の意識と実際の学力には差があるのが現状である。この差を少しずつ埋めていきたい。評価についてもタブレットの活用が期待される。	児童自身が「できるようになった」と思えることは大切である。良かったと思う。	A	タブレットを効果的に活用し、視覚的な教材開発をすすめる。まとめるときにも積極的に活用し、効率よく
3 児童アンケート「授業内容が分かる」80%以上					
2 児童アンケート「授業内容が分かる」70%以上					
1 児童アンケート「授業内容が分かる」70%未満					
4 児童アンケート「自分からあいさつ」が80%以上	4	登下校の見守りをしてくださる方から、児童のあいさつ状況について良い評価をもらった。あいさつ運動については、コロナ禍の中で自粛した。会釈を含めた多様な挨拶の仕方があることも指導していく。	照れながらもあいさつをできる子が増えた。大人からも声掛けを続けていくことが大切であると感じる。	A	朝や帰りだけでなく、自然にあいさつができるように、日頃から声をかけていく。
3 児童アンケート「自分からあいさつ」が70%以上					
2 児童アンケート「自分からあいさつ」が60%以上					
1 児童アンケート「自分からあいさつ」が60%未満					
4 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が80%以上	4	ガイドラインの情報共有のため、児童への指導と教室掲示、保護者への配布を行った。コロナ感染が続く中で慣れから、予防策に対する取組態度が緩くなる傾向が見られたが、その都度ガイドラインの徹底を行った。	コロナの陽性者を知らせるメールは保護者に安心感を与えていると思う。続けてほしい。	A	その都度において、文書やメールのおいてお知らせし、できる範囲で共有し、コロナ不安をなくしていく。
3 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が70%以上					
2 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が60%以上					
1 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が60%未満					
4 児童アンケート「いじめは許さないこと」が90%以上	4	月に一度、各学級担任がいじめやいじめにつながるような児童の様子がなかったか報告するとともに、日常的にも情報共有を行った。学期に一度児童アンケートをとり、いじめ調査を行った。	いじめに対して迅速で丁寧な対応ができてきていると思う。	A	児童や保護者からの情報はすぐに対処し、必要な場合はいじめ対策委員会を開き、即時対応する。
3 児童アンケート「いじめは許さないこと」が80%以上					
2 児童アンケート「いじめは許さないこと」が70%以上					
1 児童アンケート「いじめは許さないこと」が70%未満					
4 体力テストの結果が4学年以上8項目中4項目で都平均以上	4	体力テストでは持久力や敏捷性、投力が平均を下回った。元気アップタイムの設定により、児童が様々な運動に慣れ親しむ機会を設けることができた。	元気アップタイムの実施はとても良いと思う。今後も継続していただきたい。	A	コロナ禍でもできることを模索し、実践にうつすことが必要である。重点目標をたて、体力の向上をめざす。
3 体力テストの結果が4学年以上8項目中3項目で都平均以上					
2 体力テストの結果が4学年以上8項目中2項目で都平均以上					
1 体力テストの結果8項目中1項目で都平均以上が4学年未満					
4 児童アンケート「健康について学び理解している」80%	4	生活リズムカードや年間を通してお便り等を活用し家庭との連携に取り組んだことで、休校明けや長期休業後も健康に対する意識が高まった。	児童にも体調管理に気を付ける意識付けができていて良い。	A	生活リズムカードは継続していく。
3 児童アンケート「健康について学び理解している」70%					
2 児童アンケート「健康について学び理解している」60%以上					
1 児童アンケート「健康について学び理解している」60%未満					
4 児童アンケート「安全を理解し生活」80%	4	月ごとの安全指導、様々な想定避難訓練などの実施により、危険予測・回避能力が高まった。	様々な場面を想定した避難訓練の実施はとても効果があると思う。	A	次年度もさまざまな場合を想定した避難訓練を行っていく。
3 児童アンケート「安全を理解し生活」70%					
2 児童アンケート「安全を理解し生活」60%以上					
1 児童アンケート「安全を理解し生活」60%未満					
4 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」90%以上	4	感染防止の観点から学級活動は期間が限られていたが、タブレット等を活用し密にならない工夫をすすんで行っていた。行事では盛り上がる工夫を高学年や実行委員から提案し、実行していた。	実行委員会制度が良かった。実行委員が前に立ち、映画の製作など大きな工夫があった。	A	次年度も子供たちが主体となり、充実感や満足感が味わえるような行事にしている。
3 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」80%以上					
2 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」70%以上					
1 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」70%未満					
4 児童アンケート「行事の満足度」80%以上	4	子供たちのやりたいことをベースに各学年の実態に応じて発表を行った。体育館の舞台上だけでなく、フロアの部分もステージにし、感染症対策を考慮しつつ会場内が一体感をもって鑑賞できた。	ステージフェスティバルにおいても舞台づくりに工夫があり、マスクを着けていても児童がのびのびと演じていて良かった。	A	子供たちが満足できる行事にするために、綿密な計画を作成し、プロジェクト内で議論し、早めに提案する。
3 児童アンケート「行事の満足度」70%以上					
2 児童アンケート「行事の満足度」60%以上					
1 児童アンケート「行事の満足度」60%未満					
4 児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」80%以上	4	活動計画や司会進行を事前に教員と打ち合わせることで、話し合いを通した課題解決や活動の合意形成ができた。	回数が限られた活動だったと思われるが、できる範囲で活動できていた。	A	子供たちが主体となった活動にするために、教員の分担を確実にし、誰もが子供たちの活動に対して指導できるようにする。
3 児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」70%以上					
2 児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」60%以上					
1 児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」60%未満					

学校教育目標	○ 健康な子 ○ 考える子 ◎ すすんでする子 ○ 協力する子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価				
確かな学力	授業改善を推進し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	新学習指導要領に沿った授業改善、評価の工夫、カリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> 評価を明確にした学習の展開 学習過程を意識した教材研究 授業から子供の学びへの変換 教科横断的、問題解決的な学習 個に応じた朝学習、家庭学習の充実 	4:5項目全て取り組むことができた。 3:4項目は取り組むことができた。 2:3項目は取り組むことができた。 1:2項目は取り組むことができた。	3				
		教育課題に対する積極的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 社会に開かれた教育課程の理解と実践 プログラミング教育への取組 ICTを活用した指導 読書活動の質の向上 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3				
		特別支援教育の視点を生かした環境整備の充実、個に応じた指導の授業改善の推進。	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会の内容の充実 特支教員との共同実践 ユニバーサルデザインを意識した学習環境整備や指導の徹底 個に応じた指導の充実 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3				
		豊かな心	計画的な道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成をめざす。	道徳授業の質の向上を図り、自分の考え方に気付き、互いに認め合う児童の育成をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のよさを認め、互いに必要とされる実感がもてる学級経営 価値を明確にした授業と児童の変容の見取り(評価の工夫) 年間計画の確実な実施 全教育活動に関連付けた指導 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3		
				いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気付き対応し、安心して通える学校をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育プログラムの活用 いじめ防止対策冊子の活用 生活指導夕会での情報共有と素早い対応、報道相の徹底 ふれあい・月間の児童の取組充実 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3		
				人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊感情や自己有用感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーによる学び 実践、体験的活動の充実 栽培体験活動の実施 縦割り班活動の充実 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3		
				健やかな体	計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成をめざす。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成に向けた取組に挑戦する。	<ul style="list-style-type: none"> グッドモーニング60分の取組 健康教育の充実 安全教育の確実な実施 食育に関する指導の充実 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3
						一人一人が体力向上を意識できる、体育学習の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> めあてが明確な学習の展開 体力運動能力調査の分析と、具体的な取り組みの推進 体育朝会の充実と授業で活用 元氣アップガイドブックの活用 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3
						オリンピック・パラリンピック教育を意図的、計画的に推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画の確実な実施 オリ・パラ読本、ビデオ教材の活用 チャレンジ、ルール尊重、フェアプレーの大切さを指導・実践 外部人材を招聘しての交流や講話や実技指導の取組 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3
輝く未来	幼・保・小・中の連携した教育の充実を図り、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成をめざす。					学級会活動をはじめ、全教育活動において、キャリア教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活への適応 仲間づくり、集団の結束 自らの役割の自覚 キャリアアルバムの活用 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3
						幼・保・小・中の連携について、効果的な方法を検討し実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の中学校区の計画的な交流活動 小中連携の具体的な方策の検討・実践 入学前の幼・保との交流活動 スタートカリキュラムの理解と推進 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3
						保護者・地域との連携を通して、様々な活動する大人から学び、将来への希望をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した活動の充実 学年だよりの充実(月2回発行) PTA活動への理解と協力、参加。 地域行事へ年1回参加 	4:4項目全て取り組むことができた。 3:3項目は取り組むことができた。 2:2項目は取り組むことができた。 1:1項目しか取り組めなかった。	3

年度末評価【総括表】

- 生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○ 安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○ 働きがいのある学校(教職員にとって)
- 心身ともに健康な子 ○ 主体的・対話的で深い学びのできる子 ○ 互いに認め合い高め合う子
- 教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策				
4 90%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答	4	「進んで取り組んでいる」と答えている児童は90.4%で、主体的に学習に取り組んでいることが分かる。教師の取組は3.2で、意欲的に取り組んでいることが分かる。5項目全てを十分にに取り組んでいるという自信がある。実践を積み重ねたり、指導を継続したりする必要はある。	・コロナ禍での児童の回答を見ると、学力向上の傾向にとらえられ、教員の毎向きな努力が伝わる。 ・自分たちが考えて学べるような仕組みを強化してほしい。 ・もう少し保護者や学校評議員にもわかりやすくアウトプットしてほしい。	B	・授業から子供の学びへの変換が更に進むように、問題解決的な学習を更に拡大するとともに、ゴールを明確にして指導に取り組むように研究を深めていく。				
3 80%～90%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答		4	・児童は「タブレットを活用した」実感ももっている。読書の活動については、市のアンケートでも十分とはいえない。教師は、タブレットの使い方や、授業に活かす方法を研修し、積極的に活用するよう取り組んでいる。社会に開かれた教育課程については、研究を通して取り組んでいる。		・プログラミングのレベルが低い。 ・今後の社会に影響のある課題と思う。いっそうの取り組みを期待する。 ・タブレット家庭内のルールが活かされることが大切。 ・補習教室、図書室解放努力を評価。	B	・身近なことや、地域のことについて学ぶ課題を更に拡大し、光華小らしい学習づくりに取り組む。また、学年に応じたクロームブックの効果的な活用について検討し、取り組む。		
2 70%～80%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答			3		・「授業がわかりやすい」と答えている児童は、89.5%である。教師も、個に応じた指導を心がけたり、支援が必要な児童に対するの対応をチームで検討したりしながら取り組んでいる。		・先生の努力が分かる。 ・学力調査結果改善、個に応じた指導等、今後に期待。 ・専門のサポーターを作って担任の先生をもっと教材研究に集中できるように業務軽減してほしい。	B	・個別最適な学びと、協同的な学びについて教師の理解を深め、指導の個別化や学びの個性化を意識して、一人一人が主体的に学べる学習方法や環境の整備に努める。
1 70%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答					4		・「友達を大切にしている」と感じている児童は、95.2%である。教師も年に1回の道徳の授業研修を通して、効果的な指導を行えるようになっていこうと考えられる。		・児童の受け止め満足度が高い。 ・豊かな心の育成、異なる意見の受け止め、判断する力は基本。いっそうの努力を期待。 ・ひとりひとりの自己肯定感を高める工夫がほしい。
4 90%以上の児童が判断できた	4			・「良い」と悪いを判断できると感じている児童は、97.4%である。教師は、人権教育プログラムやいじめ防止対策の冊子を基に、具体的な対応を行っている。また、年3回のふれあい月間では、児童がお互い気持ちよく過ごせるよう、エチケットとマナーの取組を行った。			・人権教育、いじめ防止としてのLGBTQ教育の実施を期待する。 ・豊かになり防止対策、アンケート、ふれあい月間の内容が活かされることが大切。 ・コンパニオンを扱うことで他者の立場で物事を感じたり、考えたりできなくなる。エチケットとマナーよりも人権教育を重視する。		A
3 85%～90%未満の児童が判断できた		4		・「縦割り班活動や栽培活動、見学の学習は楽しかった」と感じている児童は、95.9%である。コロナウイルス感染防止のため、外部とのかわり方ができなかったが、10月以降ゲストティーチャーをお招きした学習を、各学年で行うことができた。3年生では、総合学習の時間で、学校園を素敵な場所にすることを課題に取り組んだ。		・コロナ禍での創意工夫で、児童が高評価を付けている。今後も更に活かしてほしい。 ・楽しそうにトマトを育てている。先生の指導法まで話してくれる。 ・もう少し子どもたちが楽しめる本物の経験をさせてあげたかった。	A		
2 80%～85%未満の児童が判断できた			3	・「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」と感じている児童は、82.0%だった。年3回のグッドモーニング60分の取り組みも定着し始め、効果が出てきている。コロナウイルス感染防止の指導も、徹底している。食育に関しては、3年生で市栄養士を招いた授業を行った。		・グッドモーニングの取り組みの定着を評価。一層の充実を望む。 ・屋外活動の減少や運動不足による心身の成長に与える影響が心配。 ・免疫力を高めたため学びについて、食育とつなげて実施してほしい。		B	
1 80%未満の児童が判断できた				2	・「学校で、遊んだり体を動かしたりしている」と感じている児童は、73.7%と、1学期より数値が落ちた。9月の感染拡大により、外遊びが少なくなったことも影響していると考えられる。体育朝会は1階モードで行い、運動のポイントを伝える工夫をした。12月からは、放課後元気アップタイムも再開し、児童が楽しそうに参加している姿が見られた。	・水泳指導、運動会実施、マラソン週間実施できてよかった。体力調査変化無は評価。 ・教職員が子供たちと一緒に遊ぶことが出来る時間はあるのか？ ・放課後元気アップの取り組みは非常に良いと思ったが、中止も多く、残念だった。			
4 90%以上の児童がオリパラで学ぶことがあった	3				・「オリパラにかかわる学習で学ぶことがあった」と感じている児童は、89.1%であった。コロナ禍でのオリンピック開催であったが、4年生では、走り方教室を開催したり、6年生では、毎日オリンピックの新聞記事を紹介したり各学年で学習と関係付けて取組んだ成果が現れたと考えられる。	・オリンピック関係で各学年の学習への取り組みで、挑戦する姿から人間の成長を学ぶ機会になったことを評価。多方面の展開を期待する。 ・パラリンピックを機にインクルーシブな競技を経験し、社会の様々な人々について学ぶことが出来ていた。			B
3 85%～90%未満の児童が生活振り返り、よりよくしよう		3			・「自分の生活を振り返り、よりよくしよう」と感じている児童は、84.2%だった。昭島市が作成したキャリアアルバムを活用して、学期はじめに目標を立て、学期末に振り返りを行い、頑張ったこと、できるようになったこと、力を伸ばしたいことを確かめ、学校生活に夢・希望をもてるよう指導を行った。	・振り返りをしている児童が多い。キャリアアルバムの効果から、教員の指導を評価。 ・保護者にはこのキャリアアルバムについてどのような取組なのか説明してほしいと思う。	B		
2 80%～85%未満の児童が生活振り返り、よりよくしよう			3		・「自分の得意なこと、自分に向いていることについて考えることがあります」と感じている児童は、80.7%だった。自己肯定感を感している児童が増えている。1年生の入学当初、スタートカリキュラムに力を入れたことで、1年生の学校への適応がスムーズだったと感じている。	・自己肯定感を感している児童の割合から、結果はよくなる。 ・社会教育の和議の教室を紹介した。本人が喜んで参加した。 ・スタートカリキュラムの実施は今年からのことだが、比較的成功していると思う。		B	
1 75%未満の児童が生活振り返り、よりよくしよう				3	・「地域の方々とふれあってきた」と感じている児童は、89.6%だった。コロナ禍にあっても、外部講師との交流や、地域探検、社会科見学が行えたため、数値が高まったと考えられる。PTAから紹介していただいた、性教育や環境活動についての学習が効果的だった。	・自治会行事が出来ない中、PTAとの連携で、交通安全、ハトロール等へのボランティア活動の参加について高く評価。 ・保護者が出るお手伝いについて学校と協力して行っていく。図書ボランティア等コロナ禍で出来ていない活動をぜひとも再開してほしい。			

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	主体的・意欲的に学び、基礎的な知識及び技能を確実に習得させる。	個々の学習状況を正しく把握し、読む・書く・計算する力を身に付けさせる。	週3回の朝学習、週2回の個別指導タイムを実施する。	4 全12学級でどちらも実施した。 3 11学級でどちらも実施した。 2 8学級以上でどちらも実施した。 1 8学級未満しか実施できなかった。	4
		家庭学習を充実させ、復習すること習慣付ける。	家庭学習チェック表を活用し、学びの習慣化と質の向上を図る。	4 家庭学習チェックを全12学級で実施した。 3 家庭学習チェックを11学級で実施した。 2 家庭学習チェックを10学級で実施した。 1 家庭学習チェックを9学級以下で実施した。	4
		特別支援教育を充実させ、どの子にも分かりやすい授業を実践する。	市のユニバーサルデザイン(UD)の冊子を活用し、適切な環境づくりをする。	4 全教室で冊子のUDチェックを年11回以上実施した。 3 全教室で冊子のUDチェックを年10回以上実施した。 2 全教室で冊子のUDチェックを年9回以上実施した。 1 全教室で冊子のUDチェックを年8回以上実施した。	3
豊かな心	人権意識を高め、自他を尊重する態度を育てるとともに、集団の一員である自覚と規範意識を育む。	児童の道徳的実践力を高める。	道徳科の特質に即した授業を行うとともに、全教育活動を通して道徳教育を推進する。	4 道徳科の特質に即した授業を全12学級で実施した。 3 道徳科の特質に即した授業を全11学級で実施した。 2 道徳科の特質に即した授業を全10学級で実施した。 1 道徳科の特質に即した授業を全9学級で実施した。	4
		家庭と連携した道徳教育を推進する。	8月を除く毎月、都道徳教材集を持ち帰らせ、家庭との情報ツールとして活用する。	4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4
		教員の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	人権教育プログラムを活用して人権感覚チェックを年3回以上実施する。	4 年3回以上実施した。 3 年2回実施した。 2 年1回実施した。 1 実施できなかった。	4
健やかな体	日常的な運動を通して体力を向上させるとともに、健康で安全な生活のために必要な生活習慣や食習慣を身に付けさせる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用して体力向上のための体育的な活動を行う。	4 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価7割未満。	3
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	元気アップガイドブックを活用して健康教育を推進する。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。 3 健康教育の授業を年2回実施した。 2 健康教育の授業を年1回実施した。 1 健康教育の授業を実施できなかった。	4
		健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	望ましい食習慣を身に付けるための給食やお弁当(食育)の日の指導を推進する。	4 食育の指導を毎学期・年3回以上実施した。 3 食育の指導を年2回実施した。 2 食育の指導を年1回実施した。 1 食育の指導を実施できなかった。	4
輝く未来	地域・家庭との信頼関係を構築するとともに、児童の豊かな人間性や人間関係調整力を高める教育活動を推進する。	学校からの情報発信を積極的に行う。	学校便りの発行を月1回以上、HPの更新を月3回以上行って情報発信を行う。	4 8月を除く11ヶ月で実施できた。 3 8月を除く10ヶ月で実施できた。 2 8月を除く9ヶ月で実施できた。 1 8月を除く8ヶ月で実施できた。	3
		外部人材を活用した学習活動を計画的に行う。	地域の特色を生かしたゲストティーチャー(GT)を積極的に招聘する。	4 年2回以上GTを全12学級が招聘した。 3 年2回以上GTを11学級が招聘した。 2 年2回以上GTを10学級が招聘した。 1 年2回以上GTを9学級以下で招聘した。	2
		集団の中での自分の役割を理解し、すすんで行動する力を育む。	リーダーシップやフォロワーシップについて理解させ、すすんで実践する児童を育てる。	4 集団の中での役割についての指導を全教員が行った。 3 集団の中での役割についての指導を8割の教員が行った。 2 集団の中での役割についての指導を7割の教員が行った。 1 集団の中での役割についての指導を7割未満の教員が行った。	4

年度末評価【総括表】

笑顔と信頼あふれる魅力あるSEIRIN小学校 (Smile:笑顔,Energy:元気,Idea:発想,Reliance:信頼,Improve:改善,New:新鮮・進取)
けやきのき【 け:健康な子 や:優しい子 き:勤勉な子 の:伸びゆく子 き:煌めく子 】
○当たり前のことを当たり前に行き生き生きと仕事ができる教師 ○個々の個性や専門性を発揮し、組織的に教育活動を展開できる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国平均以上	3	コロナ禍の中で、学力向上を図る取組に教員も高い意識をもち、できる限り取り組むことができた。	タブレット導入による個の資質能力の向上を期待している。	A	朝学習の取組の質の向上と適切な個別指導の推進を図る。
3 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-5pt以上					
2 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-8pt以上					
1 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-8pt未満					
4 家庭学習に9割以上が取り組んだ。	4	家庭学習の取組は十分に定着している。個に応じた課題設定にも取り組んでいる。	個に応じた達成感・成就感を味わわせて欲しい。	A	今後も学級全体への課題、個に応じた課題、自主的な学習を効果的に実施する。
3 家庭学習に8割以上9割未満が取り組んだ。					
2 家庭学習に7割以上8割未満が取り組んだ。					
1 家庭学習に6割以上7割未満が取り組んだ。					
4 児童評価で「授業が分かりやすい」92%以上	3	UDチェックについては、教員が主体的に確認し実践できる集団へと高めていきたい。	要支援児童が増加しているが、丁寧に指導していただいている。	B	教員のUDへの意識をさらに高めて、より分かりやすい授業を実践していく。
3 児童評価で「授業が分かりやすい」75%以上92%未満					
2 児童評価で「授業が分かりやすい」55%以上75%未満					
1 児童評価で「授業が分かりやすい」55%未満					
4 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。	3	9割未満であったが、学校全体としては高まりが見られた。次年度は9割超を目指す。	道徳科の推進は児童の将来に有益である。	A	特質に即した道徳科の授業と全教育活動を通じた道徳教育を推進する。
3 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。					
2 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。					
1 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。					
4 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価9割以上。	3	都教材集を保護者との情報ツールとして活用し、児童を多角的に褒めることができた。	更なる家庭との連携推進をお願いしたい	A	研究協力校の成果を生かして、自己肯定感を高める授業を実践する。
3 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価8割以上。					
2 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。					
1 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割未満。					
4 児童による評価で「相談できる先生がいる」90%以上	4	より信頼を得るため、教師自身の人権感覚を磨くことが重要である。	先生が児童の目標・憧れになって欲しい。	A	全教員が「待つ・聴く・受け止める」ことを心がけ徹底する。
3 児童による評価で「相談できる先生がいる」75%以上90%未満					
2 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%以上75%未満					
1 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%未満					
4 体力調査のA、B判定の児童が6割以上。	2	児童の体力(特に筋力・持久力)の低下が見られた。	元気な体が基盤となり様々な学びができる。	B	元気アップ(体力向上)の取組を継続し、児童の体力向上と低下防止に努める。
3 体力調査のA、B判定の児童が5割以上。					
2 体力調査のA、B判定の児童が4割以上。					
1 体力調査のA、B判定の児童が4割未満。					
4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。	3	グッドモーニング(GM)60分は発達段階による差が見られ、高学年にとっては9割以上は難しくなっている。	GM60分の継続と同時に挨拶の推進を図って欲しい。	A	家庭との連携を強めながら、今後もGM60分を推進する。
3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満					
2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満					
1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満					
4 食育の目標を達成した児童が9割以上。	3	食育リーダーを中心に、計画的に実施することができた。	学校で食について考え、学ぶことは意義がある。	A	家庭との連携を強めながら、今後も食育を推進する。
3 食育の目標を達成した児童が8割以上。					
2 食育の目標を達成した児童が7割以上。					
1 食育の目標を達成した児童が7割未満。					
4 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価9割以上。	3	来校機会が減り、通信が貴重な情報ツールとなった。HPについても更新回数も増加できた。	家庭との連携の基盤なので今後もよろしく願いたい。	A	ウィズコロナの今、通信やHPを情報発信の重要ツールと捉えて充実を図る。
3 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価8割以上。					
2 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価7割以上。					
1 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価7割未満。					
4 児童アンケート「GTとの学習がためになった」の肯定的評価9割以上。	3	コロナ禍ではあるが、可能な限りGTを招聘することができた。	コロナ禍でGTから学べることは貴重なこと。	B	感染防止を徹底しながら、可能な限りGTを招聘した授業を実施する。
3 児童アンケート「GTとの学習がためになった」の肯定的評価8割以上。					
2 児童アンケート「GTとの学習がためになった」の肯定的評価7割以上。					
1 児童アンケート「GTとの学習がためになった」の肯定的評価7割未満。					
4 児童アンケート「意欲的に活動できた」の肯定的評価9割以上。	3	高学年のリーダーシップ、フォローシップに高まりが見られた。	高学年が良いので、学校全体が落ち着いていると感じる。	A	感染防止を徹底し、高学年のリーダーシップ・フォローシップを醸成する。
3 児童アンケート「意欲的に活動できた」の肯定的評価8割以上。					
2 児童アンケート「意欲的に活動できた」の肯定的評価7割以上。					
1 児童アンケート「意欲的に活動できた」の肯定的評価7割未満。					

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考える子 思いやりのある子 たくましい子 	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本を大切に、分ける授業の実践に努める。(休校時の学習内容の定着・授業改善・学習指導要領の完全実施)	読み書き、四則計算の力を定着させる。	授業、ベーシックドリル、eラーニング、日常の小テスト、力試し、補教教室宿題、家庭学習、ラボ等	4 漢字、計算の定着を90%以上図った。	3
			3 漢字、計算の定着を80%以上図った。		
		朝読書、読書仲間等で意欲を高め、学年相応の読書をさせる。	月曜日、金曜日の朝読書、図書館利用、図書の貸し出し活用、読み聞かせ、昭島エンジンの勧め	2 漢字、計算の定着を70%以上図った。	2
			1 漢字、計算の定着を70%未満。		
		学年相当の時間(学年×10分)に基づいた家庭学習を推進させる。	自己の課題克服 グットライフ調査 宿題+自学自習	4 読書計画に基づいての実施率100%	2
			3 読書計画に基づいての実施率90%		
豊かな心	生命を尊重し互いに認め合える、豊かな心を育てる。	様々な体験を通して、心の交流を(児童・教師)図る。	縦割り班活動 奉仕御活動 栽培 通常の活動、人権の花の学級と固定学級	4 児童の積極的参加を100%にする。	3
			3 児童の積極的参加を90%にする。		
			2 児童の積極的参加を80%にする。		
		教室・学習環境を見直して、すべての児童にやさしい学校・学級にする。	児童理解に努め、個に応じた指導を進める。	1 児童の積極的参加を70%にする。	3
			4 市UDチェック④項目できている。		
			3 市UDチェック③項目できている。		
学校生活をより楽しいものにする。	授業、特別活動、交友関係の充実	2 市UDチェック⑦項目できている。	3		
	1 市UDチェック⑦項目未満できている。				
	4 楽しくする工夫をしているか95%以上				
健やかな体	丈夫な体とたくましい心を育てる。	児童の基礎体力の向上を図る。	元気アップガイドや学習カードを活用して、運動の学び方を身につけて体力をつける。	3 楽しくする工夫をしているか90%以上	2
			2 元気アップガイドの活用週2回以上		
		健康教育、食に関する指導を推進する。	担任の声かけ 視覚的な掲示 食のパラ SNS意識 残さいのおにぎり換算	1 元気アップガイドの活用週2回未満	3
			4 週のうち完食が4回		
			3 週のうち完食が3回		
		自分の命は自分で守る。	手洗い、うがい、咳エチケット、体温三密 等	2 週のうち完食が2回	4
1 週のうち完食が1回					
4 通年での新生活様式の確立					
輝く未来	自分の将来を見つめ、自らの生き方を考える力を育てる。	将来の夢を児童にもたせる。	職場体験 マイキャリアパスポート 家族の職業について理解を深めさせる	3 校庭での遊びでの配慮	2
			2 生き方について考える機会を与えた63%~70%		
			1 生き方について考える機会を与えた62%以下		
		基本的な生活習慣の確立を図る。(今やるべきことの確認)	早寝、早起き、朝ごはん	4 90%以上の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	4
			3 86%~90%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした		
			2 71%~85%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした		
1 70%以下の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした					

年度末評価【総括表】

・児童が願いをもって、生き生きと学習し、思いやりの心をもって明るく活動し、健康や安全に気を付けて力一杯運動している学校
・伝え合い・学び合い・高め合う児童
・教育公務員として自覚をもち、協働体制を確立し、教育活動を推進する教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 全国学力 2教科平均 -0.85 3 全国学力 2教科平均 -1.85 2 全国学力 2教科平均 -2.85 1 全国学力 2教科平均 -2.85未満	2	都の意識調査では学習意欲の高い学年とそうでない学年があった。	意欲をもたせることは、学校だけでなく社会生活の中でも大切である。さらなる授業改善を期待する。	B	単元導入時に工夫を図って、興味・関心をもたせて学習意欲の継続に繋げていく。
4 目標冊数・ページ数の達成率95%以上 3 目標冊数・ページ数の達成率87%以上 2 目標冊数・ページ数の達成率80%以上 1 目標冊数・ページ数の達成率80%未満	4	推薦図書を選んだことにより児童の読む意欲が向上した。	借りた本を手提げに入れて、下校する児童を見る。家庭の協力も大切である。	A	学校内では読書をする。家庭との連携を図り、自ら読書をする児童を育てていく。
4 授業は分かりやすい99%以上 3 授業は分かりやすい98%以上 2 授業は分かりやすい97% 1 授業は分かりやすい97%未満	4	「授業は分かりやすい」と感じている児童は99.5%と多い。	先生方の努力が数字に表れている。今後も丁寧な指導をお願いしたい。	A	「分かりやすい」＝「理解」＝「定着」となるように繰り返し、復習に力を入れていく。
4 相談できる先生がいる100% 3 相談できる先生がいる95%以上 2 相談できる先生がいる94% 1 相談できる先生がいる94%未満	2	相談できる大人がいるが92.9%であった。相談できる先生→相談できる大人に変更したため	親に相談することは、経験上あまりなかった。周りの大人もしっかりと支えていくことが大事である。	B	交流→信頼関係→相談となるように、日常の声かけをして大人に相談できる体制を整備する。
4 落ち着いて生活できている96%～100% 3 落ち着いて生活できている91%～95% 2 落ち着いて生活できている90% 1 落ち着いて生活できている90%未満	2	知的固定学級との交流もあり職員のユニバーサルデザインへの意識は高まっている。	小規模校のメリットでアットホームな雰囲気を感じる。共生社会への意識は無意識の中で培ってほしい。	B	学習が分かる＝充実感＝心の安定＝良好な人間関係を築くために、学習指導力の向上を図る。
4 学校生活は楽しい96%以上 3 学校生活は楽しい91%～95% 2 学校生活は楽しい90% 1 学校生活は楽しい90%未満	3	コロナ渦での教育活動への工夫とともに、学校でみんなと学習できる喜びを感じている。	学校を楽しんでいるのが一番である。先生方の工夫、努力を感じる。	A	小規模校ならではのアットホームな活動、雰囲気を通して、居心地のよい環境をつくり続けていく。
4 体力が付いてきている95%以上 3 体力が付いてきている91%～94% 2 体力が付いてきている90% 1 体力が付いてきている90%未満	2	教育活動に制限がある中で体力は、昨年度に近い状態で維持することができた。	団地周りで体を動かして楽しく遊んでいる姿をよく見る。密を避けての運動をどんどん実施してほしい。	B	「心身共に健康」ということを振り返りを通して、意識付けをしていく。(マイキャリアパスポート等を通して)
4 給食残さい率2.1% 3 給食残さい率2.2% 2 給食残さい率2.3% 1 給食残さい率2.3%未満	4	残さいが2.1%以下ということは、毎日400食近い給食の提供で2kg～3kgの食べ残しである。	「もったいない」という意識は重要である。食をもとにいろいろなことに目を向けて、SDGSに繋げることを期待する。	A	季節、献立、学年、学級によって、残さいの差がなくなるようおかわりのしやすい雰囲気づくりをしていく。
4 保健室けが病気来室割合1.9%以下 3 保健室けが病気来室割合2.5%～2% 2 保健室けが病気来室割合2.6% 1 保健室けが病気来室割合2.6%未満	3	病気等の予防対策として手洗い・うがい・マスクの効果は、とても大きいことを改めて認識した。	マスクをしっかりとしている姿を見かける。習慣化していることがわかる。	A	学習と同様に予防の基礎・基本を今後も徹底していく。そのためにも家庭との連携を図る。
4 将来について考えることがある93%以上 3 将来について考えることがある89%以上 2 将来について考えることがある88% 1 将来について考えることがある88%未満	2	社会状況から将来について考える児童が85%以上になってきた。コロナ渦前より増加した。	職場体験や地域行事ができなかったことは残念であった。早く通常に戻ってほしい。	B	地域社会と関わる機会を例年通りに設定し、感染防止を図り、実施できるよう工夫する。
4 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた96%～100% 3 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた91%～95% 2 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた84%～90% 1 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた84%未満	3	元気アップガイドを活用し、特にグッドモーニング60分を通して家庭の協力も得ることができた。	田中地域は、地域や学校に協力的な家庭が多い。これからもみんなで力を合わせていきたい。	A	生活習慣が確立されている児童は、学校生活でも良好傾向である研究結果をさらに進める。

学校教育目標	◎よく考え <平成31年度～令和3年度重点目標> ○やさしく ○つよく 手をつなぐ 拝島の子供	【目指す学校像】
		【目指す児童像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	
確かな学力	《V1》 学校体として、 組織的・計画的に、 確かな学力を育みます	M1:学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタンダードの徹底	4 全ての教職員が、週の指導計画に内容を明記した	4	
			②朝学習の充実(週4回)	3 9割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した		
			③ICT機器の活用(日1回)	2 8割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した		
			④補習活動の充実(土曜+平日)	1 7割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した		
		M2:生きる力に係る児童の資質・能力の育成について指導法の研究を進めます。	①校内研究会(年間7回)	4 教職員全員が、主題にかかわる授業研究を行った	4	
			②授業実践研究(全員授業)	3 9割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った		
			③研究の発表・報告(紙上)	2 8割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った		
		M3:ICT機器やデジタル教科書、思考ツールを活用した学習を進めます。	①週の指導計画確認(37回)	4 全ての教職員が、年間指導計画に基づく指導を行った。	4	
			②授業観察・指導(年2回)	3 9割の教職員が、年間指導計画に基づく指導を行った		
③OJT研修(年間8回)	2 8割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った					
	1 7割の教職員が、年間指導計画に基づく指導を行った					
豊かな心	《V2》 学校体として、 組織的・計画的に、 豊かな心を醸成します	M4:いじめや不登校の未然防止の指導と即時対応の体制を整えその徹底を図ります。	①「生活のきまり」の徹底(言葉遣い・時間厳守)	4 全ての教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った	3	
			②いじめ対策PTの活用	3 9割の教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った		
			③いじめガイドラインの見直し	2 8割の教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った		
		M5:道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみ、地域ぐるみの道徳教育を進めます。	①道徳授業地区公開週間(年1回・平日公開)	4 全ての教職員が、道徳の時間の指導を改善した	3	
			②評価に関わるOJT研修(1回)	3 9割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した		
			③保護者への啓発(年3回)	2 8割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した		
	M6:全学年で飼育・栽培活動に取り組み、生命尊重や思いやりに関わる実践を進めます。	①「心に飾る花いっぱい活動」(年2回・委員会)	4 全ての教職員が、保護者への啓発活動を行った	3		
		②稲作体験開始(5年生)	3 9割の教職員が、保護者への啓発活動を行った			
		③保護者による環境整備(PTA活動として)	2 8割の教職員が、保護者への啓発活動を行った			
	健やかな体	《V3》 学校体として、 組織的・計画的に、 健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	M7:運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂)	4 体育科や運動の全ての時間で補強運動を行った	2
				②補強運動の導入(毎時)	3 体育科や運動の9割の授業で補強運動を行った	
				③運動週間(年3回)	2 体育科や運動の8割の授業で補強運動を行った	
				1 体育科や運動の6割の授業で補強運動を行った		
M8:保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。			①保健指導計画改訂(2月)	4 全ての教職員が、保健指導を計画的に行った	3	
			②家庭への啓発活動→学校・学年・保健通信(毎月)	3 9割の教職員が、保健指導を計画的に行った		
			③学校保健委員会(年1回)	2 8割の教職員が、保健指導を計画的に行った		
M9:安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。			①安全教育全体計画改訂	4 全ての教職員が、安全指導を計画的に行った	3	
			②避難訓練の改善(11回)	3 9割の教職員が、安全指導を計画的に行った		
	③安全指導の充実(11回)	2 8割の教職員が、安全指導を計画的に行った				
輝く未来	《V4》 学校体として、 組織的・計画的に、 将来を見つめ社会を担う力を育てます	M10:話し合い活動や集団行動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①集団行動訓練(4・5月)	4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った	3	
			②学級会活動(年9回以上)	3 9割の教職員が、学級会活動を10回以上行った		
			③SDGsに係る探究活動のカリキュラム化(総合的な学習の時間等)	2 8割の教職員が、学級会活動を10回以上行った		
				1 7割の教職員が、学級会活動を7回以上行った		
		M11:ハイパーQUやプログラムアドベンチャー(PA)、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	①ハイパーQUの活用(2回)	4 全ての学級担任が、PAを7回以上行った	2	
			②PAの活用(年3回以上)	3 9割の学級担任が、PAを7回以上行った		
			③SCの全員面談(高学年)	2 8割の学級担任が、PAを7回以上行った		
		M12:自然環境や社会環境、人と関わる体験活動を充実させ積極的に自己表現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	①校外学習の全面見直し	4 全ての教職員が、外部教育力を3回以上活用した	4	
			②外部教育力の積極的な活用と授業の改善(3回)	3 9割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した		
③宿泊行事の充実(高学年)	2 8割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した					
	1 7割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した					

年度末評価【総括表】

「実」のある学校体…「誠実に、着実に、確実な教育を進める」…○子供にとって安全・安心な学校 ○教職員が互いに高め合う学校 ○保護者や地域とともに子供を育む学校
「あい」のある子供…○学び合う子供 ○思い合う子供 ○鍛え合う子供 ○繋ぎ合う子供
「i」のある教職員…○imagination(戦略的想像力) & innovation(革新性) & identity(共同体意識) のある教職員

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学力調査平均正答率が、全国比3P ↑	1	学習スタンダードの定着は9割以上の学級で達成。朝学習の系統化が進んできたが、学年学級差が依然として見受けられる。	家庭学習の定着については、家庭の協力に係るところが大きく、引き続き家庭へのはたらきかけを続けていってほしい。	C	学力向上プロジェクトチーム(PT)を中心に、「学力向上中期プラン」を策定し、4月より運用を開始する。(教務部・学力PT)
3 学力調査平均正答率が、全国比2P ↑					
2 学力調査平均正答率が、全国比1P ↑					
1 学力調査平均正答率が、全国比改善なし					
4 学力調査平均正答率が、全国比3P ↑	1	児童の脂質・能力を育むICTを活用した指導法の工夫について研究に取り組んだ。全教職員が2回以上授業研究を行った。	教職員が新型コロナ感染症の感染予防対策と同時に、子供の学びを止めないことや指導力の向上することに精進を続ける、その姿勢に敬意を表する。	B	児童の「資質・能力の育成に関する指導法の工夫」について研究を進める。ICTの活用は、指導法改善の手立ての一つとする。(研究・研修部)
3 学力調査平均正答率が、全国比2P ↑					
2 学力調査平均正答率が、全国比1P ↑					
1 学力調査平均正答率が、全国比内前なし					
4 学力調査平均正答率が、全国比3P ↑	1	タブレットを児童の学習ツールとしての活用する方法について、全教職員で共通理解した。オンライン授業は全学級で実施している。	タブレットを活用した学習については、今後も推進していただきたい。児童のリテラシーを組織的、計画的に育んでいってほしい。	B	東京都の「人材育成プラン」に基づき、主幹・主任教諭を中心に、教職員のOJTを進める。キャリア形成についても計画的に行う。(研究・研修部)
3 学力調査平均正答率が、全国比2P ↑					
2 学力調査平均正答率が、全国比1P ↑					
1 学力調査平均正答率が、全国比改善なし					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	2	生活スタンダードの定着は9割以上である。重点項目「挨拶をする」は全児童が達成した。いじめの予防指導は課題である。	不登校児童の数は決して少なくはないが、学校が継続的に連絡を取っている姿勢は良い。オンラインによる授業サポートも、継続していくとよい。	B	「いじめに関する指導」の全体計画及び規範順守の徹底については重点的に指導を進めていく。校内いじめ対策会議の活用を図る。(生活指導部)
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数改善なし					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	2	道徳授業地区公開講座は、授業実践を行ったが、書面公開となった。6年総合の「輝く未来」では、生き方に関する学習を深めることができた。	児童がよく挨拶する姿を見かける。学校の取組みに感謝したい。規範意識は、保護者をはじめ大人の責任が大きい。啓発を続けていただきたい。	B	学校からの「情報発信に関する年間計画」を策定し、4月より計画的に情報提供と啓発を進めていく。(教務部広報担当)
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数改善なし					
4 児童・保護者の学校評価関連項目の指数の3P改善	1	1年間に渡り花が絶えない学習環境の整備を進めた。児童のより積極的な活動を促していく。5年総合「米作り」は、地域と連携して新単元を開発した。	感染対策が続く中で、児童の様々な体験の機会が制限されている。体力と同様に、学校教育の中で体験活動を大切にしていきたい。	C	人権教育に関する「中期計画、年間指導計画」の見直しを行い、形成的な検証と評価、改善を進める。(生活指導部人権担当)
3 児童・保護者の学校評価関連項目の指数の2P改善					
2 児童・保護者の学校評価の関連項目の1P改善					
1 児童・保護者の学校評価関連項目の改善なし					
4 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	1	杯一ピックや持久走間、縄跳び月間等の基礎体力、運動能力の向上を図る取組を進めた。学級による取組の差が大きい。	子供の体力が低下していることについては懸念している。体力とともに運動に親しもうとする態度意欲を、ぜひ学校教育で育んでいただきたい。	C	「授業改善プラン」に基づき、体育科の指導法改善及び体育的活動の見直しを進める。(体育的活動担当・学力PT)
3 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
2 5割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
1 4割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
4 8割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	1	新型コロナウイルス感染症の予防指導や、生活リズムの習慣化等の情報発信を定期的に行ってきた。	ゲームやスマホの依存について、ノーメディア・デーなど学校の取組みをありがたく思う。ファミリールールなど家庭の取組みが課題である。	B	家庭との連携を図り生活リズムの確立に関する新たな取組を進め、同時に啓発活動を強化していく。(保健安全部)
3 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
2 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
1 5割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P	1	日常生活や災害時の自助・共助に関する指導を計画的に実施した。学校や家庭における安全指導をさらに進める必要がある。	自助だけではなく共助の力を、学校が計画的に指導していることはとてもよい。災害をはじめ多様な危機回避、危機管理の術を身に付けさせてほしい。	B	「安全教育全体指導計画」を見直し、特別活動学級指導・学校行事との関連を明確にし、より実践的な資質や能力を養う。(保健安全部・特別活動部)
3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし					
4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する	3	SDGsに係る総合的な学習のカリキュラム開発を進めた。地域の協力を得て、5年の稲作体験活動を取り入れた単元開発を行った。	SDGsの視点から教育活動を再構成することは今日的な課題で重要である。5年の稲作が新たに開始されたことは、とても意義深い。	B	「学級活動年間指導計画」の改定を行う。学級活動の指導法に関する研修を実施し、教職員の指導力を向上させたい。(特別活動部)
3 8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
2 児童間のトラブルの出現が減少した学年が6割以下					
1 児童間のトラブルの出現が減少した学年が4割以下					
4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P	2	ハイパーQUの活用に関する項目を学級経営案、教科経営案に設定し、個や集団の育成に関する教職員の意識化を図った。	児童の心の問題について、学校は丁寧に対応して欲しい。長引く感染対策の中で、一人苦しんでいる児童もいると思われる。	C	「不登校の対応マニュアル」を見直し、組織的・計画的な実践を強化する。その際、SCやSSWの活用方法も明確に位置付ける。(生活指導部・SC)
3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし					
4 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P	2	感染症対策により、学校行事の実施については柔軟に対応せざるを得なかった。外部教育力についてはその活用が進んだ。	子ども会活動を取りやめる自治会が続出している。既存の健全育成の活動が難しくなっている。新たな枠組みについて早急に検討すべきである。	B	教育活動に関するPTAや地域等の外部教育力の活用をマネジメントする「学校支援本部」を組織化し、9月より運営を始める。(経営会議・学力PT)
3 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし					

学校教育目標	○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	「拝二小授業力スタンダード20ver.3」をもとに、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	日々の授業を充実させ、学力調査(プレ・ポストテスト)のAB層を引き上げ、CD層の引き下げを図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4 (85.9)
		言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。	指導計画のPDCAサイクル化を図り、児童が考えを深め、表現する場を意図的に計画的に設定する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4 (81.5)
		学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	昭島市民科、各教科、特別活動、特別な教科道徳全体を通じて児童がセルフモニタリングする場を設定する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4 (80.4)
豊かな心	(情) 自らのよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きようとする児童の育成	すべての児童が安心して登校できる学校にする。	児童・保護者の声や思いを十分にくみとれるように教員の感受性を高める。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4 (82.6)
		学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。	「拝二小学級スタンダードver.2」をもとに、児童自らが学校生活を築けるようにする。児童会選挙を実施する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4 (77.2)
		学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校のきまりの意味・意義を理解させる。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4 (75)
健やかな体	(体) 自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる児童の育成	拝二小版スタンダード体育編を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	拝二小版授業力スタンダード体育編ver.2を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	3 (64.1)
		児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	体力調査(プレ・ポストテスト)の結果に基づく課題分析・解決策の共通理解と共通実践をする。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	3 (64.1)
		家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。	「グッドモーニング60分」を計画的に活用し、児童自身が生活改善の大切さを意識し実感できるようにする。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	2 (57.6)
輝く未来	(意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。	地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開することで地域に愛着をもつ児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4 (79.3)
		●SDGsの達成のために社会を変革する主体者として、家庭生活から変えていこうとする態度を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。(感染状況による)	●SDGsの達成のために、家庭生活を実際に改善しようとする行動に移すことができる児童を育成する。 ●地域人材を活用した体験活動を実施し、社会貢献しようとする児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	3 (67.4)
		体験活動を充実させ、社会の多様な課題への関心・意欲を高める。	自らの将来の進路を意識できる学習を実施する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4 (73.9)

年度末評価【総括表】

○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校 ○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童へグローバルに考え、ローカルに実践する子へ
○「チーム拜二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師 ○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 3%のA層の増加と5%のD層の減少 3 2%のA層の増加と4%のD層の減少 2 1%のA層の増加と3%のD層の減少 1 0%以下のA層の増加とD層の減少	4 (84.9)	学力テストの結果、国語・算数共にA層児童が10%以上増加した。またD層児童は3%以上減少した。	タブレットPC等の情報機器の活用が始まり、指導方法が複雑化してきているが、今後も有効活用をしていくことを臨む。	A	今年度同様、「論理的思考力」や「学びに向かう力」の育成を最重視して指導していく必要がある。そのために、毎時間の授業において、学習の振り返りの時間を確保していく。
4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満	4 (76.3)	算数科は、「思考力・判断力・表現力」において、課題解決のプロセスを文章表現する力が徐々に付いてきたことが結果から明らかとなった。	各委員から評価をいただいておりますが、本項目について特別な御意見はありませんでした。	A	学力テストの結果から学力の向上が見られた。今後も、学期に2回以上の管理職による授業観察の実施によって、客観的かつ確実に授業改善を図っていくことで、学力向上を目指す。特に算数科の授業において、児童が論理的に説明する場面を一層増やしていく必要がある。
4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満	4 (77.9)	昭島市民科や各教科における自作テストの活用や、授業における課題提示の工夫、振り返りのさせ方の工夫をしてきたことがよい結果につながっている。	各委員から評価をいただいておりますが、本項目について特別な御意見はありませんでした。	A	児童のメタ認知の高まりをさらに促していくために、毎時間の学習内容や自己の学習の取り組み方について、授業終盤の学習の振り返りを徹底していく。
4 いじめ・暴力の未解決0件 3 いじめ・暴力の未解決1件 2 いじめ・暴力の未解決2件 1 いじめ・暴力の未解決3件	4 (79)	ふれあい月間の児童アンケートを活用し、「早期発見・早期解決」に務めてきた。現在、未解決のいじめ件数はゼロである。	解決できていないいじめは「ない」とあるが、いじめが無いと思わずに注意を払って教育活動にあたってほしい。	B	ふれあい月間の児童アンケートを活用し、「早期発見・早期解決」を今後も徹底するとともに、些細な案件と決めつけることなく、児童に丁寧な聞き取りを行っていく。またいじめ対策委員会を中心に、全教職員による組織的解決を図っていく。
4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満	4 (80)	「拜二小学級力スタンダードver.2」を活用して、学級の実態を児童自身でとらえ、その課題解決に向けて、学級会を通して話し合ってきた。	各委員から評価をいただいておりますが、本項目について特別な御意見はありませんでした。	A	「拜二小学級力スタンダードver.2」を年間4回実施し、今後もよりよい学級づくりのための改善策を児童自らで考える機会を設けていく。また、児童会選挙に関わる活動を通して、児童が学校を創り上げていく意識をもつことができるようにする。
4 学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上 3 学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上 2 学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上 1 学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満	4 (80.1)	中間評価と比較して、「学校の決まりを守っている」と実感している児童が減少している。決まりの徹底ができていないことがうかがえる。	各委員から評価をいただいておりますが、本項目について特別な御意見はありませんでした。	A	再度、「拜二の約束」を児童に周知徹底するとともに、その意味理解を丁寧にしていくことが必要となる。そのために、学期当初に必ず確認していくことで、児童相互によって、規律があり過ごしやすい生活環境を維持していく。
4 運動が好きになったと実感できる児童70%以上 3 運動が好きになったと実感できる児童60%以上 2 運動が好きになったと実感できる児童50%以上 1 運動が好きになったと実感できる児童50%未満	4 (85.2)	「運動が好きになった」と答える児童は多い。今年度はコーディネーショントレーニングを年間を通して実施してきたことが影響していると考え。	冬季オリンピックがあるので、今までに取組んできたことを活用して、スポーツの魅力を児童に伝えていくようにしてほしい。	A	コロナ禍で児童の体力が低下している中にもかかわらず、本校の児童は体力テストの結果は全国平均を上回ることができた。今年度の取組を改良を重ねながら継続していくことで、児童の意欲を継続させ、一層の体力向上を図っていく。
4 Tスコアを都平均以上にする。 3 Tスコアを都平均にする。 2 Tスコアを都平均より-1%にとどめる。 1 Tスコアを都平均より-2%にとどめる。	4 (78.8)	多様なバリエーションのコーディネーショントレーニングの実践と休み時間に担任自らが校庭で遊ぶようにしてきたことがよい結果につながる一つの要因となったと考え。	各委員から評価をいただいておりますが、本項目について特別な御意見はありませんでした。	A	2回の体力テスト(プレ・ポスト)を通して、児童一人一人に結果をフィードバックし、自らの運動における力や課題を理解させ、解決策を考えさせる機会を意図的に設ける。体力の低下について、体育部を中心に具体的な改善策を検討していく。
4 生活改善を実感する児童70%以上 3 生活改善を実感する児童60%以上 2 生活改善を実感する児童50%以上 1 生活改善を実感する児童50%未満	4 (77.4)	年度初めに保護者会を通じて、グッドモーニング60分の意義等を説明した。しかし、生活改善が必要な児童はまだ多くいる。保護者と学校の連携が不足していること、児童にしっかりと理解させ切れていないことが原因であると考える。	各委員から評価をいただいておりますが、本項目について特別な御意見はありませんでした。	B	全教職員にグッドモーニング60分の意義や指導の仕方について周知徹底する。また、生活改善が必要な児童に対して生活リズムカードを活用して家庭と連携していく。
4 地域に愛着をもつ児童70%以上 3 地域に愛着をもつ児童60%以上 2 地域に愛着をもつ児童50%以上 1 地域に愛着をもつ児童50%未満	4 (87.1)	学習発表会を通して、昭島市民科の理念が児童に徐々に浸透し、地域に働きかけて、よりよいまちを創っていくとする児童が増えた。しかし、その気持ちと実際の活動を自発的、かつ継続していくことに課題がある。	7月に地域の盆踊りが予定されているが、児童に踊り方を指導してもらえると、より地域の活動に児童が参加する機会が増えると考え。	A	自発的、継続的によりよいまちを創ろうとする児童の育成を図るために、令和4年度から毎学期一週間程度の市民科週間を設ける。
4 社会貢献しようとする児童70%以上 3 社会貢献しようとする児童60%以上 2 社会貢献しようとする児童50%以上 1 社会貢献しようとする児童50%未満	4 (76.9)	昭島市民科を中心にSDGs達成のために、家庭生活において、児童自らができることを、家庭の協力を得ながら進めてきた。しかし、継続していくことに課題がある。	各委員から評価をいただいておりますが、本項目について特別な御意見はありませんでした。	B	家庭に向けて、児童のSDGsの取組を積極的に発信していくことで家庭の協力を得ていく。さらに家庭と学校が連携して児童自身が地域社会における主権者意識が根付くよう地域での活動を大切にした指導計画の作成、実践を積み重ねていく。
4 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上 3 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上 2 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上 1 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満	4 (75.7)	コロナ禍で活動が大幅に制限されていたが、多様な体験活動を児童にさせるために文化庁文化芸術事業等に参加した。	各委員から評価をいただいておりますが、本項目について特別な御意見はありませんでした。	B	令和4年度も児童に多様な体験活動を提供していくとともに、「拜二小学級力スタンダードver.2」を年間4回実施し、主体的に自らの生活を創り上げる機会を意図的に設ける。

学校教育目標	◎かしこく ○やさしく ○つよく	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価		
確かな学力	学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。	①「問題解決の型」の徹底 ②「学習スタンダード」の徹底 ③朝学習の週4回実施 ④ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった	3		
			①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業	4 全ての教員がチェックリストに取り組んだ。 3 7割の教員がチェックリストに取り組んだ。 2 5割の教員が、チェックリストに取り組んだ。 1 4割の教員が、チェックリストに取り組んだ。		4	
			①プログラミング学習に関わる授業(年5回) ②キャリア・パスポートに関わる指導(年3回) ③授業観察・指導(2回)	4 全ての教員が、新学習指導要領に基づく指導を行った。 3 8割の教員が、新学習指導要領に基づく指導を行った 2 7割の教員が、新学習指導要領に基づく指導を行った 1 6割の教員が、新学習指導要領に基づく指導を行った			4
		児童の自己肯定感を高め、個々の良さを発揮できるように、学級活動を実施する。	①校内研究の推進 ②生活スタンダードの徹底 ③QUTテストの活用	4 全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	3		
			①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③児童が考え議論する道徳	4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した		3	
			①朝読書の定期化(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③保護者による読み聞かせ活動(年3回程度)	4 全ての教員が、保護者への啓発活動を行った 3 8割の教員が、保護者への啓発活動を行った 2 7割の教員が、保護者への啓発活動を行った 1 6割の教員が、保護者への啓発活動を行った			3
		教育活動全体を通して、道徳的実践力を身に付けさせる。	①体力向上プラン(9月改訂) ②コロナ禍での運動の提案 ③運動週間(年3回)	4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行った 3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った 2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った 1 7割未満の教員がプランを活用した指導を行った	3		
			①元気アップカードの活用 ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行った 3 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 2 7割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 1 7割未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った		3	
			①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日の指導(年11回)	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行った 3 8割の教員が、安全指導を計画的に行った 2 7割の教員が、安全指導を計画的に行った 1 6割の教員が、安全指導を計画的に行った			4
安全教育的な指導を進める。	①学級会活動(年10回以上) ②課題解決型学習の重視	4 全ての学級担任が、学級会活動を8回以上行った 3 8割以上の学級担任が、学級会活動を8回以上行った 2 7割以上の学級担任が、学級会活動を8回以上行った 1 7割未満の学級担任が、学級会活動を8回以上行った	4				
	①各学年で外部人材を活用した授業を計画 ②コロナ禍においても実現可能な交流プログラムの作成	4 全学年の教員が交流体験を実施した 3 8割以上未満の学年・教員が交流体験を実施した 2 7割以上の学年・教員が交流体験を実施した 1 7割未満の学年・教員が交流体験を実施した		4			
	①PTAや地区委員会の行事に計画的に参加・協力する。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動の強化を行う。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した 3 8割以上の教員が年間計画に沿って参加・協力した 2 7割以上の教員が年間計画に沿って参加・協力した 1 7割未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した			4		
日常の運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	学校全体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育む。	4 全ての学級担任が、学級会活動を8回以上行った 3 8割以上の学級担任が、学級会活動を8回以上行った 2 7割以上の学級担任が、学級会活動を8回以上行った 1 7割未満の学級担任が、学級会活動を8回以上行った			4	
				①各学年で外部人材を活用した授業を計画 ②コロナ禍においても実現可能な交流プログラムの作成			4 全学年の教員が交流体験を実施した 3 8割以上未満の学年・教員が交流体験を実施した 2 7割以上の学年・教員が交流体験を実施した 1 7割未満の学年・教員が交流体験を実施した
				①PTAや地区委員会の行事に計画的に参加・協力する。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動の強化を行う。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した 3 8割以上の教員が年間計画に沿って参加・協力した 2 7割以上の教員が年間計画に沿って参加・協力した 1 7割未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した		

年度末評価【総括表】

・子供にとって安全・安心の学校 ・保護者や地域とともに子供を育てる学校 ・教職員が互いに高め合う学校
・よく考え工夫する児童 ・相手のことを考え、助け合う児童 ・明るく元気な児童
・質の高い指導を創造できる教師 ・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師 ・児童、保護者、地域に貢献する仕事であることを自覚する教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学力調査市平均+2P以上	1	全国学力学習調査において、市平均-2.5P都平均-8Pであったが、昨年5年の時の-11.25Pより改善が見られた。	学力について改善傾向なのがとても良い。ICTのオンライン授業の取組、実施は大きく評価したい。	B	全体的に改善傾向であり、次年度は今までの取組を強化していく。また、4月に3-6年で「味感学」を取り入れた授業を予定している。
3 学力調査市平均+0P以上					
2 学力調査市平均-0P未満					
1 学力調査市平均-2P未満					
4 児童アンケートで「分かりやすい」が9割以上	3	校教室環境・学習環境・授業内容の向上に取り組んでいる。授業観察で「人権」をテーマに授業を構成させ、意識を高めていく。	人権という難しいテーマの中、工夫して授業に取り組んでいたと思います。	A	次年度は東京都人権尊重教育推進校としての発表を踏まえ、保護者や児童に對しての啓発も進めていきたい。
3 児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上					
2 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上					
1 児童アンケートで「分かりやすい」が7割未満					
4 児童アンケートで肯定的な評価が9割以上	3	児童アンケートにて「勉強は楽しい」81%、「分かりやすい」89%となっている。タブレットの導入に伴い、環境が飛躍的に向上している。	新しい試みに対して児童からの評価が本当に高い。教える側の教員は大変だと思うが児童からの「楽しい」を励みにしてほしい。	A	計画に従い、取組内容を継続させていくとともに、オンライン授業の推進を行っていく。
3 児童アンケートで肯定的な評価が8割以上					
2 児童アンケートで肯定的な評価が7割以上					
1 児童アンケートで肯定的な評価が7割未満					
4 QUの結果で安定感のある学級が6割	2	QUの結果、安定感のある学級は3割だったが、各学級QUの結果を学級経営に生かし取り組んでいる。生活スタンダードは児童に定着しつつある。	こちらについては次回目標を安定感のある学級が5割を目指し、引き続き取り組んでほしい。	C	児童にとって過ごしやすい学級を目指し「人権」に関する校内研究や、生活スタンダードの取組を継続させていく。
3 QUの結果で安定感のある学級が5割					
2 QUの結果で安定感のある学級が3割					
1 QUの結果で安定感のある学級が3割以下					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	4	重大ないじめと不登校の出現回数は昨年度の3割以上減少した。不登校数はあまり変わらないが、いじめが減少した。	いじめと不登校の減少は大きく評価したい。道徳の授業で考え議論し、それを一般の授業でも活かせるよう続けてほしい。	A	児童の心の育成が図られるよう、道徳の授業改善についても校内研究とからめながら、引き続き取り組んでいく。
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数改善なし					
4 全ての子供が、個人での図書室利用回数20回以上	3	朝読書、各学期一回ずつ読書旬間を設け、行事等の変更があっても旬間実施を確保し、読書習慣の定着に努めた。	学校での取り組みに感謝。オンラインを併用しつつ本との出会いの場の確保をお願いしたい。	B	計画に従い、取組内容を継続させていく。PTA役員と連携し、読み聞かせの計画を確認、オンライン活用などを検討する。
3 8割の子供が、個人での図書室利用回数20回以上					
2 7割の子供が、個人での図書室利用回数20回以上					
1 個人での図書室利用回数20回以上の学級が5割以下					
4 調査結果が昨年比平均ポイントから+5ポイント以上	2	反復横飛びやシャトルランは前年度より10P以上向上している。一方で長座体前屈や立ち幅跳びで大きく記録を落としている。	様々な取り組みを実施しているのがよい。数字には中々表れていないようだが続けてほしい。	B	体力向上プランに基づき、今後も、取組を進めていくと同時に、体の使い方を学習したり、味感学を取り入れたりする等、体力向上を図る。
3 調査結果が昨年比 ~+5ポイント					
2 調査結果が昨年比 -5ポイント以内					
1 調査結果が昨年比 -5ポイント以上					
4 9割以上の児童が目標を達成している	3	元気アップカードを用いて、運動習慣の確立のための取組や、家庭への啓発を進めている。	8割の児童が目標を達成している点を評価したい。継続すれば調査結果の数字に表れることをしっかり理解させてほしい。	B	学校保健委員会で、関係機関とも連携を図りながら、取組を更に充実させていく。
3 8割以上の児童が目標を達成している					
2 7割以上の児童が目標を達成している					
1 7割未満の児童が目標を達成している					
4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P	4	年度当初よりコロナ禍に対応したの避難訓練案を作成、取組を継続できている。安全指導は月一回、安全に関する指導を継続している。	全ての教員の計画的な指導が保護者の評価に表れていると考える。継続をお願いします。	A	来年度も計画に従い、取り組み内容を継続させていく。
3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし					
4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する	2	深刻なトラブルは大きく減少した。小さなトラブルも減少傾向にあるが、学級によっては増えている所もある。個別に対処していく必要がある。	全ての教員の計画的な指導が保護者の評価に表れていると考える。継続をお願いします。	B	来年度も計画に従い、取り組み内容を継続させていく。
3 8割以上の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
2 7割以上の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
1 児童間のトラブルの出現が減少した学年が7割以下					
4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P	4	コロナ禍でも実施可能な教育活動を開拓していくことができた。来年度以降も継続したい。	これまでの学校の取組を評価したい。引き続き、継続をお願いします。	A	コロナ禍でも実施可能な教育活動を検討し、受け入れ先を一つでも多く開拓していく。
3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし					
4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P	A	9月まで緊急事態宣言下だったため、PTAや地区委員会の行事はなかったが、PTAとオンライン会議を行い、新しい連携を図ることができた。	PTAのみならず、地域ともオンライン会議を広げ、新しい生活様式に沿った地域連携をともに模索していきたい。	A	コロナ禍でも実施可能な新しい生活様式に沿った計画を計画していく。
3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし					

学校教育目標	・自ら考えともに学び、積極的に行動する生徒 ・互いの人格を尊重し、思いやりのある生徒 ・心身ともに健康な生徒	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学びに向かう力と人間性等を養う。	授業における指導目標を明確化と指導と評価の一体化による知識・技能の定着	各授業における学習目標の提示と振り返りの実施	4 全授業で実施した 3 80%程度の授業で実施した 2 70%程度の授業で実施した 1 実施した授業は70%未満	4
		思考力・判断力・表現力の育成を図るための指導法の工夫と評価の充実	発問を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践と評価の充実	4 全教員が意識して授業を実践した 3 意識して授業実践した教員が80%以上 2 意識して授業実践した教員が70%以上 1 意識して授業実践した教員は70%未満	4
		主体的に学習に取り組む態度の育成と家庭学習の定着	シラバスの活用と各教科での学習課題の明確な提示と評価	4 学習習慣定着のための指導を全教員が実施した 3 80%程度の教員が学習習慣定着のための指導を実施した 2 70%程度の教員が学習習慣定着のための指導を実施した 1 学習習慣定着のための指導を実施した教員は70%未満	3
豊かな心	全教育活動を通じて、人権教育・心の教育を推進し、自立した人間として、他者とともにによりよく生きるための基盤となる豊かな人間性を育む。	全教育活動を通じて生徒の自己肯定感と自尊感情の育成	豊かな人間関係を育む学級経営、主体的自立的生徒会活動と学校行事の充実	4 全教員が意識して指導を実践した 3 意識して指導した教員が80%以上 2 意識して指導した教員が70%以上 1 意識して指導した教員は70%未満	4
		道徳的価値と道徳性の育成	「考える・議論する・体験する道徳科」の計画的な指導と適切な評価の実施	4 道徳科の趣旨に則り、全教員が意識して指導した 3 意識して指導した教員が80%程度 2 意識して指導した教員が70%程度 1 意識して指導した教員は70%未満	4
		いじめ問題への適切な対応と自立支援を基盤とした個に応じた不登校対策の充実	実態把握のための調査、教育相談部会と関係機関との連携、校内委員会の実施	4 いじめ問題にすぐに対応し、早期解決を図った。 3 いじめ問題にすぐに対応したが、対応は継続している。 2 いじめ問題の対応が遅れたが、解決できた。 1 いじめ問題の対応が遅れ、解決できていない。	4
健やかな体	心身共にたくましく、健やかな生徒の育成を図り、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。	体力向上と生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成	オリンピック・パラリンピック教育の推進と保体授業のTTの実施、男女共習の導入	4 オリンピック・パラリンピックの理念を理解し、十分に指導した 3 オリンピック・パラリンピックの理念を理解し、指導した 2 オリンピック・パラリンピックの理念を理解したが、指導は不十分 1 オリンピック・パラリンピックの理念を理解したが、指導しなかった	3
		保健指導の充実と生徒自らの健康な生活に向けた行動選択の促進	保健室経営の充実、生徒への保健・安全指導に関する情報発信と指導	4 保健だよりを活用した生徒指導を全学級で行った 3 80%程度の学級が保健だよりを活用した生徒指導を行った 2 70%程度の学級が保健だよりを活用した生徒指導を行った 1 保健だよりを活用した生徒指導を行った学級は70%未満	2
		安全教育・防災教育の推進と事故防止の観点からの点検活動の日常化	安全指導の計画的な実施、自殺予防教育の取組、安全点検	4 安全に関する点検を定期的に行っている。 3 安全に関する点検は必要を感じた時に行っている。 2 安全に関する点検を指示された時に行っている。 1 安全に関する点検を行うことはほとんどない。	3
輝く未来	学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係を築き、生徒一人一人に応じた指導・支援を図る。	年間を通じた計画的な教育相談実施と教師によるカウンセリングの充実	面談指導の計画的な実施、個の課題解決を支援する個別の会話・面談や言葉かけ	4 定期面談・随時面談・QUのすべてを活用、実施した。 3 定期面談・随時面談を実施した。 2 定期面談のみ実施した。 1 定期面談・随時面談・QUのいずれも活用、実施できなかった。	3
		キャリア教育の計画的な推進と適切な進路選択能力の育成	適切な進路指導計画の作成と計画的な推進、キャリアルバムの活用	4 進路指導を計画的に行い、キャリアルバムも活用した 3 進路指導は計画的に行ったがキャリアルバムは活用しなかった 2 キャリアルバムは活用したが、進路指導は計画的に実施できなかった 1 進路指導は計画的に実施できなかった。キャリアルバムも活用しなかった。	4
		生徒理解に基づいた個に応じた教育支援の充実	特別支援教室の適切な運営と活用、保護者との連携	4 特別支援教室の趣旨を理解し、啓発と活用を図った。 3 特別支援教室の趣旨を理解し、活用を図った。 2 特別支援教室の趣旨は理解したが、活用できなかった。 1 特別支援教室の理解も活用も不十分だった。	4

年度末評価【総括表】

生徒が「①進歩や成長を実感、②自己実現を図る、③夢や希望を実現する、④安心・安全に生活できる」場
①意欲的、主体的に取り組む、②あいさつができ、思いやりがある、③自らの力で進路を切り拓く、④心身ともに健康である
①生徒一人一人を大切に、②高い指導力をもつ、③信頼される、④組織の一員として職務にあたる、⑤昭和中和を愛する

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 授業は「とても分かりやすい」と答える生徒が最も多い	3	学習指導要領の趣旨について理解を深め、授業の工夫に取り組んだ。今後も取組を継続。	74.3%の保護者が「授業を通して学力が身に付いている」と評価。昨年度比11.8%増。	B	シラバス活用と振り返りは一定程度定着。ICTの導入に伴うシラバスの見直しが課題。
3 授業は「分かりやすい」と答える生徒が最も多い					
2 授業は「分かりにくい」と答える生徒が最も多い					
1 授業は「とても分かりにくい」と答える生徒が最も多い					
4 話し合い、発表に「よく参加している」と答える生徒が最も多い	3	同上	70.8%の保護者が「生徒が意欲的に参加できるよう授業が工夫されている」と評価。昨年度比4.7%増	B	生徒の思考力、判断力、表現力の育成に向けたICTの有効活用が課題。
3 話し合い、発表に「あまり参加していない」と答える生徒が最も多い					
2 話し合い、発表に「あまり参加していない」と答える生徒が最も多い					
1 話し合い、発表に「参加していない」と答える生徒が最も多い					
4 家庭学習の時間が「4時間以上」が最も多い	1	定期テストのある月には家庭学習の時間の平均は2時間を超える。その定着が課題である。	「子供に家庭学習の習慣化がされている」と感じている保護者とそう感じない保護者はほぼ同数あった。	B	生徒指導要録の改訂に伴い、その趣旨を生かした評価の改善が課題。
3 家庭学習の時間が「4時間未満」が最も多い					
2 家庭学習の時間が「3時間未満」が最も多い					
1 家庭学習の時間が「2時間未満」が最も多い					
4 学校生活を「楽しく過ごしている」生徒が最も多い	4	規模縮小等の工夫の下、実施した学校行事が増え「楽しく学校生活を過ごした」と評価した生徒増につながった。	93.1%の保護者が「子供は学校生活を楽しく過ごしている」と評価。昨年度比8.1%増。	B	学校生活の楽しさの要素を分析し、今後の学校行事や特別活動、部活動の在り方を検討。
3 学校生活を「ほぼ楽しく過ごしている」生徒が最も多い					
2 学校生活を「あまり楽しく過ごしていない」生徒が最も多い					
1 学校生活を「楽しく過ごしていない」生徒が最も多い					
4 思いやりの心をもって行動している」と「とても思う」生徒が最も多い	3	教員の道徳科の趣旨の理解が深まることにも、授業指導の工夫にも取り組むことができた。	90.9%の保護者が「子供は思いやりの心をもって行動している」と評価。昨年度比5.1%増。	B	道徳科学習指導要領の趣旨を一層生かした指導法の工夫とICTの活用が課題。
3 思いやりの心をもって行動している」と「思う」生徒が最も多い					
2 思いやりの心をもって行動している」と「あまり思わない」生徒が最も多い					
1 思いやりの心をもって行動している」と「思わない」生徒が最も多い					
4 落ち着いて安心して学校生活が「できている」という生徒が最も多い	4	年3回の対策委員会を実施し、調査で把握した課題対応の徹底を図った。取組を継続。	81.6%の保護者が「学校は子供の居場所づくりに配慮している」と評価。昨年度比8.9%増。	B	生徒の学校生活状況調査の実施回数を増やし、よりきめ細かく指導上の課題を把握。
3 落ち着いて安心して学校生活が「なだりてきている」という生徒が最も多い					
2 落ち着いて安心して学校生活が「あまりできていない」と答える生徒が最も多い					
1 落ち着いて安心して学校生活が「できていない」という生徒が最も多い					
4 体力テストで全学年が都標準以上	2	オリンピック・パラリンピック教育の成果と感染症対策を講じた授業指導を継続。	64%の保護者が「学校の体力向上の取組に満足している」と答えた。昨年度比2.2%増。	B	オリンピック・パラリンピック教育の趣旨とレガシーを教育活動に生かしていくことが課題。
3 体力テストで2つの学年が都標準以上					
2 体力テストで1つの学年が都標準以上					
1 体力テストで全学年が都標準未満					
4 食事や栄養の知識を「よく生かしている」と答えた生徒が最も多い	3	学級活動における健康で安全な生活態度・習慣の形成を重視。保健だよりの活用を促進。	57.8%の保護者が「子供は食事、栄養の知識を生かしている」と評価。昨年度比5.1%減。	B	学級活動における健康で安全な生活態度・習慣の形成を重視、保健だより活用を促進。
3 食事や栄養の知識を「生かしている」と答えた生徒が最も多い					
2 食事や栄養の知識を「あまり生かしていない」と答えた生徒が最も多い					
1 食事や栄養の知識を「生かしていない」と答えた生徒が最も多い					
4 安全や健康についての知識を「よく生かしている」が最も多い	3	月毎の安全指導の徹底の他、自殺予防に関する講話等を重視。取組を継続。	69.4%の保護者が「子供は安全、健康の知識を生かしている」と評価。昨年度比6.5%増。	B	安全指導の年間指導計画の見直しと避難訓練の実施、安全点検の徹底が課題。
3 安全や健康についての知識を「生かしている」が最も多い					
2 安全や健康についての知識を「あまり生かしていない」が最も多い					
1 安全や健康についての知識を「生かしていない」が最も多い					
4 「相談できる先生がいる」に対して「そう思う」と答えた保護者が最も多い	3	生徒との面談はいずれの学年・学級でも回数を多く実施していた。QU活用を促進。	67%の保護者が「相談してみようと思う教員がいる」と評価。昨年度比1.5%減。	B	学級担任が行う生徒面談の他、SCや特別支援教室担当教員等との連携を促進。
3 「相談できる先生がいる」に対して「だいたいそう思う」と答えた保護者が最も多い					
2 「相談できる先生がいる」に対して「あまりそう思わない」と答えた保護者が最も多い					
1 「相談できる先生がいる」に対して「そう思わない」と答えた保護者が最も多い					
4 将来について考えることが「ある」生徒が最も多い	4	キャリアアルバムの活用は一定程度図られている。活用の計画を進路指導計画に位置づけていく。	56.7%の保護者が「子供は将来について考えている」と評価。昨年度比3.5%増。	B	令和4年度入学性が小学校で活用していたキャリアアルバムの引継ぎ、活用が課題。
3 将来について考えることが「時々ある」生徒が最も多い					
2 将来について考えることが「あまりない」生徒が最も多い					
1 将来について考えることが「ない」生徒が最も多い					
4 「相談できる大人が二人以上いる」と答えた生徒が50%以上	4	特別支援教室設置初年度であったが、多くの学級に通室生徒があり、一定の連携を広く図った。			特別支援教室通室生徒の教育課程編成及び個別指導計画作成段階からの学級担任との連携が課題。
3 「相談できる大人が二人以上、または、一人いる」と答えた生徒が70%以上					
2 「相談できる大人が一人いる」と答えた生徒が50%以上					
1 「相談できる大人はいない」と答えた生徒が30%以上					

学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	問題解決型福島中方式4ステップ授業から深まりのある指導を実践する。	毎時間の授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」授業を定着する。	4 深まりにつながる4ステップ授業を行った 3 「深める」ための指導の工夫を行った 2 「広げる」ための指導の工夫を行った 1 個と集団を意識した授業を行った	3
		考えを深めるための読解力と表現力を身に付けさせる。	様々な場面で読む、書く、聞くを重視し、考える時間を確保し表現する場面を増やす。	4 深く読み、表現する授業を毎時間展開した 3 深く読み、表現する授業を7割以上行った 2 深く読み、表現する授業を5割程度行った 1 深い読みや表現する指導が不十分だった	3
		主体的な学習習慣を基に、主体的に学びに向かう態度を養う。	明確なねらいと内容を深める振り返りで、授業や家庭学習を主体的に取り組む。	4 毎時間の振り返りを次時に生かす指導を行った 3 毎時間のねらいと既習事項を関連付けた振り返りを行った 2 毎時間ねらいを示し、振り返りを行った 1 授業のねらいと振り返りを時々行った	3
豊かな心	自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。	考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	発問と話し合いの工夫で22の内容項目を自分自身との関わりの中で深める。	4 生徒が考え、気付きのある発問を工夫した 3 教材解釈と教材の工夫を十分に行った 2 計画通りに22の内容項目を全て扱った 1 自分で教材理解をして年間35時間行った	3
		一人一人を尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。	傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛する生徒指導を実践する。	4 傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛を実践した 3 傾聴、共感、認定から助言につなげた 2 傾聴、共感をし、認める努力をした 1 傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする	3
		挨拶や返事がお互いに気持ちよく過ごせる人間関係を築く。	自らすすんで挨拶や返事をする習慣を付けさせる。	4 学校内外では教員自ら挨拶や声かけを行った 3 学校生活での挨拶・返事の指導を徹底した 2 授業中の挨拶・返事の指導を徹底した 1 挨拶・返事の指導を時々行った	4
健やかな体	自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。	1年間健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	体育活動で補強運動や主運動を工夫することで、主体的に運動する習慣を身に付ける。	4 一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した 3 体力向上のために個に応じた方法を指導した 2 体力向上の意義と取組み方法を指導した 1 体力向上のための指導した	3
		食事や睡眠を大事にし、自らの健康増進に努める生徒を育てる。	給食を残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	4 学級で食の大切さと残さず食べる指導を徹底した 3 学級で食の大切さと残さず食べる指導をした 2 学級で残さず食べる指導に取り組んだ 1 学級で食育指導を定期的に行った	3
		SNSの活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルール及び家庭ルールの定着のために、定着度調査を行い各自の意識を高める。	4 SNSルールの徹底を家庭に指導した 3 SNSルールを学級で指導・徹底した 2 SNS家庭ルールの作成を学級で指導した 1 SNS学校ルールを学級で指導した	3
輝く未来	家庭・地域との連携を深めて、将来の確かな夢をもち、夢を語れるような人格形成を図る。	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	学校・学年だよりの発行とホームページの更新を毎月行う。	4 毎月発行・更新し、地域からの意見を募った 3 学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った 2 学校・学年だよりは毎月1回以上発行した 1 学校だよりは毎月1回以上発行した	3
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向け努力する生徒を育成する。	総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4 よりよく生きるための進路学習を計画的に行った 3 職業学習の充実で働くことの意義を考えさせた 2 職業選択につながる進路指導を行った 1 社会で自立するための職業観をもたせた	3
		9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	福島中グループの小中一貫教育スタンダードを徹底する。	4 スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた 3 スタンダードを全クラスで指導・徹底した 2 スタンダードの意義を理解させ、家庭協力を求めた 1 スタンダードを意義を生徒に理解させた	2

年度末評価【総括表】

○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校
○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒
○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上	3	*深めるための話し合い活動はスムーズで理解しやすいようだが、どれだけ深まっているかは疑問が残る。 *振り返りを書かせると理解できたと書く生徒が増えている。	話し合い活動で理解の深まりを感じると同時に、振り返りが生徒自身の理解も深めている。	A	書かせることは深めるために重要で継続する。話し合いは質を高め、真の深まりにつなげる。
3 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が70%以上					
2 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%以上					
1 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%未満					
4 考える力・発表する力が付いた生徒が80%以上	3	*発表の場面を増やしたことで、自分の考えをまとめることができるようになった。 *よく考え、発表する生徒が増えた。 *班学習、発表では、自ら考え質問に答え、知識を深めている。	考えをまとめて発表することで自分の理解を確認できている。	B	今後も様々な場面で役立つので、発表の場面を今後も増やしていく。
3 考える力・発表する力が付いた生徒が60%以上					
2 考える力・発表する力が付いた生徒が40%以上					
1 考える力・発表する力が付いた生徒が40%未満					
4 主体的な学習習慣が定着した生徒が90%以上	3	*3年生は自主的に学習する生徒が増えた。 *家庭での自由勉強を通して、自主的に学習する習慣が身に付いている。 *学習の習慣化は、学校全体でさらに取り組む必要がある。	学年が進むほど定着しているため、今後も継続してほしい。	B	学校としての組織的な取組を進める。家庭学習の質を高める指導を行う。
3 主体的な学習習慣が定着した生徒が70%以上					
2 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%以上					
1 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%未満					
4 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が80%以上	3	*他者の意見を聞く場面を多く設定したことで、生徒が考えを深められた。 *発問や展開の工夫で、さらに深めることができるのが難しいことが多い。	他の生徒の考えを聞くことで、他者を深く理解し、自己の成長につながっていると思う。他者の表情を見て考えを深めていると感じる。	B	教師が教材理解を深めることで、広がりのある発問につながる。生徒の考えを十分に引き出す発問を研究する。
3 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が60%以上					
2 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が40%以上					
1 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が40%未満					
4 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が90%以上	3	*各教員が意識して取り組んでいる。 *習慣になっていて、生徒との信頼関係も深まっているように思う。 *生徒の変化に敏感になって、声かけすることが増えた。	教師が生徒の声に耳を傾け、認め、褒めてくれるので生徒に安心感が生まれている。	B	生徒の自己有用感を高めるために、傾聴、共感を基本として褒めて自主性を育てる指導を続ける。
3 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が80%以上					
2 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%以上					
1 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%未満					
4 学校内外で、すすんで挨拶できる生徒が80%	3	*学校外での挨拶は定着していない。 *こちらから挨拶すれば返ってくるが、生徒からの挨拶はまだ定着していない。 *挨拶によりコミュニケーションが深まる。	マスクをしていると消極的、内向的になりがちである。今まで以上に大人から積極的に挨拶をすることが大切。	B	今後も挨拶の大切さを訴え続け、教師から積極的に挨拶をすることで、気持ち良い人間関係を築く。
3 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が80%以上					
2 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上					
1 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満					
4 運動を主体的に取り組む生徒が90%以上	3	*生活習慣や食事の大切さを生徒に伝えている。 *昼休みに外で遊ぶ姿が好ましい。 *コロナ禍で運動能力や主体性が低くなっている。	コロナ禍で難しい状況ではあるが、福中ミニ体操を作ってストレッチを兼ねて身体を動かす習慣を付けてほしい。	C	運動の大切さを伝えることで、学校外でも主体的に運動に取り組む姿勢を育んでいく。
3 運動を主体的に取り組む生徒が70%以上					
2 運動を主体的に取り組む生徒が50%以上					
1 運動を主体的に取り組む生徒が50%未満					
4 全校で1か月の平均残菜率が5%以下	3	*早寝・早起き・朝ご飯をお便りで周知した。 *食べ残さない習慣は家庭の協力が重要。 *残菜を毎日おにぎりの個数で表し分かりやすかった。	規則正しい生活や食習慣は宛委の協力が必要です。食の大切さを今後もご指導ください。	B	家庭への協力を求めるとともに、生活習慣について学級や保健体育の授業で指導をしていく。
3 全校で1か月の平均残菜率が8%以下					
2 全校で1か月の平均残菜率が10%以下					
1 全校で1か月の平均残菜率が10%前後					
4 SNSルールが定着した生徒が80%以上	2	*SNSルールを指導する時間がなかなか取れない。(日常的な指導はある) *ルールを意識していない生徒がいて気になる。	SNSは便利であるが、危険性を伴うので、引き続き指導してほしい。家庭の責任能力を促す発信も大事。	C	学校と家庭でのSNSルールの徹底を強化することで、正しい使い方を身に付けさせる。
3 SNSルールが定着した生徒が50%以上					
2 SNSルールを意識している生徒が50%以上					
1 SNSルールを意識している生徒が50%未満					
4 学校の教育活動に安心している保護者が90%以上	3	*情報発信は定期的に来た。 *コロナ禍だから学校の様子を知ってもらう必要がある。 *感染症情報などを発信し安心してもらった。	行事の動画配信は良かった。保護者が安心できている状況が素晴らしい。今後も多くの情報を発信してほしい。	B	毎月の学校日より、学年だよりと適時の学級だよりは今後も続けていく。情報収集については工夫していく。
3 学校の教育活動に安心している保護者が80%以上					
2 学校の教育活動に安心している保護者が60%以上					
1 学校の教育活動に安心している保護者が60%未満					
4 夢に向けてキャリアプランを作った生徒が50%以上	3	*タブレットの活用で、簡単に幅広く調べることができた。 *職業調べでは、将来のことを真剣に考える生徒が多かった。	タブレットは知識欲を高めるきっかけになっている。併せて書物による学習にも多くの発見がある。	B	将来の夢を見つけるために、様々な情報を様々な方法で提供。教員個々の体験や知識も貴重である。
3 将来の夢を真剣に考える生徒が70%以上					
2 将来の夢に向けて進路学習を行った					
1 将来の夢に向けて進学先を考えた					
4 スタンダードを地域が協力・推進した	2	*小学校から継続的に取り組んでいることで効果が出ている。 *小中の接続を、保護者・地域にどのように意識してもらうかは課題である。	中学生になる期待と心身の成長が地域と共に育まれるようwzを発信してほしい。	C	小中一貫教育の理解が、家庭や地域に浸透していない。情報発信や協力依頼の検討が必要。
3 スタンダードを生徒・家庭が実践した					
2 スタンダードを生徒・家庭が理解した					
1 スタンダードが家庭に周知された					

学校教育目標	すすんで学習に励む生徒 たくましい体力を身につけた生徒 規律と礼儀を重んじる生徒 すすんで働き、協力しあう生徒	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組の充実	指導方法の工夫改善	ねらいの明示、導入の工夫、ふり返り、授業評価を授業で実践する	4 自己評価4段階平均値3.7以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.5以上 1 自己評価4段階平均値3.5未満	4
		学習意欲の向上と家庭学習の充実	『家庭学習の記録』を活用したり、宿題の出し方を工夫したりして家庭学習を定着させる	4 自己評価4段階平均値3.7以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.5以上 1 自己評価4段階平均値3.5未満	3
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
豊かな心	多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる人格の育成を目指す指導の充実	正しく判断し行動できる力の育成	生徒の心に寄り添う丁寧な生活指導や道徳教育を充実させる	4 自己評価4段階平均値3.4以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.2以上 1 自己評価4段階平均値3.2未満	4
		生徒の主体的活動の充実	教育活動に他者と関わりながら主体的に判断する内容を取り入れる	4 自己評価4段階平均値3.6以上 3 自己評価4段階平均値3.5以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	3
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
健やかな体	生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進	基礎体力の向上	体育の授業や部活動、行事などを通じて基礎体力を向上させる	4 自己評価4段階平均値3.1以上 3 自己評価4段階平均値3.0以上 2 自己評価4段階平均値2.9以上 1 自己評価4段階平均値2.9未満	3
		健康・安全に関する指導の充実	各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する	4 自己評価4段階平均値3.7以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.5以上 1 自己評価4段階平均値3.5未満	4
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
輝く未来	自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4 自己評価4段階平均値3.7以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.5以上 1 自己評価4段階平均値3.5未満	3
		系統的な生き方指導の充実	三年間を通じて自己を見つめ、社会を知り、将来を考える指導を系統的に行う	4 自己評価4段階平均値3.6未満 3 自己評価4段階平均値3.7未満 2 自己評価4段階平均値3.8未満 1 自己評価4段階平均値3.9未満	3
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	
				4 3 2 1	

年度末評価【総括表】

- ・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校・自主、自立の精神を培うことができる学校・生徒、保護者、地域、教職員が誇りをもてる学校
- ・規律を重んじ、学力を身に付け、自己有用感の高い生徒
- ・親切、丁寧、コミュニケーション重視・全員一丸での組織対応・認めて褒める指導・チェックと改善・教育公務員の自覚・ライフワークバランス

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答	3	ねらいの明示と生徒への周知確認は、全教員ができています。導入ではICT(タブレット)を活用している教員が増えてきた。また、授業評価や学習カードで理解度や上達度を把握し、次の授業に役立てるなど指導方法を工夫している。昨年度末の課題であった振り返りを特に意識して授業の終わり部分を念入りと考えている教員が少しずつではあるが増えている。	・タブレットの可能性は大きいと感じます。不登校・病弱生徒のことを考えるとオンライン授業の研究にも取り組んで欲しいと感じます。スマートフォン同様にくすくすではないツールと考えるべきと感じています。 ・コロナ禍でもタブレット使用が必要である。 ・振り返りを行い、生徒自らが習熟度を分ることにあります。	A	タブレットの使用については、もっと使用していきたいという意見とタブレットありきの授業になっているので頼りきりにならないようにしたいという両意見があった。タブレットをいかに効果的に使用するが各教科でさらに教材研究が必要である。授業の終末に振り返りの時間が十分にとれていないことを課題と考えている教員が多いので各自研究し、工夫することが不可欠である。
3 80%~90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
2 70%~80%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
1 70%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
4 70%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
3 90%~90%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答	3	毎時間や定期的に宿題を出し、家庭学習の定着を目指している教員は多いが、一部の生徒であり効果が出ていないのが現状である。一方、定期考査前に学習計画表を作成させ、担任から個々にアドバイスをすることは一定の効果が出ており、この方向からアプローチするのが良いと考えられる。	・家庭学習では個々への対応が必要であり、課題も多々あると思いますが、1年時より長期的な取組で定着に向けて欲しいと思います。 ・学習計画表を作らせてきたことをベースに生徒に話し合いをさせていくことは評価できる。 ・家庭学習がなぜ必要かは、親から伝えて欲しい。	B	宿題の出し方について、なぜ勉強をするのか、なぜ宿題をやるべきなのかを考えさせ、主体的に学習に取り組めるように促すことが重要である。定期考査前の学習計画表は、担任と生徒との人間関係の構築が鍵となる。より良い関係の中、生徒個々に応じた適切なアドバイスができるようにしていく。
2 40%~50%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
1 40%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
4					
3					
2					
1					
4 90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	3	生徒一人一人の悩みや思いに耳を傾けながら、柔軟に対応することで、生徒の心に寄り添った丁寧な生活指導ができています。道徳教育においては、教材の社会的背景を考えたり、実際の映像を見せたりするなどしてより身近に考えられるように工夫した。昨年度より意見交換をする場も増えた。	・多様な道徳教育により自己肯定感や他人への思いやりの心を育んでいると思います。他者を思いやる中で、集団生活での協調性や自己の積極性を伸ばしていただきたいです。 ・思いやりの心で友達と大切にすることを学ぶ機会を増やそうとする。	B	継続して、丁寧な見守りと指導を行っていくとともに学年内や学年間の情報共有を図り、統一的な指導を行っていく。道徳教育では様々な意見を共有することができるように、生徒が意見を言いやすいクラスの雰囲気作りが求められる。
3 80%~90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
2 70%~80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
1 70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
4 90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
3 80%~90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答	3	自分の気持ちを言語化し、他者に伝えることで、積極的に他者と関わることを意識した指導を心がけている。班学習ではそれぞれ話し合わせ、お互いの考えを尊重して活動するように指導している。	・自分の考えを言葉にできる。相手に理解してもらおうことの指導・評価が大切である。 ・他者に伝えることは大事である。	B	全員が話し合いに参加できるように個に応じた対応も不可欠である。また、難易度など発問の工夫や生徒に課題を考えさせるなどして生徒がより主体的に考えを出せるようにしていく。
2 70%~80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
1 70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
4					
3					
2					
1					
4 90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3	体育の授業では補強運動を取り入れたり基本的な体の動きや体力作りを継続的に進めてきた。部活動では教員と一緒に活動することに限られた時間でいかに効率よく体力向上につながる運動ができるかを考える教員もいた。部活動や体育大会も基礎体力向上のよい機会になっている。	・部活動が活発である。ほとんどの部活に教員が立ち合い、指導している姿はすばらしい。 ・限られた時間内で体力作りをお願いしたい。 ・健全な生活が送れるよう体を動かす機会が増えることを望みます。	B	基礎体力向上に向けての取組はできているので継続的に進めていく。生徒同士での前向きな声かけや協力して活動することの大切さを伝えていく。運動が苦手な生徒には、基本的な動きを丁寧に確認しながら指導していく。部活動では限られた活動時間や活動内容の中でいかに効果を上げられるかこれからは考えていく必要がある。
3 80%~90%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
2 70%~80%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
1 70%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
4 90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
3 80%~90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答	3	昼休みなどに、生徒の様子を見守ったり、生徒とのコミュニケーションを図ったりするようにし、健康・安全を確認するとともに指導につなげた。感染症予防対策や避難訓練・安全指導も効果的に指導につなげることができた。健康面においては生徒の生活リズムの乱れが課題となっている。	・生活の乱れは、体調や心の乱れにつながります。ご指導の程お願いします。 ・生活の中で、特に健康・食育に関してよくできている。 ・コロナ禍でも生徒どうしの交流は今後も大事である。	B	生活リズムの乱れが身体や睡眠などにどのような影響を及ぼすのかを丁寧に指導し、生徒の健康への意識を高める。できている部分は継続して行うとともに教室や学校内の整備をし、生徒の健康と安全に一層努める。
2 70%~80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
1 70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
4					
3					
2					
1					
4 70%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答	3	三者面談を通して、学力の定着状態や卒業後の進路などについて保護者と情報交換をし、今後の目標を確認できた。特に3年生には、早から面談指導や作文指導を行い、進路に対する意識を高めることができた。1、2年生では職業調べや高校の先生の話の聴き取り会を実施し、将来について考えさせた。	・3年生については、とてもきめ細やかな指導をしていただけたと思います。指導内容も生徒がしっかりと把握し、自ら行動できたと思います。 ・一人一人の特性に合わせた進路指導効果が出てきています。 ・進路指導が充実しています。	A	今年度と同様に親切丁寧な進路指導を行う。また、生徒が自分を生かせるような、一人一人の特性に合わせた進路指導を心がけていく。
3 60%~70%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
2 50%~60%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
1 50%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
4 90%以上の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					
3 80%~90%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答	3	総合的な学習の時間などで3年間を通じた体系的な進路指導が実践できている。また、中学校生活3年間だけではなく、卒業後の社会生活を見据えた指導を心がけている。	・1年時より将来に向けての情報提供や体験ができることを望みます。 ・自分の将来について親や友人との話し合いが重要という考えに賛成です。 ・スマホ等で情報が多く入ってくるので判断能力の向上は不可欠である。	B	自分が自立していけるような考え方をもち、将来に希望をもてるような進路指導を行う。また、明確な目標をもてない生徒が自分の将来を考えられるように、ICT(タブレット)などを利用した調べ学習も取り入れていく。
2 70%~80%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					
1 70%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					
4					
3					
2					
1					

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい心 ・創造的な知性 ・たくましい体 	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価				
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	思考力・判断力・表現力等を育むために指導法の工夫・改善を図る。	教材研究、授業分析、指導方法等について工夫・改善し、わかる授業を実現する。	4 主体的な学びへの授業改善を十分行っている 3 主体的な学びへの授業改善を行っている 2 授業改善はあまりできなかった 1 全くできなかった	3				
		学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。	明確な課題提示と家庭での学習状況を把握し授業に生かす。	4 学習慣定着のための指導を十分行っている 3 学習慣定着のための指導を行っている 2 あまり行っていない 1 全く行っていない	3				
		観点別学習状況の評価について保護者・生徒に説明し、学習意欲の向上を図る。	観点別学習状況の評価の適正な実施と説明	4 適正に観点別学習状況の評価と説明を行い、指導に十分生かしている 3 適正に観点別学習状況の評価と説明を行い、指導に生かしている 2 適正に観点別学習状況の評価と説明を十分ではなかった 1 適正に観点別学習状況の評価と説明を行うことができなかった	3				
		豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	全教育活動を通じて生徒の自尊感情、自己肯定感を醸成する。	豊かな人間関係を育む学級経営、主体的、自立的生徒活動、学校行事の実践	4 自己肯定感を醸成する指導を十分行っている 3 自己肯定感を醸成する指導を行っている 2 あまり行っていない 1 全く行うことができなかった	3		
				道徳的価値と実践力の育成	「考える・議論する・体験する道徳」の計画的実施と適正な評価	4 道徳的価値の評価を適宜、適正に行っている 3 道徳的価値の評価を適宜行っている。 2 あまり行っていない 1 行っていない	3		
				いじめ・不登校対策	実態調査の実施 教育相談部会の機能化と関係機関との連携 校内対策会議の活用	4 毎月の実態アンケートを十分活用し組織対応を行っている 3 実態アンケートを活用している 2 あまり活用していない 1 活用してない	3		
				健やかな体	心身ともにたくましく健やかな生徒の育成を図る。	体力向上と生涯にわたるスポーツに親しむ態度の育成	体育の授業、体育的行事や運動部活動を通しスポーツに親しむ。	4 体力向上について計画的に指導を行い成果をあげている 3 体力向上について計画的に指導を行っている 2 あまり行っていない 1 行っていない	2
						保健・健康の増進	安全・保健上の配慮 アレルギー対応 食育	4 各種年間指導計画に基づき十分な指導を行い成果をあげている 3 各種年間指導計画に基づき指導を行っている 2 指導が十分ではなかった 1 指導できなかった	3
						安全教育と防災教育の推進	SNSルール作り 薬物乱用防止教室、安全教室の実施、 自殺予防教育の取組	4 各種年間指導計画に基づき十分な指導を行い成果をあげている 3 各種年間指導計画に基づき指導を行っている 2 指導が十分ではなかった 1 指導できなかった	3
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	計画的キャリア教育の推進	発達段階に応じた進路指導と将来を見据えたキャリア教育	4 発達段階と生徒の実態に即した十分な指導を行い成果をあげている 3 発達段階と生徒の実態に即した指導を行っている 2 あまり行っていない 1 行っていない	3				
		自己の学業生活や卒業後の進路について振り返り、進路選択能力を高める。	年間指導計画に基づき、活用資料等を工夫した進路指導の実施	4 年間指導計画に沿って計画的に進路指導により成果をあげている 3 年間指導計画に沿って進路指導は実施している 2 年間指導計画に沿っての進路指導は不十分であった 1 年間指導計画に沿った進路指導が実施できなかった。	3				
		進路指導において、保護者への啓発に取り組み、連携を図る。	進路指導における保護者と連携した取り組みの実施	4 進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定し成果をあげている 3 進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定している 2 進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分であった 1 進路指導において、保護者との連携が不十分であった	3				

年度末評価【総括表】

生徒にとって楽しく生きがいのある学びの場としての学校の実現
<ul style="list-style-type: none"> 正しい判断力、創造性に富んだ実行力、寛容の心と協力の精神をもつ生徒 自ら学ぶ力、社会の変化に主体的に対応できる能力、国際社会で活躍できる力、世界に貢献する態度をもつ生徒 均整がとれ、耐久性に富み、機敏性をもった健康でバランスのとれた体を持つ生徒
一人一人を大切にする、一時間一時間を大切にする、信頼される、清泉中を愛する、教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策						
4 授業が分かりやすいことへの肯定的評価85%以上 3 授業が分かりやすいことへの肯定的評価70%以上 2 授業が分かりやすいことへの肯定的評価50%以上 1 授業が分かりやすいことへの肯定的評価50%未満	4	授業は分かりやすいと答えた生徒は85%、自ら進んで授業を受けている			ICTの活用などテーマを明確に定め一層の授業改善を図る。						
4 家庭学習の定着について肯定的評価85%以上 3 家庭学習の定着について肯定的評価70%以上 2 家庭学習の定着について肯定的評価50%以上 1 家庭学習の定着について肯定的評価50%未満						70%以上はクリアできていない。引き続き課題の提示等工夫を要する。	今年度は授業参観などの機会がなかったため、次年度は工夫しながら保護者、学校関係者への公開を予定していく。	今年度は感染拡大により一回の開催にとどまったため、左記の文書表現のみとした。	各教科で「振り返り」の工夫を行い、指導と評価の一体化を進める。		
4 授業に進んで参加していることの肯定的評価85%以上 3 授業に進んで参加していることの肯定的評価70%以上 2 授業に進んで参加していることの肯定的評価50%以上 1 授業に進んで参加していることの肯定的評価50%未満										年度当初、シラバスとして各教科で評価計画を説明。一層の活用を図る。	新観点に基づく評価規準と評価計画を示し評価についての説明を浸透してきている。
4 学校が楽しいことへの肯定的評価85%以上 3 学校が楽しいことへの肯定的評価70%以上 2 学校が楽しいことへの肯定的評価50%以上 1 学校が楽しいことへの肯定的評価50%未満											
4 他者への思いやりの肯定的評価85%以上 3 他者への思いやりの肯定的評価70%以上 2 他者への思いやりの肯定的評価50%以上 1 他者への思いやりの肯定的評価50%未満	他者への思いやりは91%であった。引き続き道徳の授業の充実を図る。	思いやりの心に関する保護者からの肯定的評価は約92%と高い。地域からは最近の生徒落ち着いた学校生活ができているとの意見をいただいている。	教育相談的な手法による生徒指導を進め、三者面談等の有効な活用を図る。								
4 学校は落ち着いて安心して生活できていることへの肯定的評価85%以上 3 学校は落ち着いて安心して生活できていることへの肯定的評価70%以上 2 学校は落ち着いて安心して生活できていることへの肯定的評価50%以上 1 学校は落ち着いて安心して生活できていることへの肯定的評価50%未満				9割の生徒が判断力が身につけていると回答。	新しい教科「道徳」や特別活動を通して善悪を判断できる能力の育成を図る。						
4 生徒の体力向上への肯定的評価85%以上 3 生徒の体力向上への肯定的評価70%以上 2 生徒の体力向上への肯定的評価50%以上 1 生徒の体力向上への肯定的評価50%未満						88%の生徒が楽しく学校生活を送っていると回答。	特別活動の充実等により達成感や帰属意識を一層高めていく。				
4 生徒の健康・安全についての肯定的評価85%以上 3 生徒の健康・安全についての肯定的評価70%以上 2 生徒の健康・安全についての肯定的評価50%以上 1 生徒の健康・安全についての肯定的評価50%未満								70%の生徒が安全、健康についての正しく理解していると回答。	生徒と同様に楽しく学校生活を送っていることについて、保護者からも80%以上肯定的評価があった。次年度は学校公開などを工夫し生徒の普段の学習・生活を見ていただく機会を設定し、学校への信頼を一層高める。	日常の安全点検を積あげるとともに怪我予防の一層の指導の充実を図る。	
4 生徒の健康・安全についての肯定的評価85%以上 3 生徒の健康・安全についての肯定的評価70%以上 2 生徒の健康・安全についての肯定的評価50%以上 1 生徒の健康・安全についての肯定的評価50%未満	85%の生徒が部活動に参加。活動内容の充実を図る。	部活動ガイドラインに沿った指導計画の下、活動内容の充実を図る。									
4 自らの個性・特性への理解の肯定的評価85%以上 3 自らの個性・特性への理解の肯定的評価50%以上 2 自らの個性・特性への理解の肯定的評価50%未満 1 自らの個性・特性への理解の肯定的評価72%以上			残念ながら今年は地域学習に留まり、地域行事には関わらなかった。	体験的な活動の意義を明確にし、発達段階に応じた指導を実践する。							
4 将来について考えることへの肯定的評価85%以上 3 将来について考えることへの肯定的評価70%以上 2 将来について考えることへの肯定的評価50%以上 1 将来について考えることへの肯定的評価50%未満					80%以上の生徒が自分の将来について考えている。一層の進路指導の充実を図る。	「キャリアパスポート」の活用によるキャリア教育の充実を図る。					
4 保護者の進路情報や資料等に関する肯定的評価85%以上 3 保護者の進路情報や資料等に関する肯定的評価70%以上 2 保護者の進路情報や資料等に関する肯定的評価50%以上 1 保護者の進路情報や資料等に関する肯定的評価50%未満							進路保護者会などより一層保護者との連携による進路指導を行っていく。	保護者会、面談等を活用し進路情報の適切な提供に努める。			

学校教育目標	勉強 よく考え正しく判断できる生徒 敬愛 人を尊敬し愛といつくしみのある生徒 至誠 誠実で責任感の強い生徒 健康 健康で心身ともにたくましい生徒	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価			
確かな学力	基礎的・基本的な学習内容を定着させ、学力向上を図る。	特別支援教育の視点に立った分かりやすい授業を実践する。	授業の見通しをもたせる 既習事項の確認 振り返り学習	4	全教員が特別支援教育の視点に立った授業の工夫・改善を実践した	3		
				3	90%以上の教員が特別支援教育の視点に立った授業の工夫・改善を実践した			
				2	80%以上の教員が特別支援教育の視点に立った授業の工夫・改善を実践した			
				1	80%未満の教員が特別支援教育の視点に立った授業の工夫・改善を実践した			
		家庭学習を習慣化させ、学習内容の定着を図る。	学習の手引きの活用 クールノートの活用	4	全教員が家庭学習の支援を行った	1		
				3	90%以上の教員が家庭学習の支援を行った			
豊かな心	人権尊重の精神に基づき、生徒の心の成長を促し、一人一人の変化に対応した行き届いた指導を展開する。	全教職員がいじめは絶対に許さないという考えの基、未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を図る。	人権意識の向上 いじめアンケート(年3回) いじめ対策委員会の活用	4	全教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	4		
				3	90%以上の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った			
				2	80%以上の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った			
				1	80%未満の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った			
		日常的に生徒が悩みを打ち明けやすい相談体制の充実。	生徒との人間関係の構築 相談部会(週1回) スタディサポート教室、学習支援教室との連携	4	全教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	4		
				3	90%以上の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った			
		健やかな体	生徒一人一人の体力の向上および健康の保持増進を図る。	規則正しい生活習慣を確立させ、健康の保持と体力の増進について考える態度を育てる。	基本的生活習慣の確立 オリンピックパラリンピック教育の推進	4	全教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	2
						3	90%以上の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	
						2	80%以上の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	
						1	80%未満の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	
保健体育、特別活動等の指導をとおして、体力の向上および健康の保持増進を図る。	保健体育の授業の工夫改善 行事等の工夫 部活動の奨励			4	全教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	2		
				3	90%以上の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している			
輝く未来	将来、生徒が自立できる基礎的な能力を身につけさせるため、キャリア教育を推進する。	地域や地域人材を活用した体験活動等を充実させ、自己発見および自分の生き方を考えさせる。	働く人の話を聞く会、職場体験、上級学校訪問等の充実	4	全教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	1		
				3	90%以上の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った			
				2	80%以上の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った			
				1	80%未満の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った			
		望ましい集団生活をとおして、より良い生活や人間関係を築くため、自主的、実践的に取り組ませる。	学校行事、生徒会活動、学級活動等の充実	4	全教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	3		
				3	90%以上の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った			

年度末評価【総括表】

生徒が「通ってよかった」、保護者が「通わせてよかった」、教職員が「勤めてよかった」と実感できる学校。
凡事徹底「はいじま」、当たり前のことが当たり前に見える生徒。
すべての教育活動において、自他の生命尊重、人権尊重の心を育てることを基盤とした教育活動を実践する教師。

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 全ての生徒が先生は授業を分かりやすくするために工夫をしていると回答 3 90%以上の生徒が先生は授業を分かりやすくするために工夫をしていると回答 2 80%以上の生徒が先生は授業を分かりやすくするために工夫をしていると回答 1 80%未満の生徒が先生は授業を分かりやすくするために工夫をしていると回答	3	学校の授業はとても分かりやすいと回答した生徒の割合は、90%であった。	英数の習熟度別学習が定着しつつあるようだが、さらに工夫をし、楽しく学べる授業づくりをお願いしたい。	B	振り返りの学習による学習内容の定着。導入や展開の工夫から主体的に学習に取り組む態度の評価。
4 60%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答 3 50%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答 2 40%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答 1 40%未満の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答	3	1日平均1時間以上勉強していると回答した生徒の割合は、50%であった。	タブレット活用が進み、学習に臨む姿勢などよくなっているが、家庭学習定着率が少し低いようだ。	C	自主学習ノートの継続活用。タブレット等を用いた家庭学習の推進の実施。
4 全ての生徒が学校生活が楽しいと思っていると回答 3 90%以上の生徒が学校生活が楽しいと思っていると回答 2 80%以上の生徒が学校生活が楽しいと思っている 1 80%未満の生徒が学校生活が楽しいと思っている	3	楽しく学校生活を過ごしていると回答した生徒の割合は、90%であった。	教員との関係がよく、元気に登校している生徒が多く見える。しかし、いじめはないものと思わず、「友達を思いやる心」の育成を期待する。	B	QUTテスト等を活用した生徒指導の充実。生徒指導部会、運営委員会等だけでなく、職員間で適宜報告・検討し対策を講じる。
4 80%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答 3 70%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答 2 60%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答 1 60%未満の生徒が学校に相談できる先生がいると回答	4	困ったことがあったら、相談してみようと思う大人がいると回答した生徒の割合は、80%であった。	教員の努力もあると思うが、養護教諭、SCへの信頼度が高いようだ。SSWや家庭、地域などより連携して支援していければと思う。	B	全学年、年2回以上の三者面談といじめアンケートの継続実施。定期的な個人面談の実施。
4 90%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 3 80%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 2 70%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 1 70%未満の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答	3	学校で学んだ安全や健康についての知識を生活の中でよく生かしていると回答した生徒の割合は、84%であった。	学校が家庭の良好な関係を築き、基本的な生活習慣の指導を行うことが、全てにつながっていくと思う。	B	新しい生活様式を取り入れた基本的な生活習慣の定着・徹底。
4 90%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 3 80%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 2 70%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 1 70%未満の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答	2	学校で、遊んだり体を動かしたりしていると回答した生徒の割合は、75%であった。	当初の予定よりも実施できなかったことが多かったと思うが、コロナ禍の中で工夫され、十分な成果を残している一方で、さらに、前進して欲しい。	C	感染防止対策を講じた上での、可能な範囲での効率的な運動機会の確保。
4 全ての生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答 3 90%以上の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答 2 80%以上の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答 1 80%未満の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答	1	自分以外の人と、自分の将来について話をすることがあると回答した生徒の割合は、61%であった。	学校として努力はしているようだが、この年頃ではまだ難しいようにも思う。周りがさらに親身になって相談に乗るかどうかわからないと思う。	C	体験的行事以外でのキャリア教育の検討と実践。
4 全ての生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答 3 90%以上の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答 2 80%以上の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答 1 80%未満の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答	1	自分の将来について考えることがあると回答した生徒の割合は、78%であった。	学校行事がやっとな実施されるようになってきたので、今後を期待したい。	C	感染防止対策等を講じた行事や体験活動等実施。キャリアパスポートを活用したより一層のキャリア教育の充実。

学校教育目標	進んで勉強しよう ～主体的に学習する生徒～ 思いやりのある人になろう ～思いやりのある生徒～ 進んで心身をきたえよう ～共に心身を鍛える生徒～	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	落ち着いた一日のスタートを切るために朝総合の取組の徹底	4 生徒が8:25分には朝総合をするように指導した95%以上	4
				3 生徒が8:25分には朝総合をするように指導した90%以上	
				2 生徒が8:25分には朝総合をするように指導した85%以上	
				1 生徒が8:25分には朝総合をするように指導した85%未満	
		わかる授業、達成感・満足感のある授業の実践	生徒が見通しを持ち、授業で学んだことが分かる授業の実践	4 チャイム終了までに授業開始した90%以上	4
				3 チャイム終了までに授業開始した80%以上	
一単位時間の学び量が豊富な授業の実践	生徒が見通しを持ち、授業で学んだことが分かる授業の実践	2 チャイム終了までに授業開始した70%以上	3		
		1 チャイム終了までに授業開始した70%未満			
豊かな心	豊かな情操の育成	規律を自ら守れる生徒の育成	教員・生徒ともに挨拶を主体的に実践	4 挨拶の指導を積極的に行った90%以上	4
				3 挨拶の指導を積極的に行った80%以上	
				2 挨拶の指導を積極的に行った60%以上	
		主体的に行動できる生徒の育成	行事・委員会・係活動・部活動において、主体的に考え行動できるような指導・支援の推進	1 挨拶の指導を積極的に行った60%未満	4
				4 清掃活動への取り組みを積極的に行った90%以上	
				3 清掃活動への取り組みを積極的に行った80%以上	
主体的に行動できる生徒の育成	行事・委員会・係活動・部活動において、主体的に考え行動できるような指導・支援の推進	2 清掃活動への取り組みを積極的に行った70%以上	4		
		1 清掃活動への取り組みを積極的に行った70%未満			
		4 生徒の主体性を育む活動を90%以上実践した			
主体的に行動できる生徒の育成	行事・委員会・係活動・部活動において、主体的に考え行動できるような指導・支援の推進	3 生徒の主体性を育む活動を80%以上実践した	4		
		2 生徒の主体性を育む活動を70%以上実践した			
		1 生徒の主体性を育む活動を70%未満実践した			
健やかな体	心と体の健康維持	自ら健康管理のできる生徒	日常の健康観察(感染症・アレルギー等)、個別の声掛け、保健室と保護者との連携	4 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った95%以上	4
				3 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った90%以上	
				2 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った85%以上	
		防災意識の高い生徒の育成	毎回の避難訓練において、前回の反省を生かした意識を高める実践	1 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った85%未満	3
				4 防災意識を高める指導を積極的に行った90%以上	
				3 防災意識を高める指導を積極的に行った80%以上	
主体的に行動できる生徒の育成	毎回の避難訓練において、前回の反省を生かした意識を高める実践	2 防災意識を高める指導を積極的に行った70%以上	3		
		1 防災意識を高める指導を積極的に行った70%未満			
		4 目標を明確に計画的に取り組んだ90%以上			
輝く未来	自立できる生徒の育成	他者理解を心がけ、人間関係における課題を見つけ、解決していく生徒の育成	行事や学級活動を通して、円滑な人間関係の創造	3 目標を明確に計画的に取り組んだ80%以上	3
				2 目標を明確に計画的に取り組んだ70%以上	
				1 目標を明確に計画的に取り組んだ70%未満	
		将来の生き方を考えられる生徒の育成	キャリアパスポート、職業調べ、職場体験、上級学校調べ、高校の先生の話聞く会等キャリア教育の充実	4 目標を明確に計画的に取り組んだ90%以上	3
				3 目標を明確に計画的に取り組んだ80%以上	
				2 目標を明確に計画的に取り組んだ70%以上	
将来の生き方を考えられる生徒の育成	キャリアパスポート、職業調べ、職場体験、上級学校調べ、高校の先生の話聞く会等キャリア教育の充実	1 目標を明確に計画的に取り組んだ70%未満	3		
		4 目標を明確に計画的に取り組んだ90%以上			
		3 目標を明確に計画的に取り組んだ80%以上			
将来の生き方を考えられる生徒の育成	キャリアパスポート、職業調べ、職場体験、上級学校調べ、高校の先生の話聞く会等キャリア教育の充実	2 目標を明確に計画的に取り組んだ70%以上	3		
		1 目標を明確に計画的に取り組んだ70%未満			
		4 目標を明確に計画的に取り組んだ90%以上			

年度末評価【総括表】

1 安心して楽しく活動できる学校	2 生きる力を育む学校	3 家庭・地域とのつながりを大切にする学校
1 主体的に学習する生徒	2 思いやりのある生徒	3 共に心身を鍛える生徒
1 子供を愛する教師	2 豊かな人間性を備えた教師	3 学び続ける教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 朝総合で毎日、8:25には集中して取り組んだ95%以上	4	生徒が主体的に声を掛け合い、開始5分前から朝総合に取り組む雰囲気を作った。ほとんどの生徒が、教員からの指示なく活動できている。	A	A	生徒の主体的な取組を、生徒会中心に引き続き進める。
3 朝総合で毎日、8:25には集中して取り組んだ85%以上					
2 朝総合で毎日、8:25には集中して取り組んだ75%以上					
1 朝総合で毎日、8:25には集中して取り組んだ75%未満					
4 95%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた	4	授業準備を行い、授業開始2分前着席を、生徒会中心に取り組んだ。学校全体として、授業に臨む姿勢がさらに向上した。	A	A	生徒の主体的な取組を、生徒会中心に引き続き進める。
3 85%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた					
2 75%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた					
1 75%未満 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた					
4 わかりやすいか。肯定的回答85%以上	4	目標・流れの提示はできたが、5分間の振り返りに課題が残った。	A	A	知識の定着・理解の深化等に繋がる振り返りへのOJTを実践していく。
3 わかりやすいか。肯定的回答75%以上					
2 わかりやすいか。肯定的回答65%以上					
1 わかりやすいか。肯定的回答65%未満					
4 達成感、満足感がある。肯定的回答85%以上	3	授業準備を行う時間の確保が難しかった。しかし、ICTを活用した授業が推進でき、生徒の学習意欲が高まったり、表現力の向上が図れたりした。	B	B	ICTを活用した授業改善を進める。
3 達成感、満足感がある。肯定的回答75%以上					
2 達成感、満足感がある。肯定的回答65%以上					
1 達成感、満足感がある。肯定的回答65%未満					
4 挨拶を、自分から進んでほぼ毎日できている。	3	挨拶が飛び交う学校ではあるが、挨拶を自ら進んで行う生徒の数をさらに増やしていくことが課題である。	A	A	生徒会中心に、さらに挨拶の飛び交う学校を創造していく。
3 挨拶をされた時には、ほぼ返事をしている。					
2 挨拶をするのを、忘れてしまう時がある。					
1 挨拶を、ほとんどしない。					
4 清掃活動を、学期を通してきちんと行った90%以上	4	掃除がとともよく行き届き、役割を着実に果たすことが当たり前になっている。	A	A	生徒会中心に、さらに清掃が行き届き、きれいで生活しやすい学校を創造していく。
3 清掃活動を、学期を通してきちんと行った80%以上					
2 清掃活動を、学期を通してきちんと行った70%以上					
1 清掃活動を、学期を通してきちんと行った70%未満					
4 行事・委員会・係活動などに、自ら進んで積極的に参加できた。	4	中央委員会・部長会の活性化が、今年度の最大の成果である。生徒が、主体的に協力して、さらにより良い学校を創っていくとする風土ができた。	A	A	さらにより良い学校を創造できるように、リーダー・フォロワー育成を推進する。
3 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることが少なかった。					
2 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることが少なかった。					
1 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることがたびあった。					
4 90%以上日々の感染症予防を心がけた。	3	アレルギー対応、感染症拡大防止対応は着実に実施できた。しかし、生徒自らの健康管理の実践には課題が残った。	A	A	家庭や外部機関と連携をとっていく。
3 80%以上日々の感染症予防を心がけた。					
2 70%以上日々の感染症予防を心がけた。					
1 70%未満日々の感染症予防を心がけた。					
4 避難訓練の始まりから終わりまで95%以上は真剣に行えた	4	生徒の防災意識が全体的に高まった。	A	A	避難訓練の難度を上げていく。
3 避難訓練の始まりから終わりまで85%以上は真剣に行えた					
2 避難訓練の始まりから終わりまで75%以上は真剣に行えた					
1 避難訓練の始まりから終わりまで75%未満は真剣に行えた					
4 キャリア教育に意欲的に取り組んだ生徒90%以上	3	意図的に生徒同士が関わるように行事や学級活動を実施できた。しかし、コロナ対応により話し合い活動等制限のある中での活動となった。	B	B	生徒の主体性を伸ばすように一人一人の支援と指導を充実させると共に、リーダー、フォロワーの育成を図る。
3 キャリア教育に意欲的に取り組んだ生徒80%以上					
2 キャリア教育に意欲的に取り組んだ生徒70%以上					
1 キャリア教育に意欲的に取り組んだ生徒70%未満					
4 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒90%以上	4	コロナ対応により、職場体験は実施できなかったが、生徒は総合的な学習の時間の様々な課題に対して意欲的に取り組むことができた。	A	A	自己の体験や活動を振り返りながら、自己の成長や課題を確かめる指導を充実させる。
3 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒80%以上					
2 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒60%以上					
1 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒60%未満					

第6章 点検及び評価に関する有識者からの意見

齋藤久未

(株式会社ジェイコム東京 多摩局
地域プロデューサー)

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により計画期間が1年延長された「第2次昭島市教育振興基本計画」の最終年度です。新たな環境へ対応しながら各施策や事業が進められてきたことを踏まえ、ここでは、主要施策についての意見をまとめました。

プラン1 確かな学力の定着

令和3年度実施の全国学力・学習状況調査における昭島市の結果は、これまで同様に全国や東京都の平均正答率との比較で低い傾向がみられ、特に国語科で「読むこと」、算数・数学科で「図形」の領域に課題があるとの指摘が「あきしまの教育」第106号でなされています。全体的な施策としては土曜日・放課後補習を強化、「読むこと」については、中学校で毎日、小学校で最低週一回の朝読書の実施を実現したと報告にありましたが、実施の様子はどうか、どのような効果があらわれているか、課題はないのかなどを検証し、来年度以降の新たな計画実施に役立ていただき、学力向上につながっていくことを期待しております。

プラン2 豊かな心の醸成

令和2年度はコロナ禍で子ども達の体験活動の実施が難しく移動教室や修学旅行の実施が見送られましたが、令和3年度は対策を講じながら全小中学校で修学旅行が実施できたということで、今後も継続されることを期待いたします。

また、いじめ問題への対応では、「いじめ問題防止会議」を開催し作成した資料を学校に配布したということですが、その資料が学校でいかされることが重要です。中学生が「いじめ防止ポスター」を作成し小学校や地域内に掲示する啓発活動を行っているという報告にありましたので、一体的に取り組まれるようになることを望みます。

プラン3 健やかな体の育成

体育・保健体育の授業の充実では、東京都の指定地区として各学校で体力向上に取り組んだとありますが、どのような効果があったのかは記されておられません。次の項目「体力・運動能力・運動習慣等調査の実施と活用」では、ここ

2年昭島市で活用されている「元気アップガイドブック」により授業の工夫や日常生活での運動シーンが増えたことで、調査において昭島市の数値が東京都の数値を上回る項目が出てきたとの報告がありました。総合的な取り組みにより体力向上につながっていくことを期待いたします。

また、学校給食・食育の推進における、昭島産の食材を使った料理の動画や農家から児童生徒へメッセージ動画などの制作は継続されることを望みます。

集大成としての取り組みを行ったというオリンピック・パラリンピック教育は、今後も、東京2020大会に出場された昭島市ゆかりのオリンピックとの交流など、子ども達のスポーツや文化への関心を高めていくような教育施策を期待いたします。

プラン4 輝く未来に向かって

子ども達が進学時に感じるギャップを解消する取り組みである幼・保・小・中学校の連携強化や情報教育の推進における情報モラル教育は、引き続き充実した取り組みとなることを期待いたします。また、コロナ禍の影響で体験を伴う日本の伝統文化教育の推進が難しい状況にあるようですが、ICT担当連絡会を開催し各学校のタブレット活用に関わる取り組みや成果、課題を共有するなど活用を推進しているとの報告もありますので、外部講師を招聘し対面での活動が難しい場合もオンライン、タブレットを活用し、当事者と児童生徒が交流を持つ機会が作られることを望みます。

プラン5 生涯学習の推進

コロナ禍で中止になっていた市民文化祭や市民体育大会の種目別大会は工夫をして開催されたとのことで、良い方向に向かっていると感じます。昨今ではeスポーツ人口も増えており、生涯学習の施策の1つとして取り込まれることも良いのではないかと考えます。

また、市の指定文化財については、指定、登録することにとどまらず、広く発信し市民の認知が広がることも期待いたします。

山田茂利
(帝京大学 教授)

新型コロナウイルス感染症は令和 3 年度も公衆衛生体制・医療提供体制等厳しい状況が続きましたが、『昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書』を拝見しますと、感染状況等を見据えた施策・事業が展開されたことが分かりました。

令和 3 年も教育行政に限らず、様々な事柄において厳しい状況の中での対応を余儀なくされた 1 年でした。そのことを踏まえ、また次期計画についても視野に入れ令和 3 年度の主要施策について意見を述べます。

1 プラン1「確かな学力の定着」

主要施策「1 学習指導要領の確実な定着」の施策の 1-(3)「土曜日・放課後補習教室の実施」については、国が求めている「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の一環として捉えることができ、今後の有効活用が今まで以上に期待されるところです。また、このことは学校教育部が「確かな学力の定着」の【主な課題】として挙げている「教員の研修について」からも、継続すべき最優先課題であることが伺えます。

施策の 1-(5)「子どもと触れ合う時間の確保」については、前々年度から継続した重点取組事項であり、【主な課題】の「学校の働き方改革」にもつながる施策ですから、その成果と課題を検証し、次期計画につなげてほしいと考えます。

主要施策「3 読書活動の推進と言語能力の育成」については、【主な課題】に取り上げられているように、学校における読書活動の充実が必要であることは言うまでもないことですが、さらに充実させるためには学校図書館支援員の拡充が肝要と考えます。

主要施策「4 個に応じた支援の充実」の施策 4-(1)「推進体制の整備」では、スーパーバイザー的な方が授業観察及び指導・助言を行うことで、タブレット端末を活用した個別最適な学び等、児童・生徒一人一人の実態に応じた指導を目指した授業改善を行ったことが評価されます。この成果を特別支援学級はもとより特別支援教室及び情緒障害等通級指導学級での指導の充実にも生かしていただくことを期待します。

2 プラン2「豊かな心の醸成」

主要施策「3 体験活動の充実」の施策 3「小学校での移動教室の実施」及び「中学校での移動教室・修学旅行の実施」については、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、教育委員会及び学校の努力で実施いただいたことは敬意を表するところです。なお、新型コロナウイルス感染症の先行きは未だ不透明でありますので、引き続き感染症対策を講じながら、最大限の学びの保障を実現することを期待します。

主要施策「4 いじめ問題への対応」については、施策4「いじめ問題防止会議等の開催」における施策により、各学校が真に実効性あるいじめの未然防止、早期発見・早期対応等を具体的に進めることが重要です。また、このことに合わせ令和2年度に成果として示された“社会全体でいじめを許さない”という雰囲気醸成を図る社会全体の取り組みと、前述の学校の取り組みの両面からの継続した取り組みを望みます。

3 プラン3「健やかな体の育成」

主要施策「1 体力向上の推進」の施策1-(1)「体育・保健体育の授業の充実」及び1-(2)「オリンピック・パラリンピック教育推進校での研究と啓発」について、その成果は数値等で確認できることと、できないことがあります。重要なことは【主な課題】に取り上げられているように、各校で展開した活動を継続させていくことです。健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現は、一朝一夕に得られるものではありません。次期計画とその取り組みに期待しています。

主要施策「2 学校給食・食育の充実」については、ハード面・ソフト面と密接な関係がある施策を計画的に展開いただいていることが伺えます。引き続き安全・安心でおいしい（地場食材を積極的に取り入れた）給食の提供と食育指導の充実が図られますようお願いいたします。

4 プラン4「輝く未来に向かって」

主要施策「1 幼・保・小・中が連携した教育の充実」の施策1「幼・保・小連携推進委員会の開催」における各小学校の実践のまとめとその情報の共有は、国が進めている「幼保小の架け橋プログラム」の具現化であり、その意義は【主な課題】に取り上げられている「小・中学校の連携推進」につながる取り組みです。是非、主要施策1の標題の実現を期待します。

主要施策「4 学校運営の改善」、「5 教育環境の整備」で取り組まれた事項は、学校教育の基盤となる事柄です。また同様に「6 情報教育の推進」は今後の教育活動のポイントとなる重要な要素です。その成果と課題を検証し、次期基本計画につなげるとともに、各計画の実現・達成に尽力していただきたいと思います。

5 プラン5「生涯学習の推進」

主要施策「1 生涯学習の推進」の施策1-(1)「社会教育関係団体指導育成」、主要施策「2 図書館活動」の施策2-(4)「移動図書館の実施」、主要施策「3 文化・芸術」の施策3-(1)「市民文化祭の実施」、主要施策「4 スポーツ・レクリエーション」の施策4-(1)～(3)の各施策、主要施策「5 文化財」の施策5-(1)「指定文化財の保護」において、いずれも実効的な取り組みがなされたことで、大きな成果が得られたことと思います。しかし、そのことに甘んじることなく報告書において【主な課題】を明らかにされていることは大いに評価されることです。そして、これらの取り組みにおける計画はより実効的な取り組みが行えるように見直しを図る必要があります。そのため生涯学習部では「あきしま学びぷらん」

を令和3年度策定の「昭島市教育振興基本計画」に内包させたり、これまでのスポーツ推進計画及び子ども読書活動推進計画の成果と課題を分析・検討し新たな計画を策定されたりしました。また、文化芸術推進基本計画も新たに策定されました。さらに、策定された各計画はSDGsとの関連を明らかにし目標として掲げ取り組もうとされています。このような計画の策定及び進行管理に敬意を表するとともに、今後各計画における実行的な取り組みを期待しています。